

第179号土坑出土遺物観察表（第142図）

番号	種類	器種	口径	高さ	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
211	縄文土器	深鉢	[140]	(25.4)	—	縄文により横状把手を作出。口辺部は沈線が引かれた縄文区画文に縦・斜位の沈線文。側部は沈線及び波状沈線が重す。地文はRSの單頭文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	底面	PL40
212	縄文土器	浅鉢	—	(8.0)	—	縄文区画による口辺部文様帶に斜筋沈線が沿う。縄文区画文は連続して横状把手を作出。縫合無文。	長石・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	内外両研磨

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q106	磨石	115	82	60	7042	安山岩	全側面を使用。表面1孔、裏面4孔。	覆土中層	
Q107	磨石	115	99	44	6203	安山岩	全側面を使用。	覆土下層	PL51

第181号土坑（第143～146図）

位置 調査区中央部の平坦部、土坑群中のC3a7区に位置している。

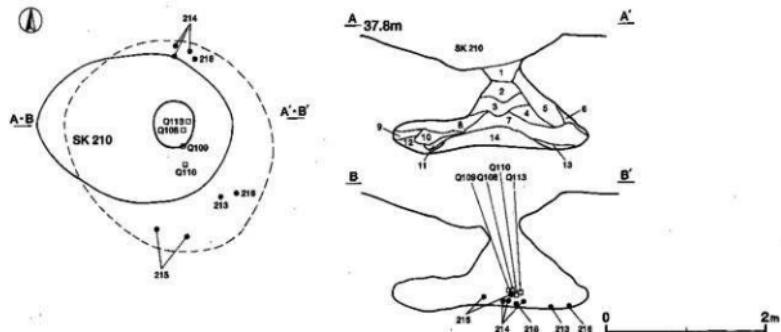
重複関係 上位を第210号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 上位を第210号土坑に掘り込まれているため開口部の様相は不明であるが、現存する括れ部直上の平面形が0.5mほどの円形を呈するフ拉斯コ状土坑である。底部はほぼ平坦で、平面形は長径2.7m、短径2.4mほどの精円形を呈している。第210号土坑の確認面からの深さは145cmほどで、壁は底面から括れ部にかけて内傾し、上位は外傾して立ち上がっている。また、底面から括れ部までの高さは80～100cmほどである。

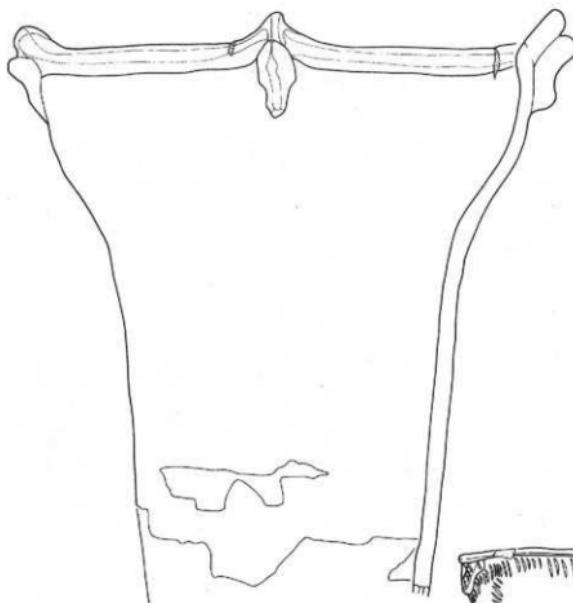
覆土 14層に分層される。黒褐色を基調としたやや繊毛のある土層である。第14層は特に固く繊まっており、ローム粒子を多く含むことから、開口部から流入したロームが踏み固められたものと考えられる。堆積状況に大きな乱れが見られないことから自然堆積と考えられる。

土層解説

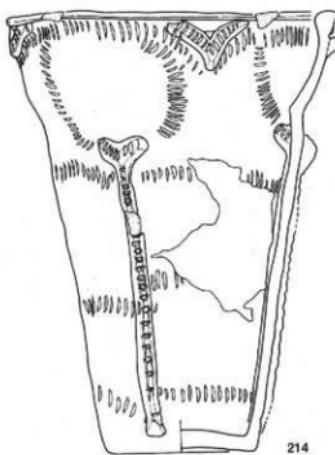
- | | | | |
|-------|------------------------|--------|----------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化物少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量 |
| 3 黒褐色 | 炭化物中量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 4 鮎褐色 | ローム粒子・炭化物少量 | 11 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 5 鮎褐色 | ローム粒子・炭化物微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 6 鮎褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量 | 13 黒褐色 | 炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 7 鮎褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量 | 14 黄色 | ローム粒子多量 |



第143図 第181号土坑実測図



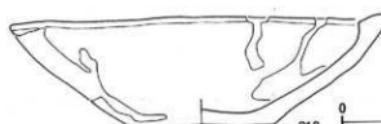
213



214



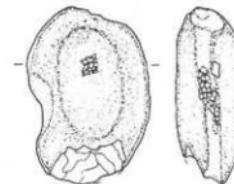
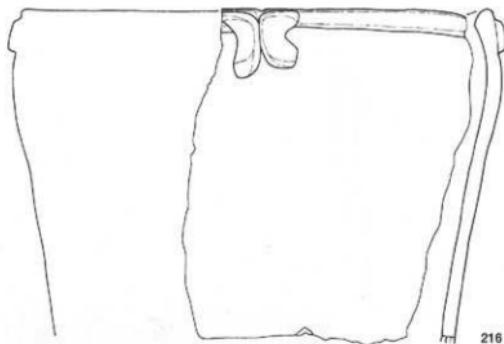
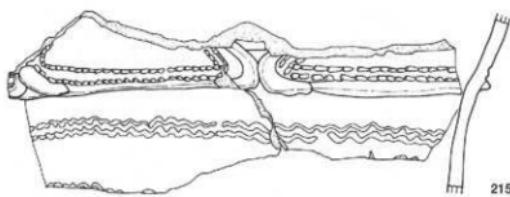
217



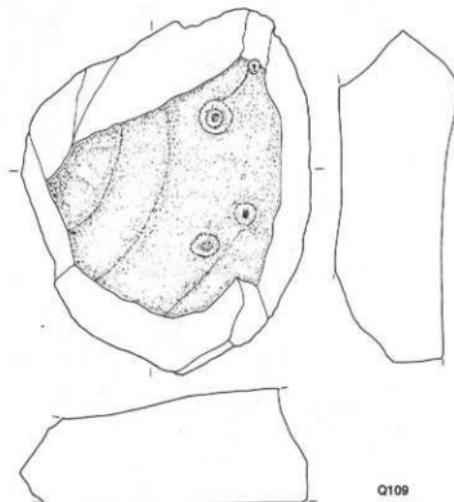
218

10cm

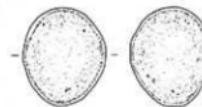
第144図 第181号土坑出土遺物実測図(1)



Q110



Q109



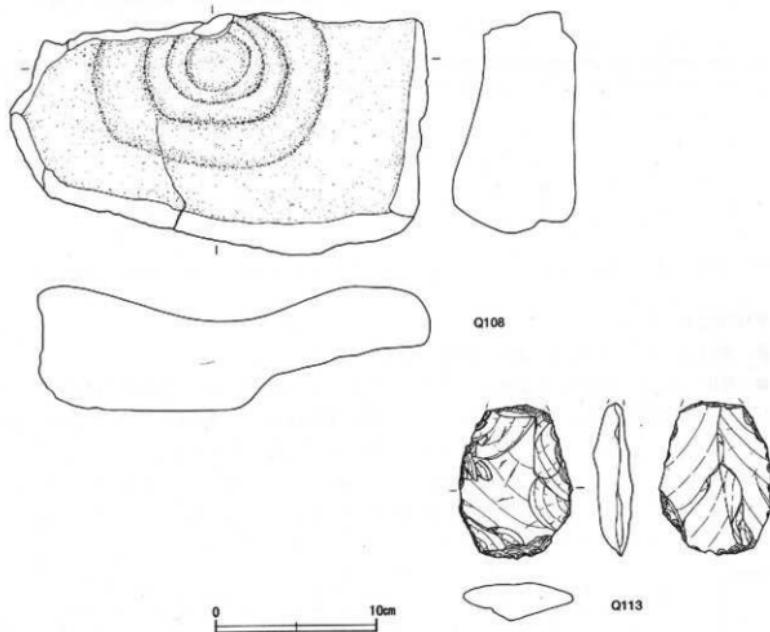
Q111



Q112

0 10cm

第145図 第181号土坑出土遺物実測図（2）



第146図 第181号土坑出土遺物実測図（3）

遺物出土状況 繩文土器片93点、石皿2点、打製石斧1点、磨石8点が出土している。遺物は覆土中に散在して出土しているが、大形の土器片は底面もしくは覆土下層の壁際寄りから出土し、石器類は中央部の覆土下層に集中している。213・216は底面から出土している。218も底面からの出土であり、その上位に逆位で崩れ掛かるような状況で214が出土している。また、215、Q108～Q110・Q113は床面から10～15cmほど浮いた位置から出土している。なお、217、Q111・Q112は覆土中からの出土である。

所見 時期は、出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。

第181号土坑出土遺物観察表（第143～146図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
213	縄文土器	深鉢	33.0	(35.8)	—	口唇部下端に陰帯が混る。底部直下に陰帯文を有する。剥離無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	底面	PL40
214	縄文土器	深鉢	19.8	27.2	9.2	口辺部に剥離を有するV字状陰帯文を貼付。剥離部から剥離を有するV字状陰帯文が残す。彫形文で文様描出。	長石・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	PL40
215	縄文土器	深鉢	—	(11.1)	—	陰帯文により口辺部文様帶に複列の結節状線が描く。腹上部は平行した波状沈継が混る。	長石・雲母	普通	にぶい赤褐色	覆土下層	
216	縄文土器	深鉢	[28.6]	(20.4)	—	口唇部下端に陰帯が混る。口辺部には対峙するC字状陰帯文を貼付。剥離無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	底面	
217	縄文土器	深鉢	—	(19.1)	9.5	剥離無文。	長石・石英・雲母	普通	褐	覆土	底部網代系

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	地土	地成	色調	出土位置	備考
218	繩文土器	浅鉢	23.1	6.6	8.7	無文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐色	底面	PL40

番号	器種	計測値			材質	特徴	地	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ					
Q108	石皿	(149)	(258)	7.6	(4533.9)	(安山岩) 表面中央が瘤む。	覆土下層	PL52	
Q109	石皿	(225)	(178)	7.5	(4019.5)	砂岩 表面が瘤く瓦状に瘤む。表面4孔。	覆土下層	PL52 全面被熱	
Q110	磨石	(108)	7.6	4.2	(4456)	安山岩 全侧面を滑面。表面及び1側面に轟打痕。	覆土下層		
Q111	磨石	6.0	5.1	4.9	1842	安山岩 全侧面を使用。	覆土		
Q112	磨石	7.8	6.7	1.8	1432	砂岩 表面及び1側面を使用。	覆土	全面被熱	
Q113	打築石斧	(83)	7.0	2.4	(1457)	砂板岩 扁平。	覆土下層	基部欠損	

第182号土坑（第147図）

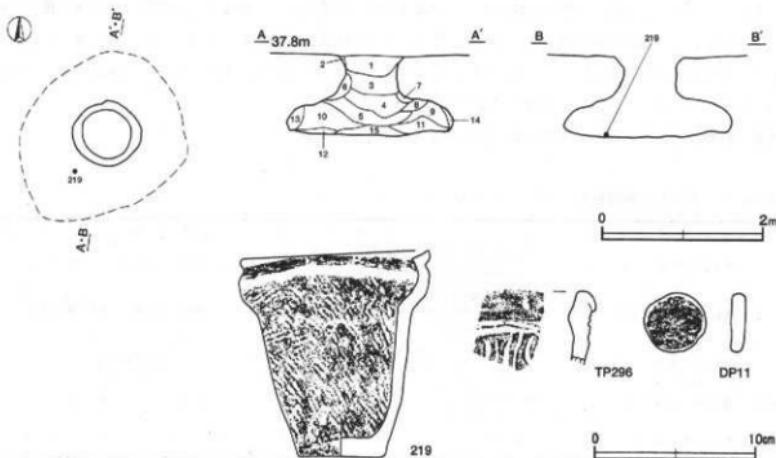
位置 調査区中央部の平坦部、土坑群中のC2f0区に位置している。

規模と形状 閉口部の平面形が径0.8mほどの円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.3m、短径1.8mほどの椭円形を呈している。深さは100cmほどで、壁は下位から大きく括れて内傾し、上位は外傾して立ち上がっている。また、底面から括れ部までの高さは60~80cmほどである。

覆土 15層に分層される。黒褐色・暗褐色を基調としたやや締まりのある土層であり、堆積状況に大きな乱れが見られないことから自然堆積と考えられる。第15層は特に固く締まっており、閉口部から流入した土砂が踏み固められたものと考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量	9 細褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量	10 黒褐色	ロームブロック・粘土粒子少量、小礫微量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	11 黑褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物・小礫・砂粒微量
4 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	12 黑褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・小礫微量	13 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子・焼土粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	14 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物・粘土粒子・小礫微量
7 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	15 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子少量、炭化粒子・小礫微量
8 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量		



第147図 第182号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 繩文土器片112点、土器円盤1点、剥片1点が出土している。遺物は覆土中に散在して出土しており、平面的な出土位置には特異な傾向は認められない。219は底面から遺棄されたような状況で出土しており、時期判断の指標となる遺物である。また、TP296、DP11は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉（阿玉台IV式期）と考えられる。

第182号土坑出土遺物観察表（第147図）

番号	種別	器種	口径	深さ	底径	文様の特徴		胎土	焼成	色調	出土位置	備考
						長径	短径					
219	縄文土器	深鉢	11.5	12.6	5.2	口唇部肥厚。Lの無節純文を軸方向に施文。		長石・石英・雲母	普通	性	底面	PL40
TP296	縄文土器	深鉢	—	(4.4)	—	LII唇部下端に幾帯が通り、縫帶には半截竹管による平行沈籠が沿う。口辺部は腹縫の沈籠文。		長石・石英・雲母	普通	にぼい模	覆土下層	
DP11	土器円盤	—	3.6	3.8	0.8	15.1	長石・石英・雲母、灰褐色	灰褐色部瓦解り後研磨。無文。			覆土下層	PL48

第184号土坑（第148・149図）

位置 調査区中央部の平坦部、土坑群中のC2c9区に位置している。

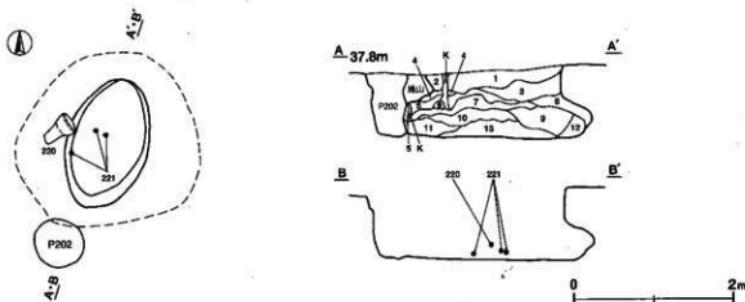
重複関係 第202号ピットに掘り込まれている。

規模と形状 閉口部の平面形が長径1.6m、短径1.0mほどの橢円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で、平面形は径2.2mほどの円形を呈している。深さは88cmほどで、壁は下位から大きく括れて内傾し、上位は直立もしくは外傾して立ち上がっている。また、底面から括れ部までの高さは50~60cmほどである。

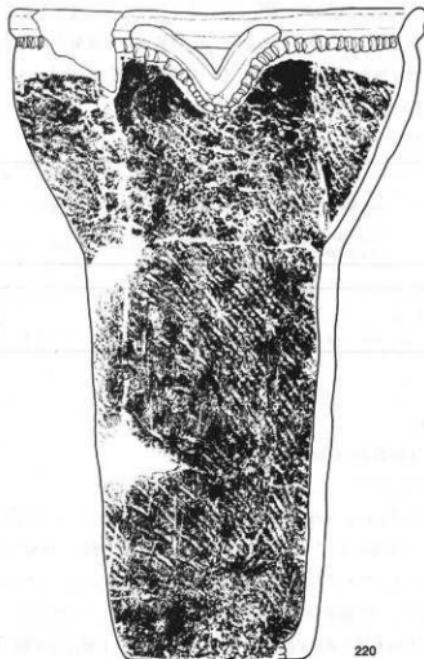
覆土 13層に分層される。全体的にやや締まりのある土層であり、第6層より下層にはローム及び粘土がブロック状に混入していることから人為堆積と考えられる。また、第5層より上層には含有物が少なく、堆積状況に乱れが見られないことなどから自然堆積と考えられる。

土層解説

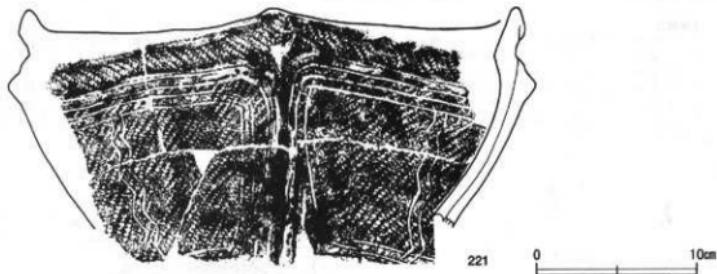
- | | | | |
|-------|---------------------------|----------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・泥土ブロック微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 短褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 9 ない青褐色 | 粘土ブロック多量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黑褐色 | ロームブロック少量、燒土粒子・炭化物微量 | 10 ない青褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 黑褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 11 灰褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 5 黑褐色 | ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量 | 12 ない青褐色 | 粘土粒子多量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 6 短褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量 | 13 開白色 | ロームブロック多量、炭化物・粘土粒子微量 |
| 7 灰褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量 | | |



第148図 第184号土坑実測図



220



221

0 10cm

第149図 第184号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 横文土器片176点が出土している。土器片は覆土中層以下から多く出土しており、廃絶後の埋め戻しに伴って廃棄されたものと考えられる。220は覆土下層の北西壁際寄りから廃棄されたような状況で出土しており、時期判断の指標となる遺物である。また、221は中央部の床面から5~10cmほど浮いた位置から出土した破片が接合したものであり、220と併せて一括廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期）と考えられる。

第184号土坑出土遺物観察表（第149図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
220	縄文土器	深鉢	25.4	39.8	[107]	口唇部肥厚。口辺部にV字状幾重文を附け、肥厚した口唇部及びV字状幾重文には結節沈線が沿う。腹部はL字形節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	覆土下層	PL12
221	縄文土器	深鉢	[302]	(133)	—	口唇部下端に陰帯が高る。波状底部からY字状幾重文が垂下。陰帯文には半截竹管による平行沈線が沿う。肩上部には波状沈線文が垂下。地文はE字の単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	覆土下層	

第191号土坑（第150・151図）

位置 調査区中央部の平坦部、土坑群中のC2f9区に位置している。

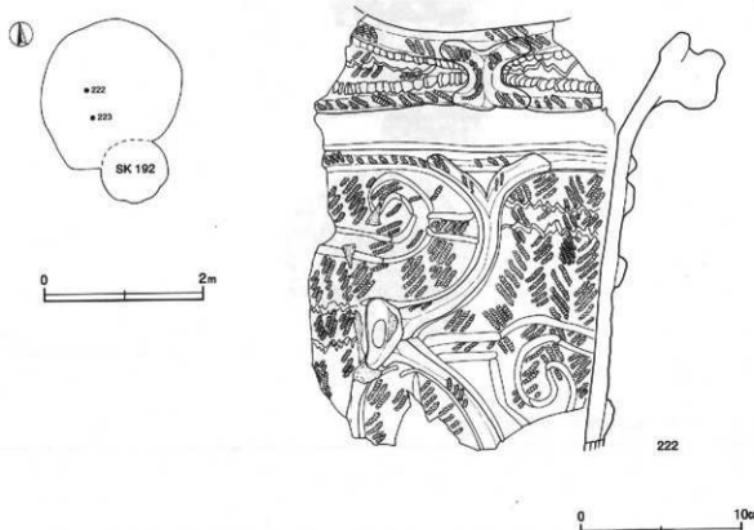
確認状況 遺構確認を行っている際、確認面から2個体の土器が出土した。土器の周囲は地山とは色調が異なる暗褐色土が円形に確認できた。そこには掘り込みは認められないことから、土坑の底面にあたると判断した。

重複関係 第192号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

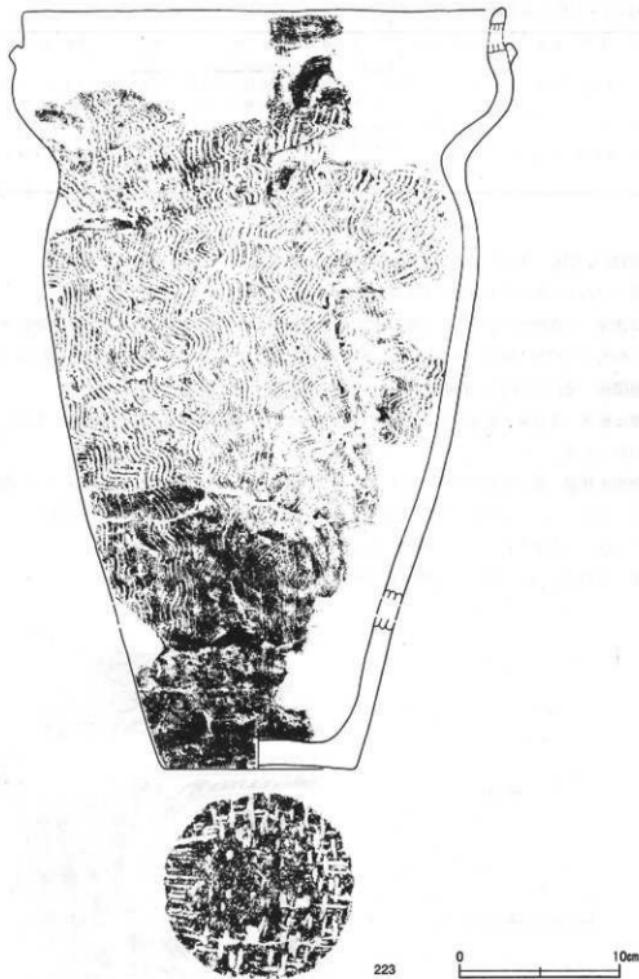
規模と形状 確認面が底面であったため判然としないが、残存する底面の平面形は、長径2.0m、短径1.7mの橢円形である。

遺物出土状況 縄文土器片85点が出土している。抽出・図示した222・223を除きすべてが細片で、遺構確認作業時に出土したものである。222・223はいずれも横位で出土し、一部重なる部分もあることから、本跡の廃絶時に一括して廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第150図 第191号土坑・出土遺物実測図



第151図 第191号土坑出土遺物実測図

第191号土坑出土遺物観察表（第150・151図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成色	出土地点	備考
222	绳文土器	深鉢	—	(26.7)	—	口沿部は結節沈堆が沿う縦帶区画内に横位の後状沈線文。腹部は沈堆が沿う疊帯文。地文はR.L及びL.Rの單距圓文。	長石・石英・雲母	普通	にせい場	裏面

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
223	縄文土器	深鉢	[33.0]	[46.5]	12.0	V字状縦溝文を付す。口辺部から側部は横彎曲状文。	長石・石英・雲母	普通	黒	底面	底部断面

第194号土坑（第152図）

位置 調査区中央部の平坦部、土坑群の外縁部にあたるB3i6区に位置している。

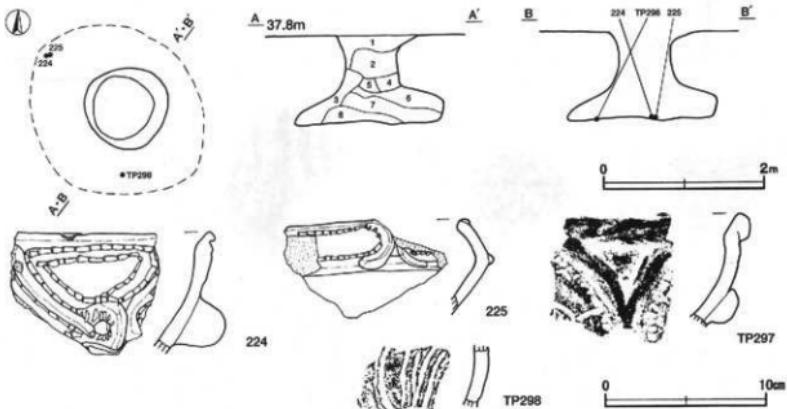
規模と形状 開口部の平面形が径1.0mほどの円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.4m、短径2.1mほどの椭円形を呈している。深さは110cmほどで、壁は下位から大きく括れて内傾し、上位は概ね外傾し、北東側の最上位は皿状に立ち上がっている。また、底面から括れ部までの高さは50~65cmほどである。覆土 8層に分層される。黒褐色を基調とし、第1層を除いて跡より弱い覆土である。第8層に多く含まれる炭化物は、廃絶時もしくは廃絶後に投げ込まれたものと考えられ、また不規則な堆積状況が見られることなどから土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	炭化物少量、ローム粒子・燒土ブロック微量	5 褐色	ロームブロック少量、燒土ブロック微量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量	6 黒褐色	燒土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量
3 褐褐色	ロームブロック・炭化物少量、燒土粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック・燒土ブロック・炭化物微量
4 黑褐色	ロームブロック微量	8 黒褐色	炭化物中量、燒土ブロック少量、ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器46点、磨石5点が出土している。224・225、TP298は壁際の底面から出土しており、本跡の廃絶時に廃棄されたものと考えられ、時期判断の指標となる遺物である。また、TP297は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。



第152図 第194号土坑・出土遺物実測図

第194号土坑出土遺物観察表（第152図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
224	縄文土器	深鉢	—	(73)	—	縫合区画による口辺部文様帶に横彎曲工具による平行した施劃溝文が沿う。口辺部下段に削みを有する櫛部によって把手を作出。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色	底面	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成色調	出土位置	備考
225	織文土器	鉢	—	(58)	—	縁部区段による口沿部文様帶に結節沈痕が沿う。腹部無文。	良石・雲母	普通	にぶい黄褐色	底面
TP297	織文土器	深鉢	—	(69)	—	口唇部下端に斜面がある。口沿部はV字状隆起文に結節沈痕が沿う。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	覆土下層
TP298	縄文土器	深鉢	—	(38)	—	結節沈痕及び沈線により文様推出。	良石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	底面

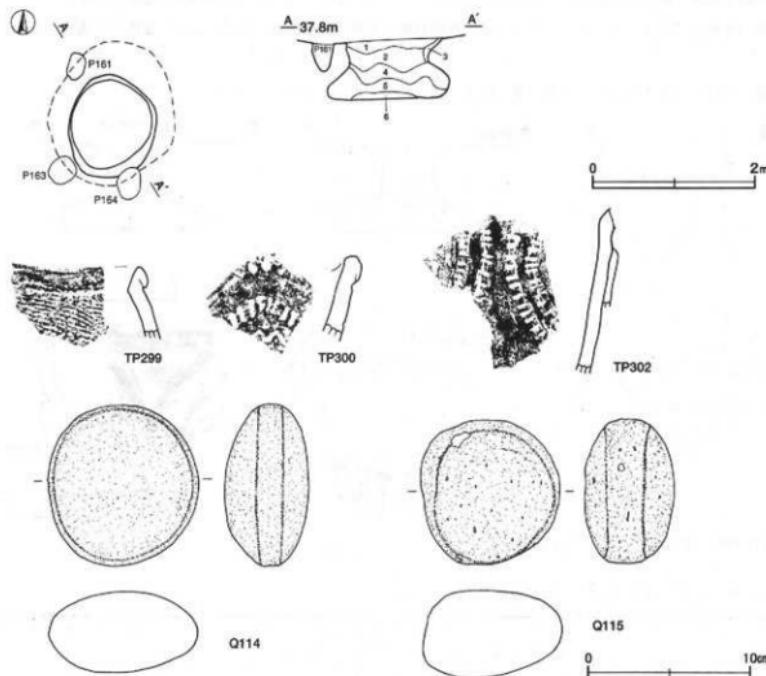
第195号土坑（第153図）

位置 調査区中央部の平坦部、土坑群中のB3j5区に位置している。

重複関係 第164号ピットに掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形が径1.2mほどの円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径1.8m、短径1.6mほどの橢円形を呈している。深さは75cmほどで、壁は下位から括れ部にかけて内傾し、上位は外傾もしくは緩やかな頸斜をもって立ち上がっている。また、底面から括れ部までの高さは50cmほどである。

覆土 6層に分層される。全体的にやや縮まりのある土層であり、堆積状況に乱れが見られないことから自然堆積と考えられる。また、第6層はロームブロックを多く含み、特に固く締まっていることから、開口部から流入したロームが踏み固められたものと考えられる。



第153図 第195号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
 2 極めて褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
 3 褐色 ロームブロック中量

- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量・炭化物微量
 5 極めて褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量
 6 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 織文土器片46点、磨石5点が出土している。土器片は覆土中に散在して出土しており、平面的な出土位置には特異な傾向は認められない。TP299・TP302は覆土下層から出土しており、時期決定の指標となる遺物である。また、TP300、Q114・Q115は覆土中からの出土である。

所見 時期は、出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。

第195号土坑出土遺物観察表（第153図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土状況	備考
TP299	織文土器	深鉢	—	(45)	—	口唇部下端に縞模様がある。口沿部はしの無筋 縞文を斜方向に施す。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土下層	
TP300	織文土器	深鉢	—	(52)	—	波紋部に斜縞文を有する。肥厚した口唇部下 端に結節状縞が通る。横枝の山形沈線文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土	
TP302	織文土器	深鉢	—	(10.1)	—	縞模様による網状文様帶に輪節状縞が沿う。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土下層	

番号	器種	計測面積	材質	特徴	出土位置	備考			
Q114	磨石	9.8	9.3	5.1	594.6	安山谷	全側面を使用。	PL51	
Q115	磨石	8.8	8.6	5.5	546.1	安山谷	全側面を使用。	覆土	

第202号土坑（第154～156図）

位置 調査区西部の平坦部、方形周溝墓群内のC2d7区に位置している。

重複関係 第203号土坑を掘り込んでいる。また、出土土器から第7号住居よりも古い。

規模と形状 平面形は長径2.4m、短径2.0mほどの梢円形で、深さは60cmほどである。底面はほぼ平坦で、北・西壁は内傾し、南・東壁は外傾して立ち上がっている。壁が外傾する部分は他造構と重複している箇所であり、開口部の一部が崩落したことも想定され、土坑機能時にはフラスコ状を呈していたと推定される。

覆土 6層に分層される。暗褐色を基調としたやや緑色の覆土であり、全層にロームブロック・粒子が多めに含まれていることから人為堆積と考えられる。

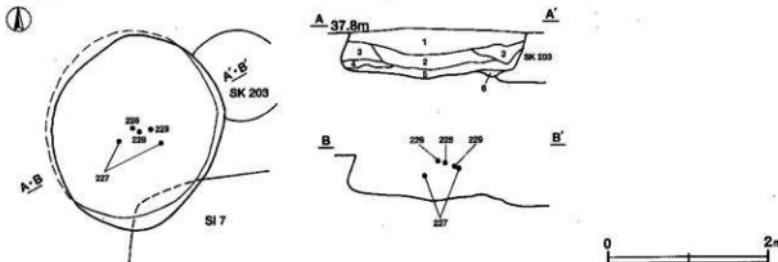
土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ロームブロック・炭化粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
 3 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

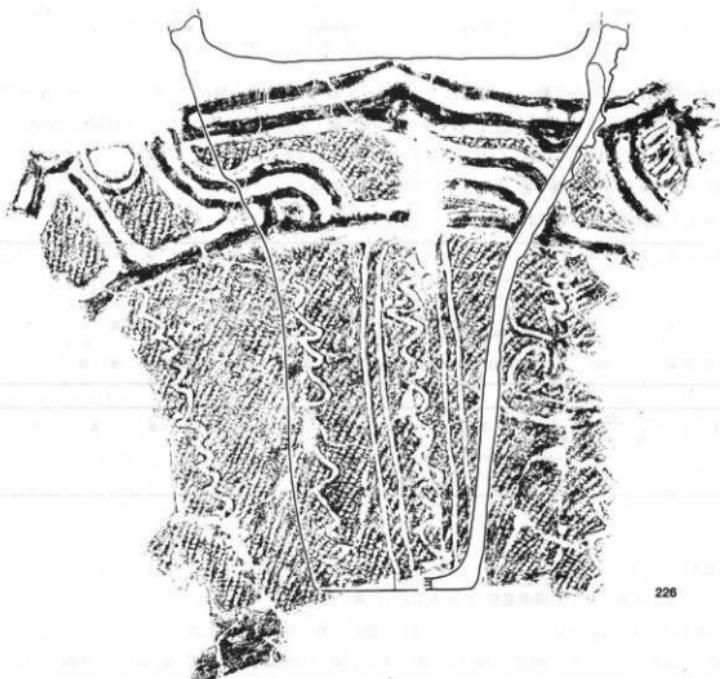
- 4 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

- 5 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

- 6 褐色 ロームブロック少量



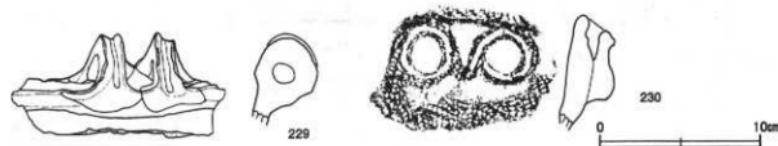
第154図 第202号土坑実測図



226



228

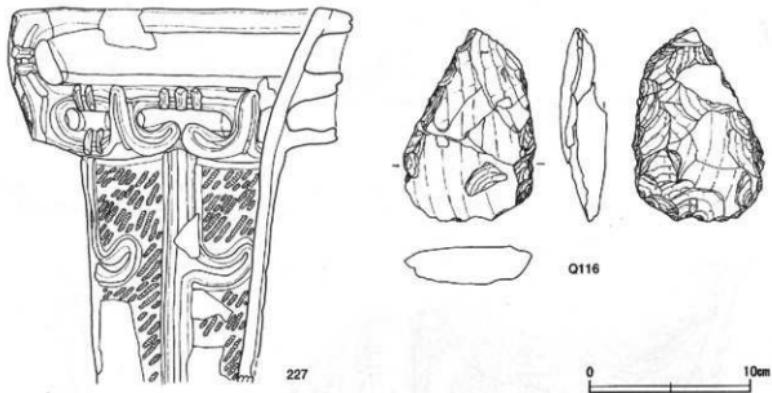


229

230

0 10cm

第155図 第202号土坑出土遺物実測図（1）



第156図 第202号土坑出土遺物実測図（2）

遺物出土状況 繩文土器片222点、石皿1点、打製石斧1点、磨石3点のほか、流れ込みによる土器片2点が出土している。226～229は中央部の覆土上層から折り重なって出土しており、廃絶後の埋め戻しに伴って一括して廃棄されたものと考えられる。また、Q116は覆土上層、230は覆土中からの出土である。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。

第202号土坑出土遺物観察表（第155・156図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴		胎土	焼成	色調	出土位置	備考
						沈縫を有する縁帯区画による口部文様等に沈縫が沿う。両側内はL.Rの単節縄文を施すとし縫割はR.Lの単節縄文を施す。	平行沈縫と波状沈縫を施す。					
226	縩文土器	深鉢	248	(354)	[97]			長石・雲母・赤色 粒子	普通	灰褐色 にぶい褐色	覆土上層	PL41
227	縩文土器	深鉢	[165]	(228)	—	沈縫を有する縁帯により横状把手を作出。縁帯上の沈縫を横断して棒状貼付文を付す。側部は縫割の平地文はR.Lの単節縄文。		長石・雲母	普通	にぶい褐色	覆土上層	PL41
228	縩文土器	深鉢	[294]	(128)	—	沈縫を有する縁帯区画による口部文様等に沈縫が沿う。両側内はL.Rの単節縄文を施すとし縫割はR.Lの単節縄文。		長石・石英	普通	にぶい褐色	覆土上層	
229	縩文土器	深鉢	—	(55)	—	口部部に3つの縁帯があり、両端の縁帯を横状把手で被す。		長石・雲母	普通	にぶい赤褐色	覆土上層	PL46
230	縩文土器	深鉢	—	(71)	—	沈縫を有する縁帯文によりフクロウ意匠の把手を作出。一方の円形縁帯文の中央は貫通孔を有す。把手上面は円形貼付文で加飾。R.Lの単節縄文を施す。		長石・石英・雲母	普通	灰褐色	覆土上	PL46

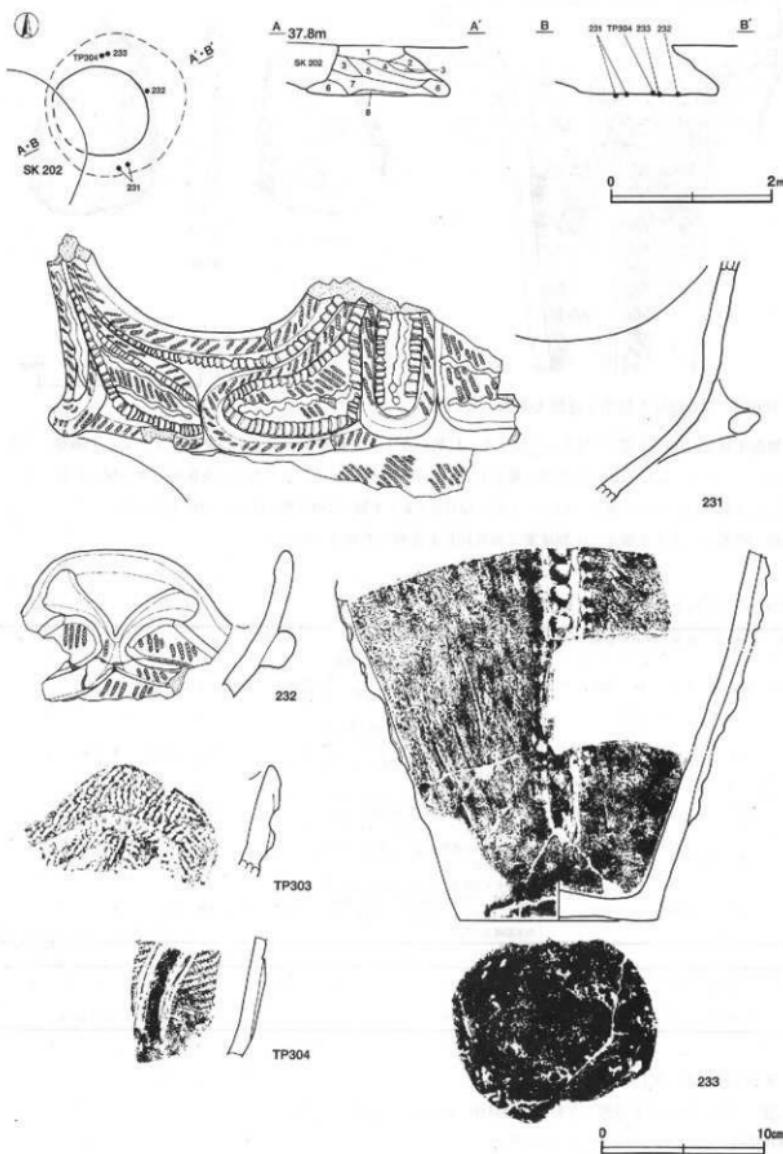
番号	器種	計測値				材質	特徴	焼成	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量					
Q116	打製石斧	118	8.0	2.8	(2516)	熱板岩	想		覆土上層	PL49 基部欠損

第203号土坑（第157図）

位置 調査区西部の平坦部、方形周溝墓群中のC2d8区に位置している。

重複関係 第202号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第202号土坑に西壁の一部を掘り込まれているため判然としないが、開口部の平面形が径1.2mほ



第157図 第203号土坑・出土遺物実測図

どの円形と推定されるフ拉斯コ状土坑である。底面はほぼ平坦で、平面形は径1.7mほどの円形を呈している。深さは60cmほどで、壁は下位から括れ部にあたる確認面直下まで内傾し、上位は削平のため不明である。

覆土 8層に分層される。暗褐色を基調としたやや締まりのある土層であり、堆積状況に大きな乱れが見られないことから、西側からの土砂の流入による自然堆積と考えられる。また、第8層はロームブロックを含み、特に固く締まっていることから、開口部から流入したロームが踏み固められたものと考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	5 黒褐色	ローム粒子・炭化物少量、粘土粒子微量
2 緑褐色	ロームブロック・炭化物少量	6 緑褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
3 緑褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	7 緑褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
4 緑褐色	ローム粒子少量、炭化物微量	8 緑褐色	ロームブロック中量、炭化物微量

遺物出土状況 繩文土器片152点が出土している。土器片は覆土中に散在している。231～233及びTP304は壁際寄りの底面から出土しており、時期判断の指標となる遺物である。また、TP303は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。

第203号土坑出土遺物観察表（第157図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	地	土	焼成	色調	出土位置	備考
231	縄文土器	漆鉢	一	(145)	一	幾帯区間にによる口辺部文様帶に結節沈痕が沿う。区帶内には波状凹線文を施す。底頂部から剥離するときの痕跡は口辺部区間文下端で横状把手をなす。地文はLRの單繩彫文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	底面		
232	縄文土器	漆鉢	一	(80)	一	幾帯区間にによる口辺部文様帶に沈痕が沿う。R1の單繩彫文を施す。	長石・石英・雲母	普通	褐	底面		
233	縄文土器	漆鉢	一	(224)	[123]	押正文を有する唇部が垂下し、底には半載竹筋による結節沈痕が沿う。地文はLの無筋彫文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	底面	底部焼成	
TP303	縄文土器	漆鉢	一	68	一	幾帯区間にによる口辺部文様帶に結節沈痕が沿う。LRの單繩彫文を施す。	長石・石英・雲母	普通	褐	覆土下層		
TP304	縄文土器	漆鉢	一	(74)	一	唇部が垂下し、底面には半載竹筋による平行沈痕が沿う。地文はRLの單繩彫文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	底面		

第205号土坑（第158図）

位置 調査区西部の平坦部、方形周溝墓群中のC2e6区に位置している。

重複関係 第204・206号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形が径0.9mほどの円形を呈するフ拉斯コ状土坑である。底面はほぼ平坦で、平面形は径1.6mほどの円形を呈している。深さは40cmほどで、壁は下位から大きく括れて内傾している。確認面が括れ部にあたると考えられる。

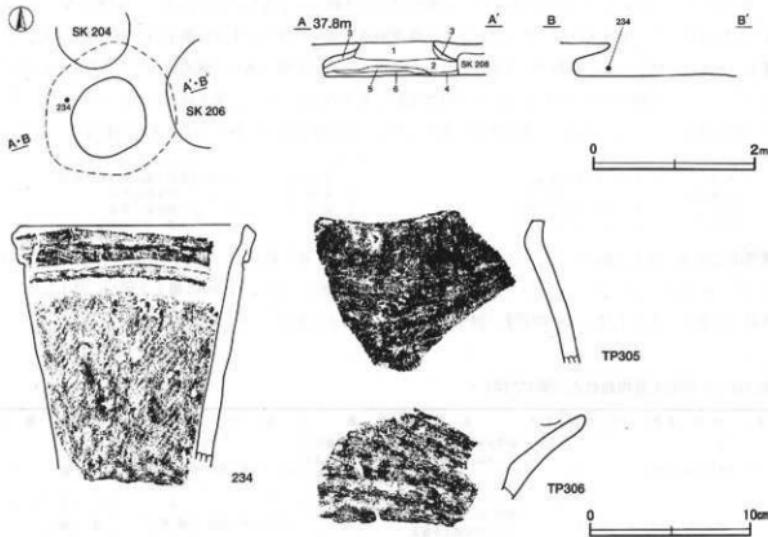
覆土 6層に分層される。暗褐色を基調としたやや締まりのある土層であり、堆積状況に乱れが見られないことから自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	4 緑褐色	ロームブロック少量
2 緑褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	5 緑褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 緑褐色	ロームブロック少量	6 緑褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 繩文土器片55点が出土している。土器片は覆土中に散在して出土しており、平面的な出土位置には特異な傾向は認められない。234は覆土下層から出土しており、時期判断の指標となる遺物である。また、TP305・TP306は覆土中からの出土である。

所見 時期は、出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期）と考えられる。



第158図 第205号土坑・出土遺物実測図

第205号土坑出土遺物観察表（第158図）

番号	種別	器種	口径	器高	底様	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
234	縄文土器	深鉢	[140]	(145)	—	口唇部下端に沈線を有する幅広の縁帶が温る。底面上にはLの無節縄文を施文。剥部はR Lの半節縄文を偏方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にい焼	覆下層	
TP305	縄文土器	深鉢	—	(87)	—	無文。	長石・石英・雲母	普通	灰黒	覆土	
TP306	縄文土器	浅鉢	—	(50)	—	無文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土	内外面研磨

第207号土坑（第159図）

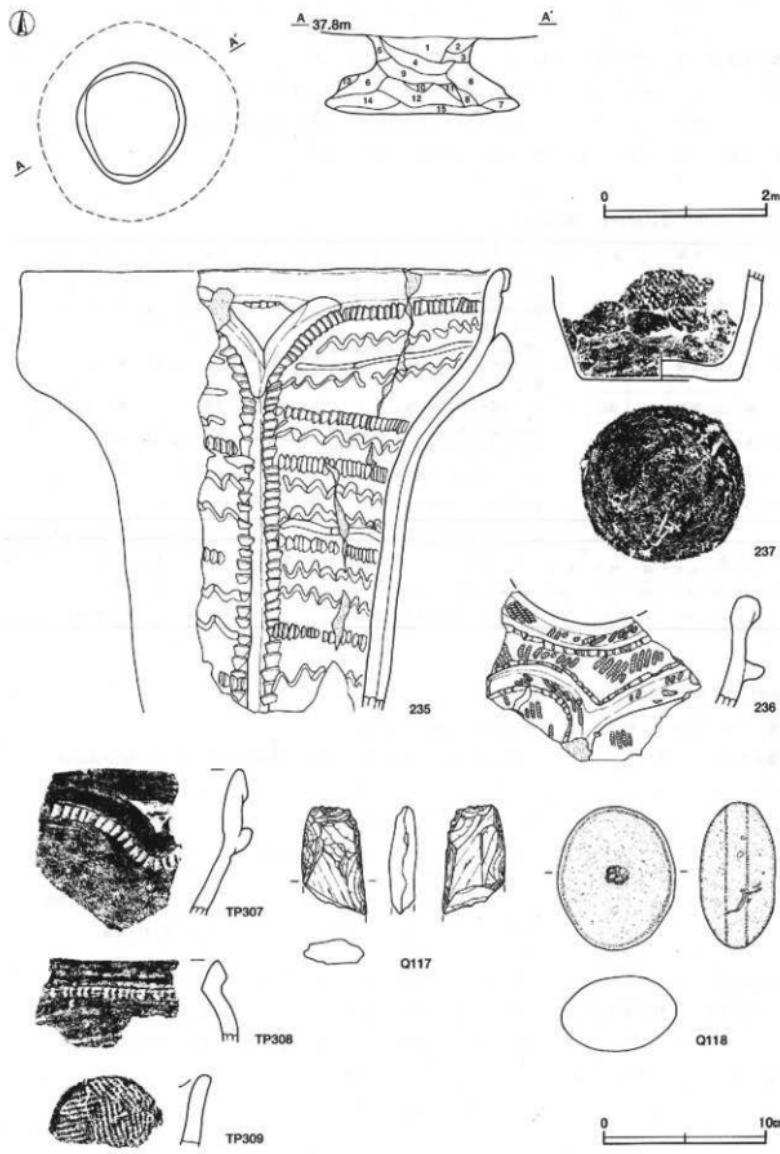
位置 調査区西部の平坦部。方形周溝墓群中のC2d5区に位置している。

規模と形状 開口部の平面形が径1.3mほどの円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で、平面形は径2.2mほどの円形を呈している。深さは95cmほどで、壁は下位から大きく括れて内傾し、上位は外傾して立ち上がっている。また、底面から括れ部までの高さは60cmほどである。

覆土 15層に分層される。全体的にやや縮まりのある土層であり、ほぼ全層にロームがブロック状に含まれ、炭化物も相当量含まれていることや不規則な堆積状況を示していることなどから土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-----------------------|----|------|-------------------------|
| 1 | 褐褐色 | ロームブロック・燒土粒子・炭化物少量 | 6 | 暗褐色 | ロームブロック中量・炭化粒子少量 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子中量 | 7 | 褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 | 褐色 | ロームブロック中量 | 8 | 褐色 | ローム粒子中量・炭化物少量 |
| 4 | 暗褐色 | ロームブロック中量・燒土粒子・炭化物少量 | 9 | 褐色 | ロームブロック中量・燒土ブロック・炭化粒子少量 |
| 5 | 褐色 | ロームブロック中量・燒土粒子・炭化粒子微量 | 10 | にい褐色 | ローム粒子中量・炭化物微量 |



第159図 第207号土坑・出土遺物実測図

11 明褐色 ロームブロック多量 底土粒子・炭化物中量	13 暗褐色 ロームブロック中量 底土粒子少量
12 暗褐色 底土粒子・炭化物中量、粘土ブロック少量、ローム粒子微量	14 暗褐色 ローム粒子中量、底土粒子少量

遺物出土状況 繩文土器片64点、打製石斧2点、磨石4点が出土している。ほとんどの土器が細片で、覆土下層に集中しており、平面的な位置には特異な傾向は認められない。

235 Q117は底面から出土しており、時期判断の指標となる遺物である。また、237は覆土下層、236、TP307～TP309及びQ118は覆土中からの出土である。

所見 時期は、出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。

第207号土坑出土遺物観察表（第159図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
235	繩文土器	漆鉢	(29.8)	(27.2)	—	口唇部下端に縞帯が温る。口辺部から腹部にかけて結節沈縞が沿うY字状縞文が垂下し、縞文部は横紋の北縞・波状沈縞・結節沈縞により文様複合。	長石・石英・雲母 普通	灰褐色 にぶい赤褐色	底面		
236	繩文土器	漆鉢	—	(10.3)	—	縞文区隔による口辺部文帶帯に結節沈縞が沿う。区隔内及び縞带上にはしRの单筋縞文を施文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	にぶい橙	覆土	
237	繩文土器	漆鉢	—	(6.7)	9.8	L.Rの单筋縞文を複数方向に施文。	長石・雲母	普通	橙	覆土下層	
TP307	繩文土器	漆鉢	—	(9.0)	—	口唇部下端に縞帯が温る。口辺部は結節沈縞が沿うY字状縞文を貼付。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	覆土	
TP308	繩文土器	漆鉢	—	(5.0)	—	肥厚した口唇部下端に結節沈縞が沿う。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	覆土	
TP309	繩文土器	漆鉢	—	(4.3)	—	把手部はL.Rの单筋縞文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土	

番号	器種	計測値			材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ				
Q117	打製石斧	(6.5)	(3.9)	1.7	(49.9)	粘板岩 腹型。	底面	刃部欠損
Q118	磨石	8.8	7.3	4.6	323.0	安山岩 全側面を使用。表面1孔。	覆土	PL51 被熱痕あり

第213号土坑（第160・161図）

位置 調査区西部の平坦部、方形周溝墓群中のC2h6区に位置している。

規模と形状 平面形は径1.4mほどの円形で、深さは80cmほどである。底面はほぼ平坦で、壁がほぼ直立する円筒状の土坑である。

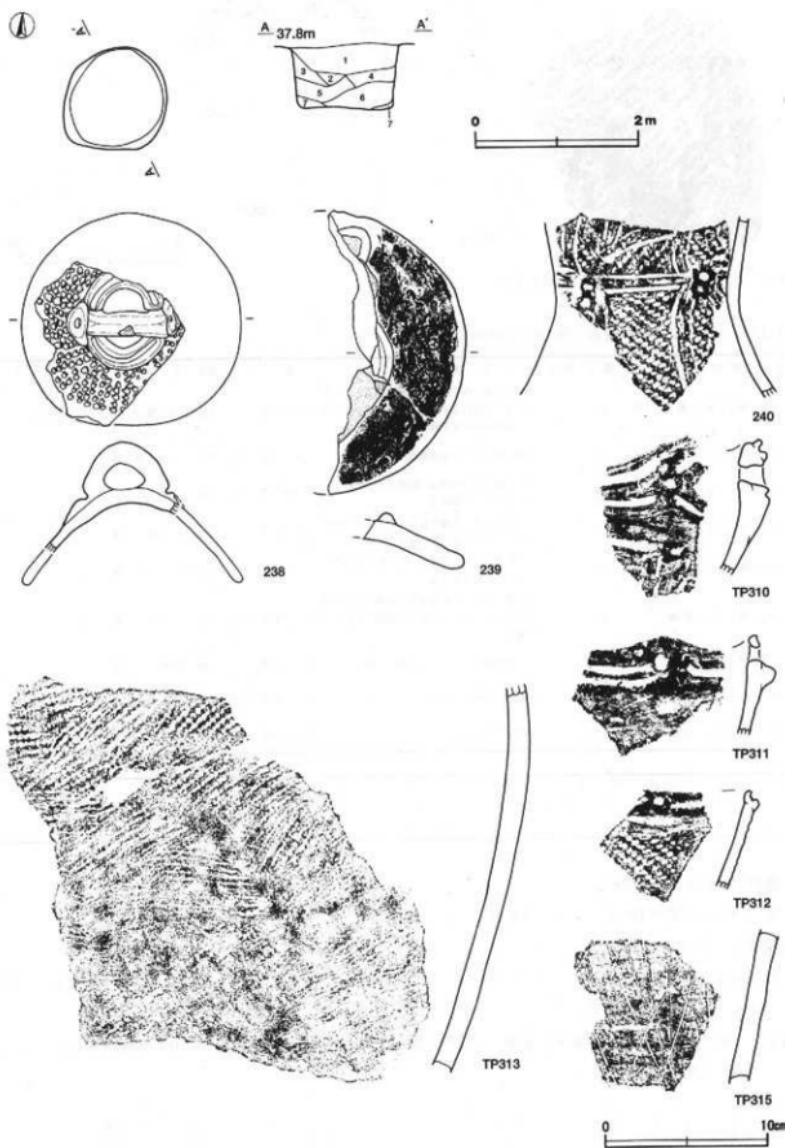
覆土 7層に分層される。全体的にやや締まりのある土層であり、ロームがブロック状に含まれる不規則な堆積状況を示していることや覆土中の土器に時期差が認められることなどから人為堆積と考えられる。

土層解説

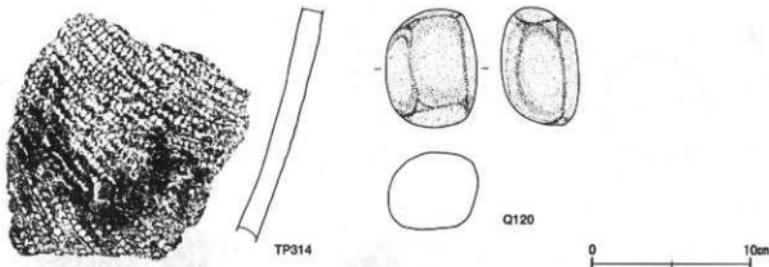
1 黒褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量	5 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量	6 暗褐色 ロームブロック少量、粘土粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	7 暗褐色 ロームブロック中量、粘土粒子微量
4 黑褐色 ロームブロック少量、粘土粒子・炭化粒子微量	

遺物出土状況 繩文土器片162点、打製石斧1点、磨石3点、剥片1点が出土している。土器片は覆土中に散在して出土しており、平面的な出土位置には特異な傾向は認められないことから廃絶後の埋め戻しに伴って廃棄されたものと考えられる。また、抽出・図示した遺物は、いずれも覆土中から出土したものである。

所見 時期は、出土土器から後期前葉（堀之内1式期）と考えられる。



第160図 第213号土坑・出土遺物実測図



第161図 第213号土坑出土遺物実測図

第213号土坑出土遺物観察表（第160・161図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
238	純文土器	壺	[13.1]	[8.6]	—	腹部は沈縫を有する縦帶が環状に巡る。1対のボタン状貼付文を起点として把手を作出。蓋部は突刃式を施す。	長石・石英	普通	に赤褐色	覆土	PL44
239	純文土器	壺	(6.3)	(3.4)	—	外面は縦帶により文様捺出。	長石・石英・雲母	普通	に赤褐色	覆土	
240	純文土器	壺	—	(11.0)	—	平行沈線による区画文。頸部に8字状貼付文。地文はL Rの単節繩文。	長石・石英・雲母	普通	に赤褐色	覆土	
TP310	純文土器	深鉢	—	(8.2)	—	円形網目文及び縦帯を有する縦帶により把手を作出。口部及び胴上部は沈縫文。	長石・石英	普通	に赤褐色	覆土	
TP311	純文土器	深鉢	—	(6.1)	—	円形網目文を有する縦帶により把手を作出。口部は沈縫文が巡る。	長石・石英	普通	褐色	覆土	
TP312	純文土器	深鉢	—	(6.1)	—	口唇部下端に円形網目文及び縦帯を有する縦帶が巡る。口辺部はL Rの単節繩文を縱方向に施す。	長石・石英・雲母	普通	に赤褐色	覆土	
TP313	純文土器	深鉢	—	(23.8)	—	Lの無跡繩文とL Rの単節繩文を施す。	長石・石英	普通	明赤褐色	覆土	
TP314	純文土器	深鉢	—	(14.5)	—	R Lの単節繩文を施す。	長石・石英・雲母	普通	に赤褐色	覆土	
TP315	純文土器	深鉢	—	(9.4)	—	条線による斜格子文。	長石・石英	普通	に赤褐色	覆土	

番号	器種	計測値			材質	特徴	出土位置	備考
		大きさ	幅	厚さ				
Q120	磨石	72	57	49	281.2	安山岩 全側面を使用。	覆土	

第215号土坑（第162図）

位置 調査区西部の平坦部、方形周溝墓群中のC2h5区に位置している。

重複関係 第193号ピットに掘り込まれている。

規模と形状 平面形は長径1.8m、短径1.3mほどの橢円形で、深さは65cmほどである。底面はほぼ平坦で、壁がほぼ直立する円筒状の土坑である。

覆土 5層に分層される。暗褐色を基調としたやや締まりのある覆土であり、レンズ状の堆積状況を示したことから自然堆積と考えられる。

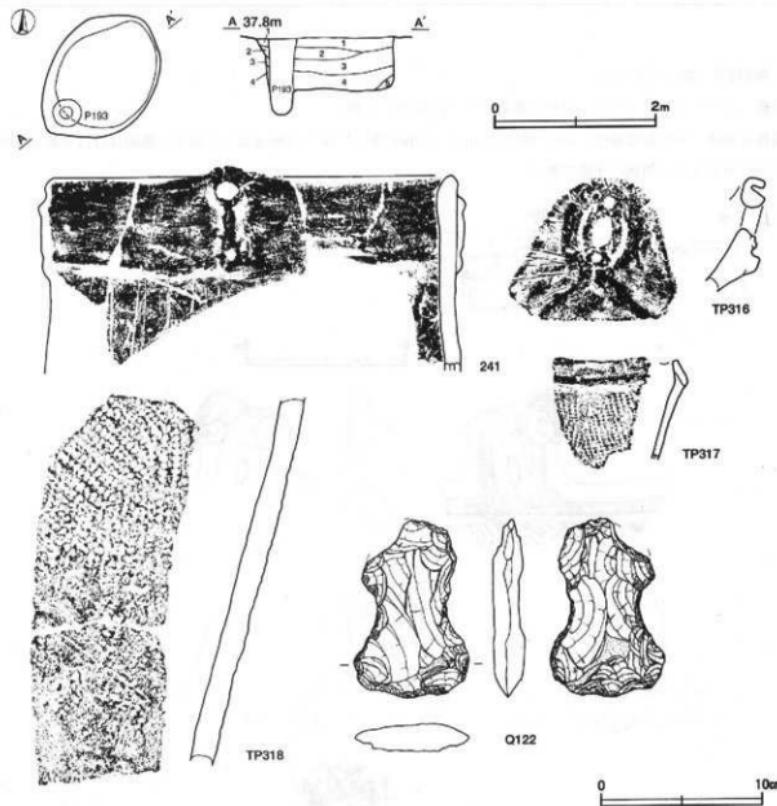
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

- 4 増褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 増褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 繩文土器片113点、打製石斧1点が出土している。土器片の大多数が細片で、覆土中に散在して出土しており、平面的な出土位置には特異な傾向は認められない。抽出・図示した遺物はいずれも覆土中からの出土である。

所見 出土土器が細片であり、覆土中からの出土のため判然としないが、後期前葉のものと考えられる241を含めて大多数の土器に明確な時期差が認められることや形状が円筒状を呈していること、近接して該期の土坑が位置していることなどから、時期は後期前葉（称名寺2式期）以前と考えられる。



第162図 第215号土坑・出土遺物実測図

第215号土坑出土遺物観察表（第162図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
241	縄文土器	深鉢	[246]	(119)	—	口辺部無文帶の下層を陰帯で区画し、無文帶部に籠目状の陰文を貼付。腹部は施文の条記載。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土	
TP316	縄文土器	深鉢	—	(70)	—	円形刺突文及び沈線を有するO字状の陰文により把手を作削。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土	

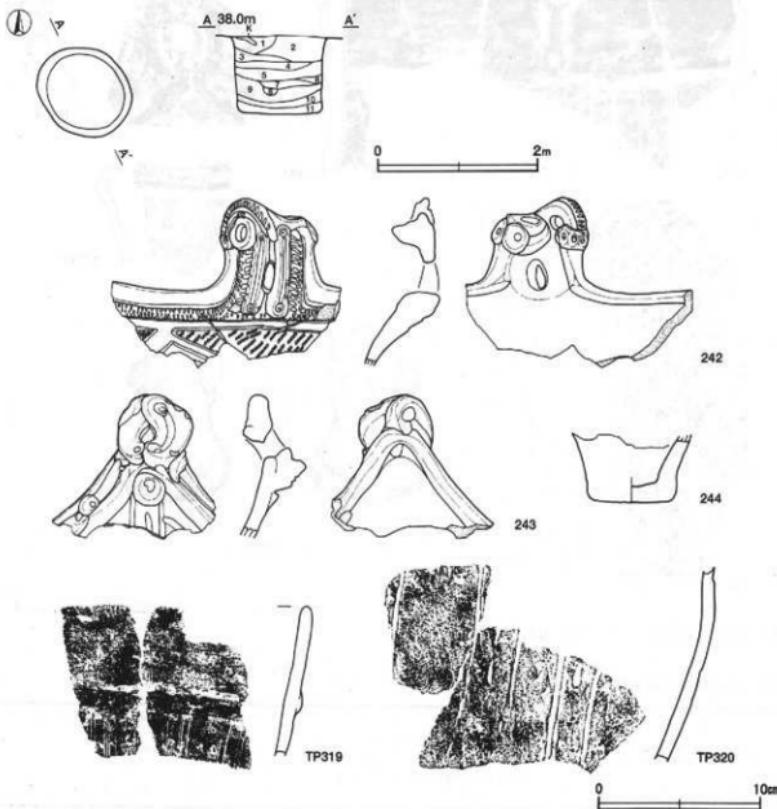
番号	種別	器種	口径	高さ	底径	文様の特徴	胎土	焼成色調	出土位置	備考
TP317	繩文土器	深鉢	—	(6.1)	—	口唇部肥厚。口沿部はL.Rの単節繩文を施す。	長石・石英	普通	橙	覆土
TP318	绳文土器	深鉢	—	(22.6)	—	R.Lの単節繩文を施す。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土

番号	器種	計測値			材質	特徴	出土位置	備考	
		長さ	幅	厚さ					
Q122	打製石斧	(108)	7.1	2.0	(1321)	軽板岩	分離型。抉入部は浅い。	覆土	PL49 刀部一部欠損

第219号土坑（第163図）

位置 調査区西部の平坦部、方形周溝墓群中のC2h5区に位置している。

規模と形状 平面形は長径1.2m、短径1.0mほどの橢円形で、深さは96cmほどである。底面はほぼ平坦で、壁がほぼ直立する円筒状の土坑である。



第163図 第219号土坑・出土遺物実測図

覆土 11層に分層される。上層はやや締まりがあるが、下層は締まりのない土層である。全体的にはレンズ状の堆積状況を示しているため自然堆積と考えられるが、第6～8層には焼土ブロック及び炭化物・炭化粒子が不自然に混入しているため、この層は下層が埋没した段階で投げ込まれたものと考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	7 にい赤褐色	焼土ブロック中量・炭化粒子少量・ロームブロック微量
2 黒褐色	焼土粒子少量・ロームブロック・炭化粒子微量	8 焰赤褐色	焼土ブロック・炭化物少量・ロームブロック微量
3 赤褐色	ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量	9 黑褐色	炭化物中量・焼土粒子少量・ロームブロック微量
4 赤褐色	ロームブロック・焼土粒子少量・炭化粒子微量	10 赤褐色	ロームブロック少量・炭化粒子微量
5 赤褐色	ロームブロック・焼土粒子少量・炭化粒子微量	11 赤褐色	ロームブロック中量・炭化粒子微量
6 赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量		

遺物出土状況 縄文土器片21点が出土している。土器片はほとんどが細片で覆土中に散在しており、平面的な位置には特異な傾向は認められない。抽出・図示した遺物は、いずれも覆土中からの出土である。

所見 出土土器が細片であり、覆土中からの出土のため判然としないが、抽出・図示した土器を含めて出土遺物の多くが後期前葉のもので、形状が円筒状を呈していることや近接して該期の土坑が位置していることなどから、時期は後期前葉（称名寺2式期）以前と考えられる。

第219号土坑出土遺物観察表（第163図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成色調	出土位置	備考
242	縄文土器	深鉢	—	(9.4)	—	踏みを有する縄文で把手を作出し。ボタン状縄文で加飾する。肩部はS字の復原縄文を施しとし、平行比線間を割り消す。	長石	良好 橙黄	覆土	
243	縄文土器	深鉢	—	(8.7)	—	円形刻文及び沈線文を有する蓋で把手を作出。口沿部はボタン状貼付文及び沈線文で施す。	長石	普通 黒褐	覆土	
244	縄文土器	深鉢	—	(4.1)	5.1	腹部下端無文。	長石・紫母	普通 にいわ根	覆土	
TP319	縄文土器	深鉢	—	(9.2)	—	口沿部無文帯の下端を隆起で区画する。肩部上位は復元の藝術状。	長石・石英	普通 にいわ根	覆土	
TP320	縄文土器	深鉢	—	(11.9)	—	沈線区画文内に列点文を充填。	長石・石英・紫母	普通 にいわ赤褐	覆土	

第222号土坑（第164～166図）

位置 調査区中央部の平坦部、土坑群の外縁部にあたるB4e1区に位置している。

重複関係 第221号土坑を掘り込んでいる。

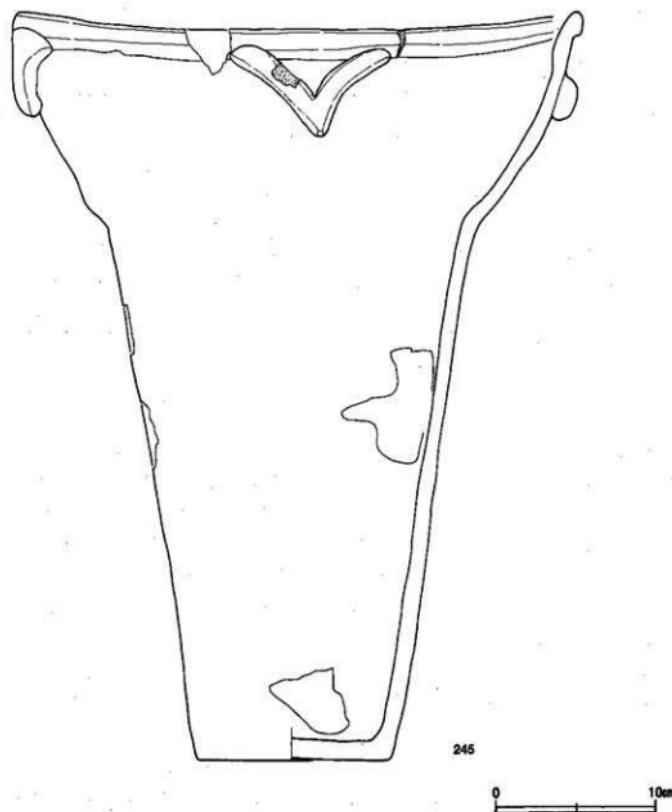
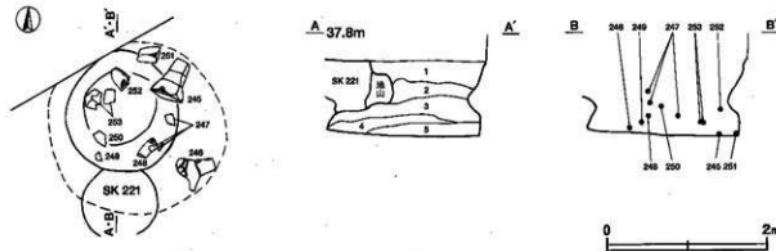
規模と形状 北西壁の下位が調査区外に及んでいるが、開口部の平面形が径1.5mほどの円形を呈するプラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で、平面形は径2.2mほどの円形を呈している。深さは93cmほどで、壁は下位から大きく括れて内傾し、上位は外傾して立ち上がっている。底面から括れ部までの高さは50cmほどである。

覆土 5層に分層される。全体的にやや締まりのある土層である。ほぼ水平に堆積しているものの、第3層以下にはロームや粘土がブロック状に混入し、同時期の土器が一括して出土していることなどから土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。また、上層にあたる第1・2層は埋め戻し後の土砂の流入による自然堆積と考えられる。

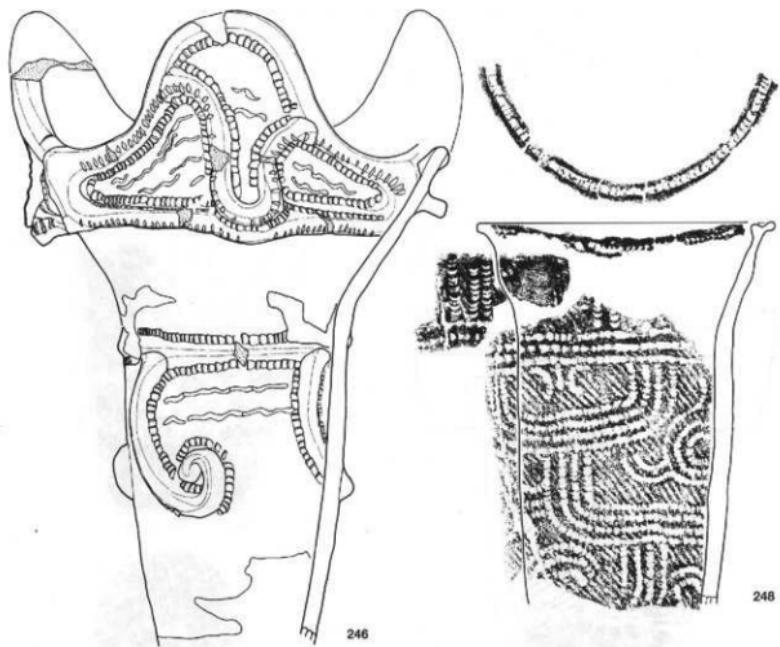
土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量	4 橙褐色	ロームブロック少量・焼土ブロック・炭化粒子微量
2 極暗褐色	ローム粒子少量・焼土粒子・炭化物微量	5 黒褐色	ロームブロック中量・粘土ブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量
3 焰褐色	ロームブロック中量・焼土ブロック・炭化物微量		

遺物出土状況 縄文土器片130点、剥片1点が出土している。大形の土器片が壁寄りの覆土下層から底面にかけて集中して出土している。特にほぼ完形の245・246は底面から出土しており、廃絶時に遺棄された可能性も否定できないが、同じく底面から出土している251や覆土下層から出土している他の抽出土器には完形のもの

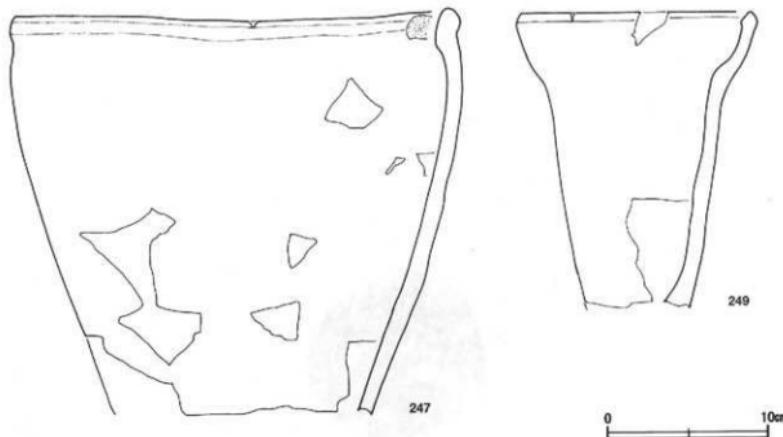


第164図 第222号土坑・出土遺物実測図



246

248

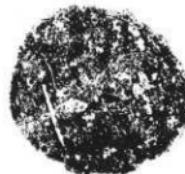
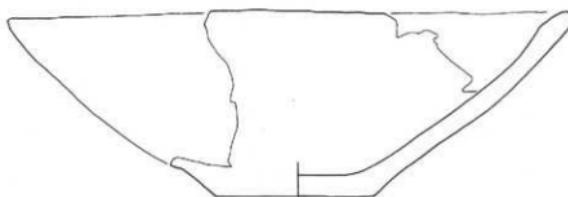
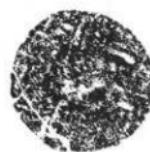
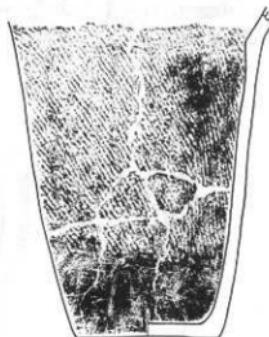
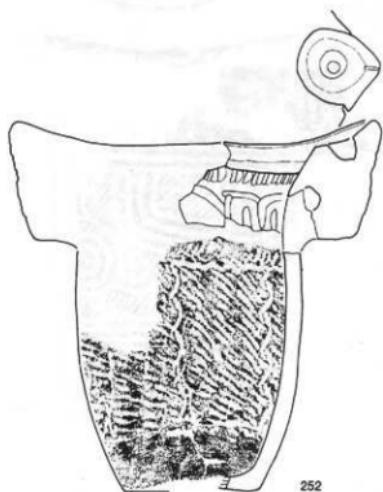
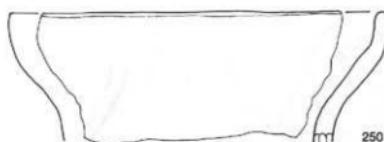


247

249

0 10cm

第165図 第222号土坑出土物実測図（1）



第166図 第222号土坑出土遺物実測図（2）

はないことから、これらの土器は廃絶時に一括して廃棄されたものと想定される。

所見 時期は、出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅳ式期）と考えられる。

第222号土坑出土遺物観察表（第164～166図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
245	縄文土器	深鉢	345	460	122	口唇部下端に縁帯が退る。口辺部にV字状縦文を貼付。網目無し。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	底面	PL42
246	縄文土器	深鉢	[241]	[380]	[95]	刻みを有する縁帯区間にによる口辺部文様帶に筋節沈線が沿う。無文帯下は横部の陰区間に文に筋節沈線が沿う。区間に下は縁帯による網目文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	底面	PL41
247	縄文土器	深鉢	265	[249]	—	口唇部肥厚。無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土下層	PL41
248	縄文土器	深鉢	182	[215]	—	口唇部下端に縁帯が退る、縁帯上及び唇部に筋節沈線を施す。口辺部及び胴部は平行する筋節沈線により文様推出。	長石・雲母	普通	灰褐	覆土下層	PL41
249	縄文土器	深鉢	[142]	[180]	[64]	口唇部肥厚。無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	
250	縄文土器	深鉢	[232]	[78]	—	無文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土下層	
251	縄文土器	深鉢	—	(185)	88	Lの草跡文を縱方向に施す。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	底面	底部網代灰
252	縄文土器	深鉢	[222]	227	[82]	肥厚した口唇部に筋節沈線が沿う。口辺部文様帶には沈文を施す。下位に筋節沈線が沿う。刻みを有する縁帯により網目把手を作出。胴部にはLの無地縦文を施す。底位の波状沈線文を施す。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	PL41
253	縄文土器	浅鉢	[344]	111	97	無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	PL42 底部網代灰

第227号土坑（第167～170図）

位置 調査区西部の平坦部、方形周溝墓群中のC2h2区に位置している。

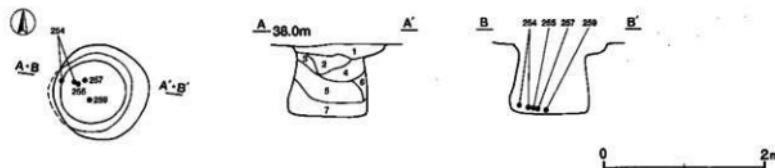
規模と形状 平面形は径1.2mほどの円形で、深さは90cmほどである。底面はほぼ平坦で、壁が直立もしくはやや内傾する円筒状の土坑である。

覆土 7層に分層される。全般的にやや締まりのある土層である。上層にあたる第1～4層は堆積状況に乱れが見られることや、中～下層にあたる第5層以下はロームをブロック状に含み、特に第7層に多量の土器が廃棄されたような状況で出土していることなどから土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。

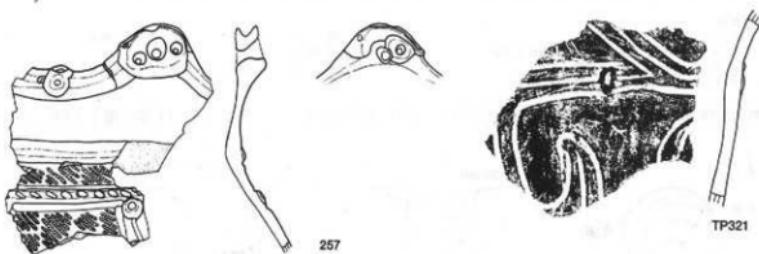
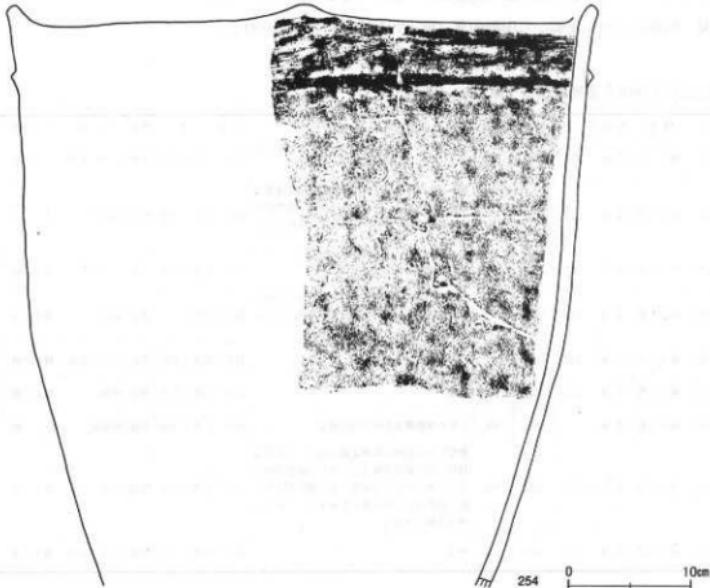
土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 5 黑褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 緑褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 黑褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 4 黑褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | | |

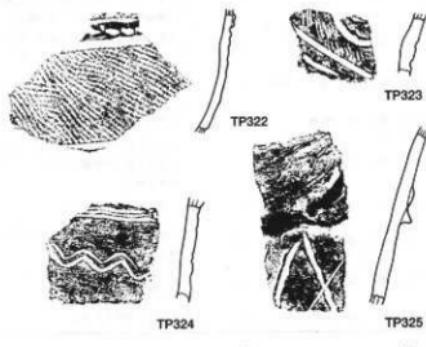
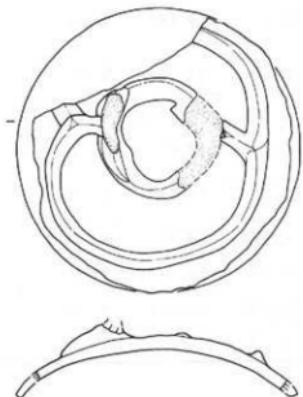
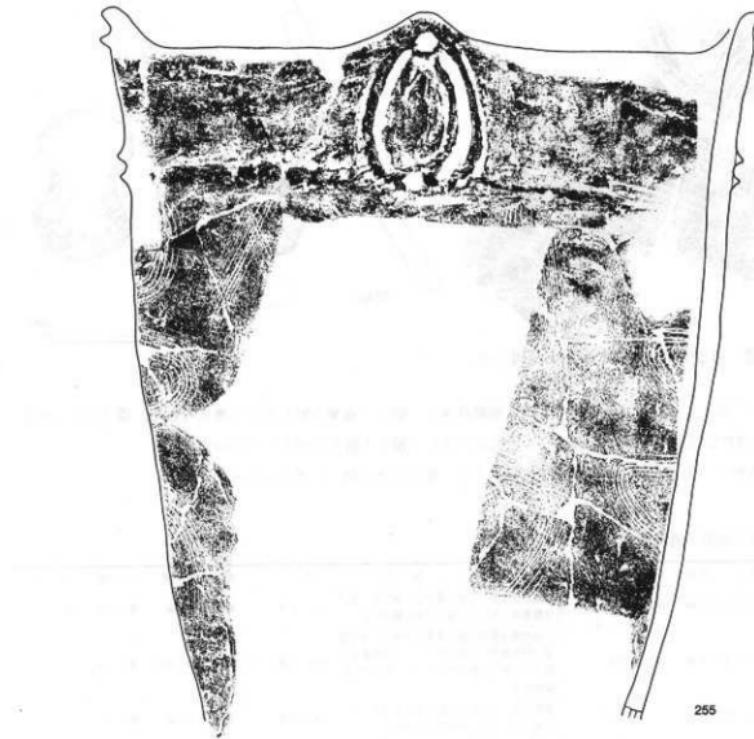
遺物出土状況 縄文土器片179点、打製石斧1点、剥片1点が出土している。多くの土器が覆土下層にあたる



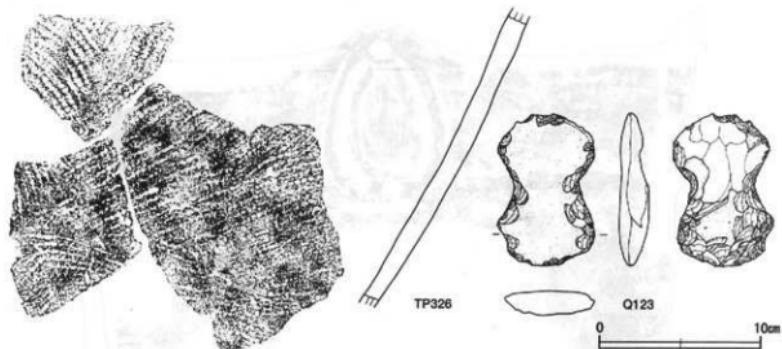
第167図 第227号土坑実測図



第168図 第227号土坑出土遺物実測図（1）



第169図 第227号土坑出土遺物実測図（2）



第170図 第227号土坑出土遺物実測図（3）

第7層から出土しており、廃絶時もしくは廃絶直後に一括して廃棄されたものと考えられる。覆土中から出土しているTP321を除き、抽出・図示した遺物はいずれも覆土下層から出土したものである。

所見 時期は、出土土器から後期前葉（称名寺2～堀之内1式期）と考えられる。

第227号土坑出土遺物観察表（第168～170図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成色調	出土位置	備考
254	縄文土器	深鉢	[48.1]	(47.8)	—	口辺部無文帯の下端を縦帶で区画する。肩部は櫛歯状工具による縱びの波状鋸歯状文。	長石・石英	普通 にぶい褐	覆土下層	PL42
255	縄文土器	深鉢	[40.0]	(43.8)	—	口辺部無文帯の下端を縦帶で区画し、無文帯部に円形刺突と沈痕を有するO字状幾何文を配する。肩部は櫛歯状工具による縦びの波状鋸歯状文。	長石・石英・雲母	普通 にぶい黄褐	覆土下層	
256	縄文土器	深鉢	—	(9.6)	—	縦帶によって作出した把手を円形刺突文及び沈痕を有するO字状幾何文に配す。	長石・石英	普通 にぶい褐	覆土下層	
257	縄文土器	深鉢	—	(13.4)	—	波頂部に円形刺突文・沈痕を有する縦帯文を貼付。口辺部無文帯下に横位の縦帯区段文を配なしし、その下位に刷みを有する縦帶などでの文様混出。地文はL.Rの單線縞文。	長石・石英	普通 灰褐	覆土下層	
258	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	—	縦帯区段による口辺文様混出に横把手手有す。区内にはL.Rの單線縞文を横方向に並文。	長石・石英	普通 灰褐	覆土下層	
259	縄文土器	壺	[16.9]	[4.5]	—	縦帶により文様混出。	長石・雲母	普通 にぶい褐	覆土下層	PL44 把手欠損
TP321	縄文土器	深鉢	—	(11.8)	—	3条の沈痕区段文。沈痕上にボタン状突起付文。	長石・石英・雲母	普通 橙	覆土上	
TP322	縄文土器	深鉢	—	(7.5)	—	刺突文を有する沈痕区段による口辺文様混出。肩部はL.Rの単線縞文を地文とし、雲母の沈縞文を地文。	長石・石英・赤色 柱子	普通 灰灰	覆土下層	
TP323	縄文土器	深鉢	—	(5.8)	—	沈痕区段内に文様区段文を充填。	長石・石英	普通 灰灰	覆土下層	
TP324	縄文土器	深鉢	—	(6.4)	—	半截竹管による横位の平行沈縞文及び波状沈縞文。	長石・石英・雲母	普通 にぶい褐	覆土下層	
TP325	縄文土器	深鉢	—	(10.9)	—	口辺部無文帯の下端を縦帶で区画する。肩部は沈痕による斜位子文。	長石・石英	普通 明赤褐	覆土下層	
TP326	縄文土器	深鉢	—	(18.4)	—	L.Rの単線縞文を地文。	長石・石英	普通	覆土下層	

番号	器種	計測値			材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ				
Q123	打製石斧	93	60	(19)	(109.7)	砂岩 分側型。抉入部は浅い。	覆土下層	PL49 裏面一部剥離

第228号土坑（第171・172図）

位置 調査区西部の平坦部、方形周溝墓群中のC2g5区に位置している。

重複関係 第229号土坑を掘り込んでいる。また、第231号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は径1.2mほどの円形で、深さは52cmほどである。底面はほぼ平坦で、壁がほぼ直立する円筒状の土坑である。

覆土 4層に分層される。全体的にやや締まりのある覆土であり、北側からの土砂の流入による自然堆積と考えられる。

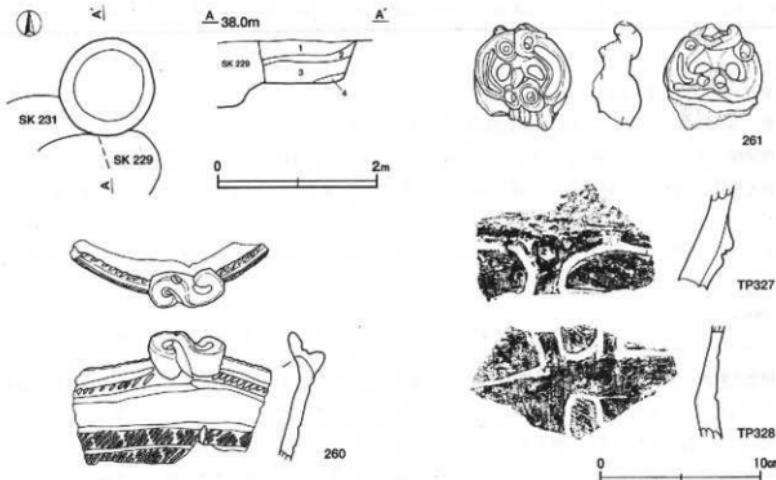
土層解説

1 細褐色 土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量
2 細褐色 ロームブロック・燒土粒子少量、炭化粒子微量

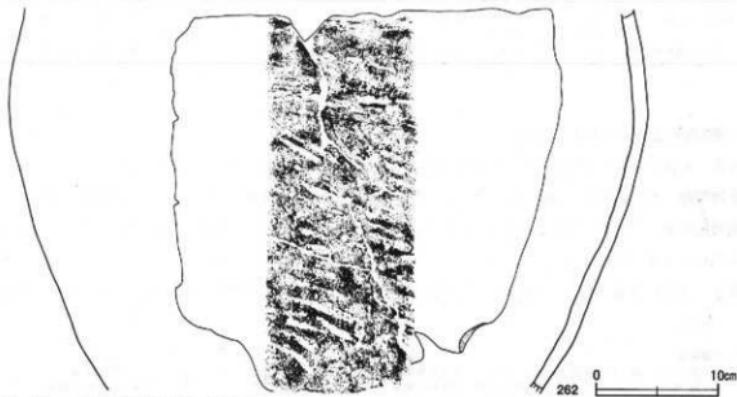
3 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
4 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 織文土器片30点、打製石斧1点が出土している。土器片はほとんどが細片で覆土中に散在して出土しており、平面的な出土位置には特異な傾向は認められない。抽出・図示した遺物は、いずれも覆土中からの出土である。

所見 出土土器が細片であり、覆土中からの出土のため判然としないが、抽出・図示した土器を含めて出土遺物の多くが後期前葉のものと考えられることや形状が円筒状を呈していること、近接して該期の土坑が位置していることなどから、時期は後期前葉（称名寺2～堀之内1式期）以前と考えられる。なお、260は後期中葉の深鉢で、北側に隣接する古堂遺跡に該期の土器が出土していることから、流れ込みによるものと考えられる。



第171図 第228号土坑・出土遺物実測図



第172図 第228号土坑出土遺物実測図

第228号土坑出土遺物観察表（第171・172図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成色調	出土位置	備考
260	繩文土器	深鉢	—	(8.0)	—	波頂部にS字状幾何文を貼付。口唇部に割みを施す沈縫区画。下部の沈縫区画にLRの單節繩文を充填。	長石・石英	普通	褐灰	覆土 PL46
261	繩文土器	深鉢	—	(6.3)	—	沈縫を有する隆帯及びボタン状貼付文により圓錐状把手を作出。	長石・石英	普通	灰褐	覆土
262	繩文土器	深鉢	—	(31.2)	—	肩部無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄褐	覆土 器面施磨き
TP327	繩文土器	深鉢	—	(6.5)	—	隆帯区画による口邊文様帶に沈縫が沿う。隆帯上に円形刻文を付す。	長石・石英	普通	棕	覆土
TP328	繩文土器	深鉢	—	(7.0)	—	沈縫区画内にLRの單節繩文を充填。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	覆土

第229号土坑（第173図）

位置 調査区西部の平坦部、方形周溝墓群中のC2h5区に位置している。

重複関係 第228号土坑に掘り込まれている。また、第231号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は長径1.5m、短径1.2mほどの橢円形で、深さは80cmほどである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層される。全体的にやや縮まりのある土層であり、北側からの土砂の流入による自然堆積と考えられる。なお、第4層は壁の崩落土と考えられる。

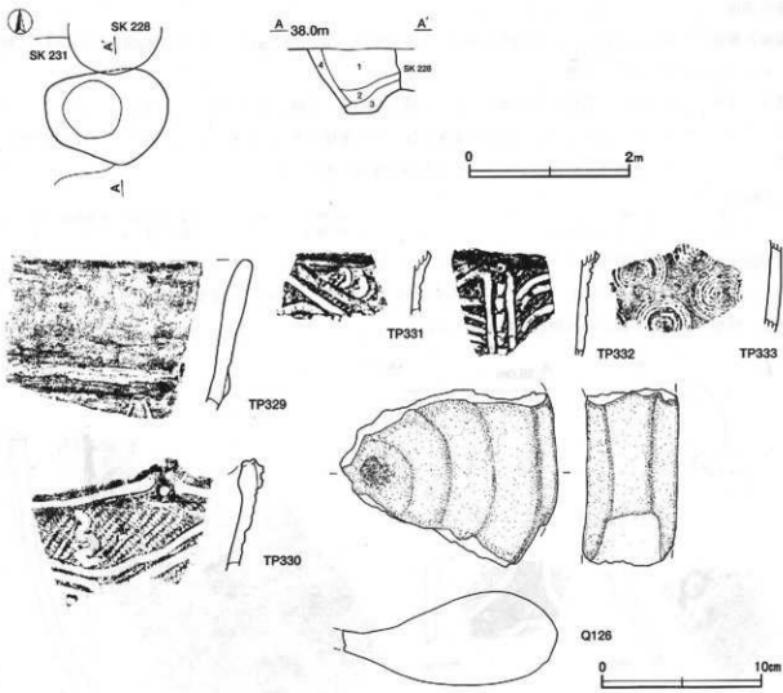
土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子微量
2 灰褐色 ローム粒子・燒土ブロック微量

- 3 暗褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量
4 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土器片はほとんどが細片で覆土中に散在して出土しており、平面的な出土位置には特異な傾向は認められない。抽出・図示した遺物は、いずれも覆土中からの出土である。

所見 出土土器が細片であり、覆土中からの出土のため判然としないが、抽出・図示した土器を含めて出土遺物の多くが後期前葉のものであることから、時期は後期前葉（称名寺2～堀之内1式期）と考えられる。



第173図 第229号土坑・出土遺物実測図

第229号土坑出土遺物観察表（第173図）

番号	種別	器種	口径	器高	直径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP329	織文土器	深鉢	—	(9.1)	—	口辺部無文帶の下端を縦帯で区画する。削痕上位は沈継による割れ子文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土	
TP330	織文土器	深鉢	—	(6.8)	—	口容部下端に沈継が混る。円形刺突文を有する隆起により把手を作出。沈継区画による文様帶内に變化の浅狀沈継文を施す。地文はL字の單節構文。	長石・石英	普通	褐灰	覆土	
TP331	織文土器	深鉢	—	(3.9)	—	L.Rの單節文を地文とし、沈継により文様抽出。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土	
TP332	織文土器	深鉢	—	(6.4)	—	竪位の平行沈継間に竹筋による筋節沈継文を施す。沈継により文様抽出。地文はR.Lの單節構文。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	覆土	
TP333	織文土器	深鉢	—	(5.7)	—	圓錐状工具による連続した弧次の脚衝文。	長石・石英・赤色 粒子	普通	棕	覆土	

番号	器種	計測値			材質	特 徴	出土位置	備 考	
		長さ	幅	厚さ					
Q126	石皿	(11.0)	(12.4)	(5.9)	(3017.7)	安山岩 表面中央が圓状に窪む。		覆土	

第232号土坑（第174図）

位置 調査区西部の平坦部、方形周溝墓群中のC2h3区に位置している。

重複関係 第233号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 平面形は長径1.3m、短径1.1mほどの梢円形で、深さは82cmほどである。底面はほぼ平坦で、壁が直立する円筒状の土坑である。

覆土 4層に分層される。暗褐色を基調としたやや締まりのある土層である。第3・4層はロームをブロック状に含み、土器片を多く含むことから上器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。また、第1・2層は混入物が少なく、レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。

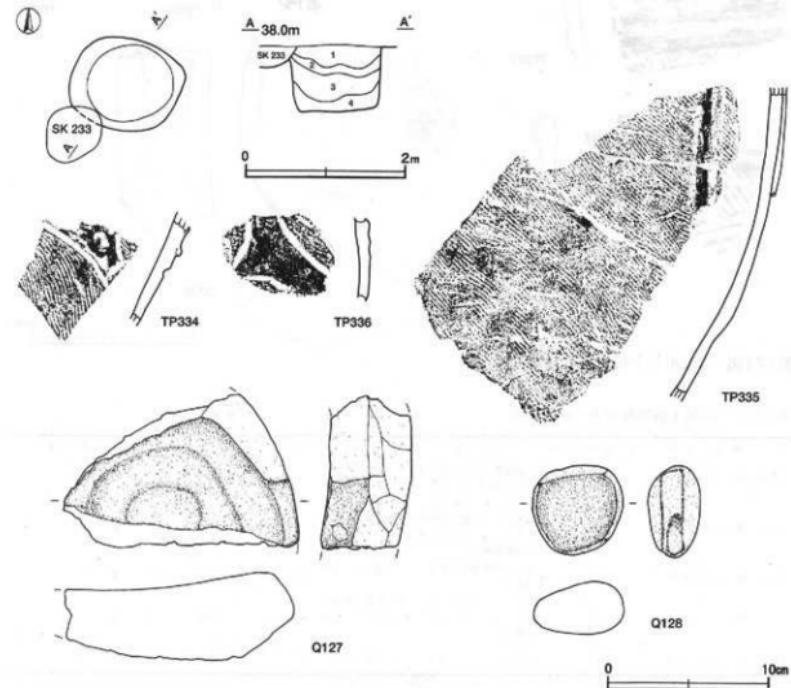
土原解説

- | | |
|-------|--------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 灰褐色 | ローム粒子・粘土粒子微量 |

- | | |
|-------|---------------------|
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子・小礫微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、小礫少量 |

遺物出土状況 繩文土器片55点、石皿1点、磨石1点、敲石1点が出土している。遺物の多くが人為堆積と考えられる覆土中～下層から出土しており、廃絶時の埋め戻しに伴って一括して廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から後期初頭頃と考えられる。



第174図 第232号土坑・出土遺物実測図

第232号土坑出土遺物観察表（第174図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成色調	出土位置	備考
TP334	縄文土器	漆耳	—	(69)	—	押圧文を有する縄文と沈継区画内にしの無 鉢縄文を充填。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	覆土中～ 下層

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	粘土	焼成色調	出土位置	備考
TP335	縄文土器	深鉢	—	(192)	—	縄帶が垂下。地文はしの無筋縄文。	長石・石英・雲母	普通灰褐色	覆土中～下層	TP334と同一倒体
TP336	縄文土器	深鉢	—	(50)	—	沈底区画内にしの無筋縄文を充填。	長石・石英	普通黒褐色	覆土中～下層	

番号	器種	計測値			材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ				
Q127	石皿	(93)	(145)	(55)	(761.8)	安山岩 表面中央が緩く盛状に窪む。	覆土中～下層	
Q128	磨石	55	65	32	131.1	安山岩 全画面を拡用。	覆土中～下層	全面被施

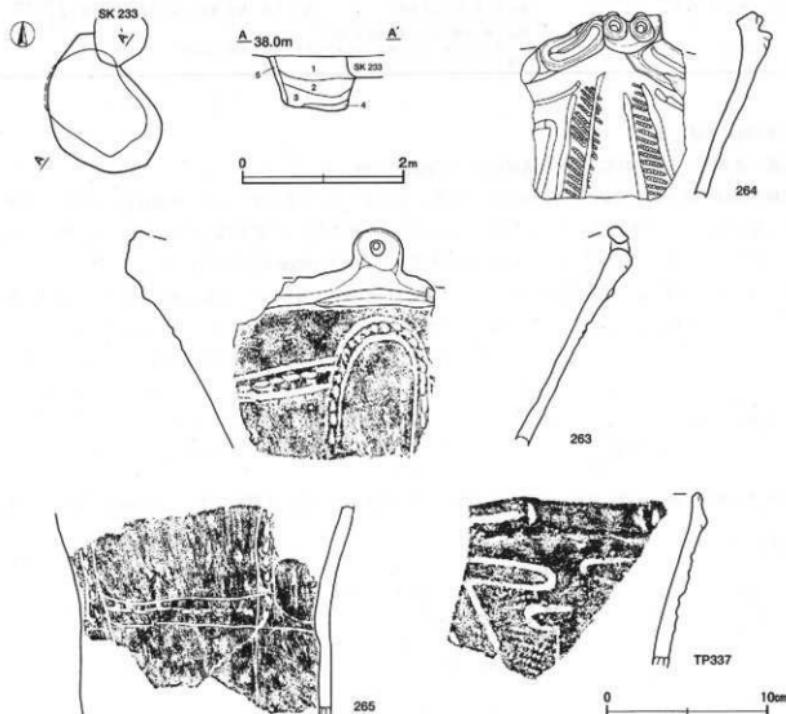
第234号土坑（第175図）

位置 調査区西部の平坦部、方形周溝墓群中のC2h3区に位置している。

重複関係 第233号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 平面形は長径1.6m、短径1.2mほどの橢円形で、深さは67cmほどである。底面はほぼ平坦で、壁が外傾もしくはほぼ直立する円筒状の土坑である。

覆土 5層に分層される。全体的にやや縮まりのある土層であり、レンズ状の堆積状況を示していることから



第175図 第234号土坑・出土遺物実測図

自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量

- 4 にぶい褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 繩文土器片55点が出土している。土器片はほとんどが細片で覆土中に散在して出土しており、平面的な出土位置には特異な傾向は認められない。263～265は覆土中層にあたる第2層から出土している。また、TP337は覆土中からの出土である。

所見 出土土器が流れ込んだものと考えられるため判然としないが、第2層の堆積時期は、出土土器から後期前葉（称名寺2式期）と考えられる。

第234号土坑出土遺物観察表（第175図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
263	縄文土器	深鉢	[295]	(137)	—	貫通孔を有する円形の把手を付す。口沿部に 幾重環状の把手を付す。肩上部は平行沈線間に列点文を光 場。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土中層	P265と同一 個体
264	縄文土器	深鉢	—	(113)	—	沈線を有する隆起により把手を作出。波痕部 にボタン状突起付す。肩上部は平行沈線間に列点文を光 場。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐色	覆土中層	
265	縄文土器	深鉢	—	(127)	—	沈線区画間に列点文を光場。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土中層	P263と同一 個体
TP337	縄文土器	深鉢	—	(101)	—	口唇部下端に沈線を有する隆起が温る。口沿 部から肩上部は波痕による区画間にL字の 単節横文を光場。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土	

第235号土坑（第176・177図）

位置 調査区西部の平坦部、方形周溝墓群中のC2g4区に位置している。

規模と形状 開口部の平面形が径1.6mほどの円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で、平面形は径1.4mほどの円形を呈している。深さは93cmほどで、壁は下位から括れ部にかけて緩やかに内傾し、上位は皿状に立ち上がっている。また、底面から括れ部までの高さは60cmほどである。

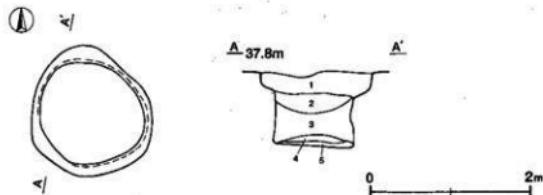
覆土 5層に分層される。暗褐色を基調としたやや締まりのある土層であり、堆積状況に乱れが見られず、概ねレンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。また、第4・5層は中央部が高い丘状になってしまっており、ロームをブロック状に含んで特に固く締まっていることから、開口部から流入したロームが踏み固められたものと考えられる。

土層解説

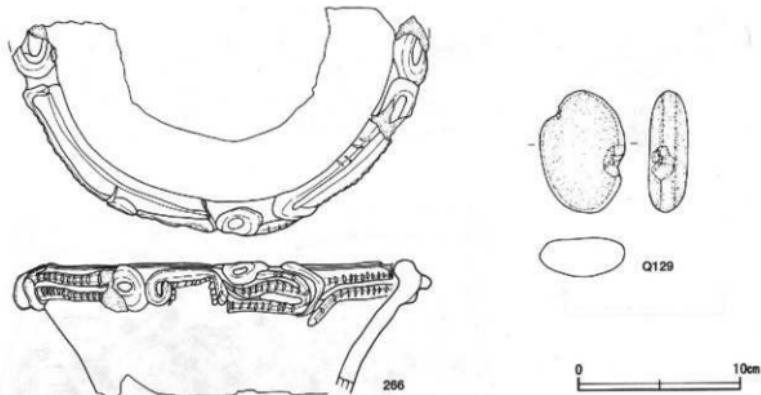
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 明褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片34点、石皿1点、磨石2点が出土している。土器片はほとんどが細片で覆土中に散



第176図 第235号土坑実測図



第177図 第235号土坑出土遺物実測図

在して出土しており、平面的な出土位置には特異な傾向は認められない。266、Q129はいずれも覆土中から出土している。

所見 出土土器が細片であり、覆土中からの出土のため判然としないが、抽出・図示した土器を含めて出土遺物の多くが中期中葉のものと考えられることから、時期は中期中葉（阿玉台N式期）以前と考えられる。

第235号土坑出土遺物観察表（第177図）

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
266	縄文土器	深鉢	21.0	(8.2)	—	口唇部は波打つ縁部に円形貼付文を付す。口沿部は網目を有する縦帶による区画文で溝文を配する。胴上部無文。	長石・石英・安息香酸	普通	にぼい赤褐	覆土	

番号	器種	計測値			材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ				
Q129	单石	7.8	5.3	2.3	安山岩	全侧面使用。	覆土	

第236号土坑（第178・179図）

位置 調査区中央部の平坦部、土坑群中のC3d1区に位置している。

重複関係 第250号土坑に掘り込まれている。

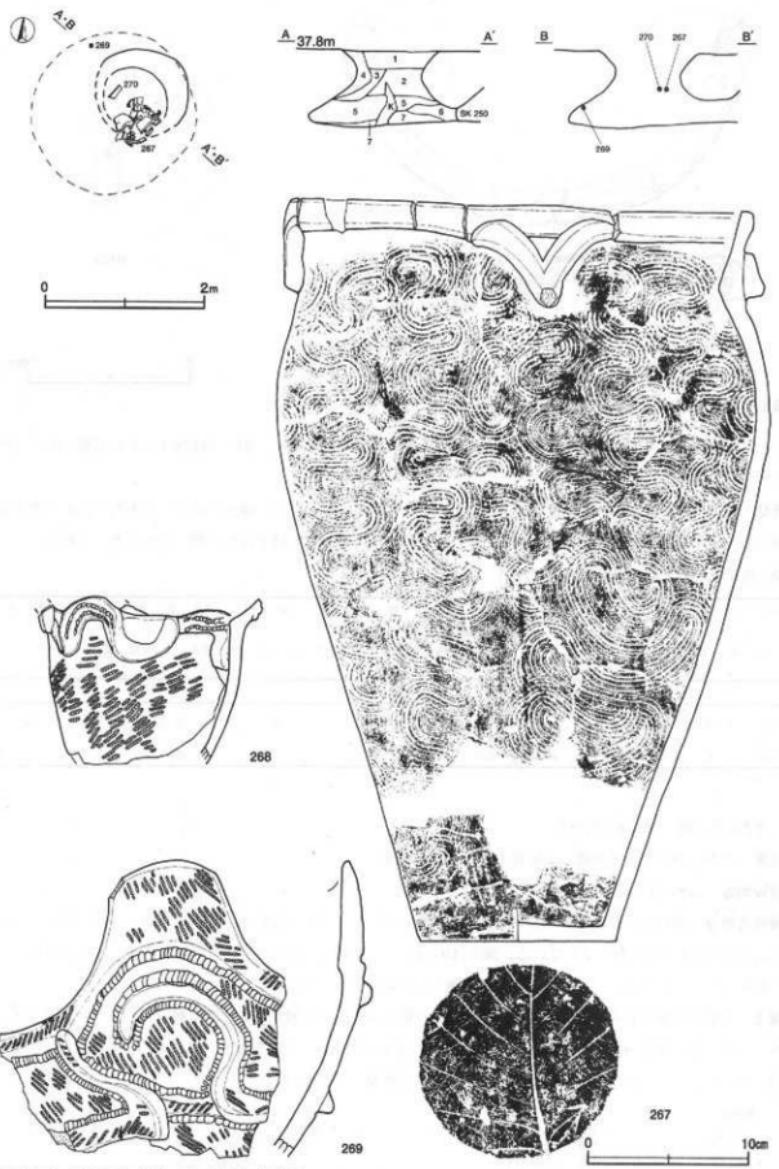
規模と形状 開口部の平面形が径1.2mほどの円形を呈するプラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で、平面形は径2.1mほどの円形を呈している。深さは95cmほどで、壁は下位から大きく括れて内傾し、上位は緩やかな傾斜をもって立ち上がっている。また、底面から括れ部までの高さは55cmほどである。

覆土 7層に分層される。暗褐色を基調としたやや締まりのある土層である。第7層はロームブロックを多く含み、特に固く締まっていることから、開口部から流入したロームが踏み固められたものと考えられる。第7層より上層はロームをブロック状に含むことから人為堆積と考えられる。

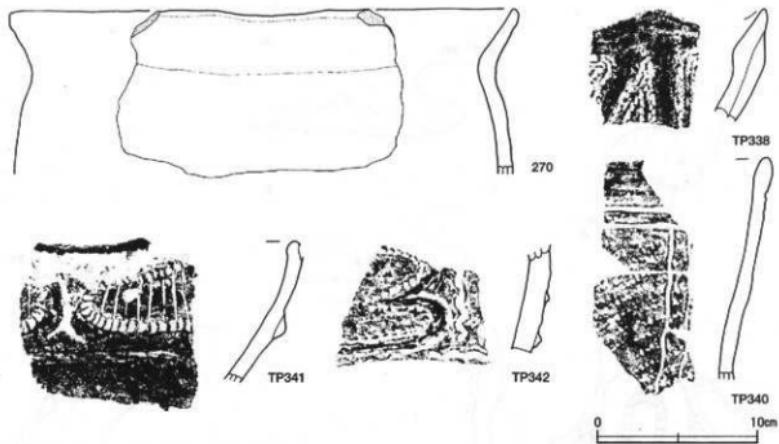
土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・小礫微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

- 5 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、燒土粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 7 褐色 ロームブロック中量



第178図 第236号土坑・出土遺物実測図



第179図 第236号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 繩文土器片100点が出土している。土器片は覆土中に散在して出土しており、平面的な出土位置には特異な傾向は認められない。267・270はほぼ括れ部にある覆土中層から廃棄されたような状態で出土し、269は覆土下層の北壁寄りから出土している。また、268、TP338・TP340～TP342は覆土下層からの出土である。これらの土器は、いずれも廃絶時もしくは廃絶直後に一括して廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。

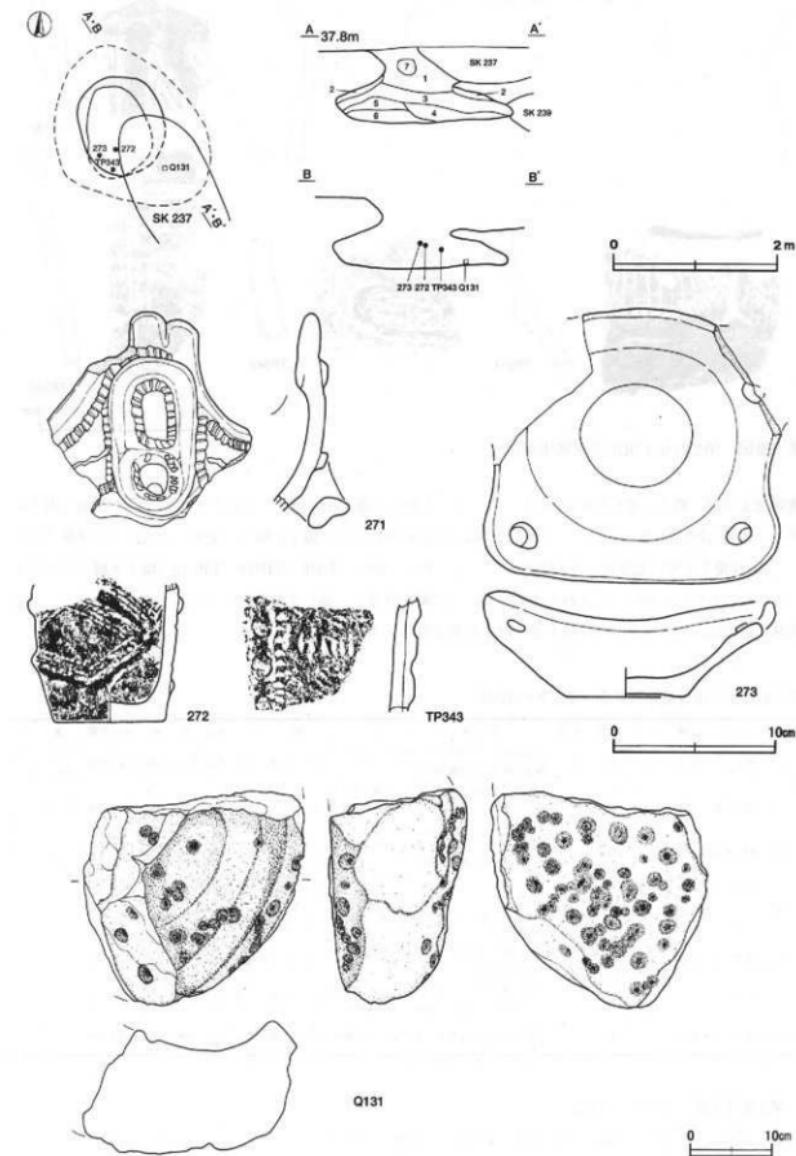
第236号土坑出土遺物観察表（第178・179図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
267	縄文土器	深鉢	28.6	45.6	12.2	口唇部肥厚。口沿部にV字状産苔文を貼付。腹部は波状櫛目状文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	覆土中層	PL42 底部本素面
268	縄文土器	鉢	[136]	(102)	[79]	口辺部に複列の結節沈縫を有する横S字状の邊帶文を貼付。腹部はR.Lの單筋文を覆方に施す。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	覆土下層	PL43
269	縄文土器	深鉢	—	(180)	—	腰帶区画による口辺部文様帯に結節沈縫が沿う。R.Lの單筋文を施す。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙灰褐色	覆土下層	PL46
270	縄文土器	深鉢	[31.0]	(102)	—	無文。	長石・雲母	普通	にぶい赤褐色	覆土中層	
TP338	縄文土器	深鉢	—	(68)	—	腰帶区画による口辺部文様帯に2条の結節沈縫が沿う。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	
TP340	縄文土器	深鉢	—	(136)	—	口唇部肥厚。沈縫による文様帯区画。地文はR.Lの單筋文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土下層	
TP341	縄文土器	深鉢	—	(86)	—	腰帶区画による口辺部文様帯に結節沈縫が沿う。区画内には複列の沈縫文。腹上部無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	
TP342	縄文土器	深鉢	—	(67)	—	結節沈縫が沿う腰帶及び底状沈縫で文様構成。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	覆土下層	

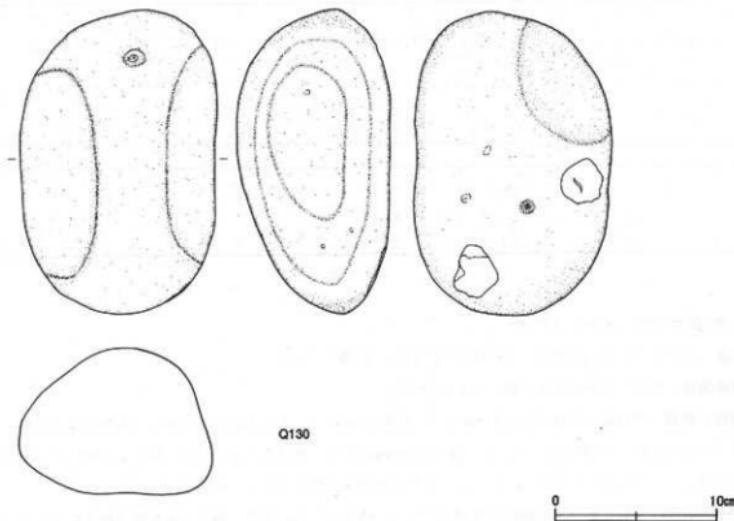
第238号土坑（第180・181図）

位置 調査区中央部の平坦部、土坑群中のC2e0区に位置している。

重複関係 第239号土坑を掘り込み、第237号土坑に掘り込まれている。



第180図 第238号土坑・出土遺物実測図



第181図 第238号土坑出土遺物実測図

規模と形状 南東部の上位を第237号土坑に掘り込まれているため明確ではないが、開口部の平面形が長径1.2m、短径1.0mほどの椭円形と推定されるフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.2m、短径1.7mほどの椭円形を呈している。深さは90cmほどで、壁は下位から大きく括れて内傾し、上位は緩やかな傾斜をもって立ち上がっている。また、底面から括れ部までの高さは40~60cmほどである。

覆土 7層に分層される。暗褐色を基調としたやや縛まりのある土層であり、全層にロームがブロック状に混入していることや不規則な堆積状況を示していることなどから土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック中量	炭化粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック中量
2 細褐色	ロームブロック少量		6 細褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 細褐色	ロームブロック中量	炭化粒子微量	7 褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ロームブロック少量			

遺物出土状況 梓文土器片32点、石皿1点、凹石1点、磨石1点が出土している。土器片は覆土中に散在して出土しており、平面的な位置には特異な傾向は認められない。272・273、TP343は覆土中層から出土しており、廃絶後の埋め戻しに伴って一括して廃棄されたものと考えられる。また、覆土上層から出土している271は混入したものと考えられる。なお、Q131は底面、Q130は覆土中からの出土である。

所見 時期は、出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。

第238号土坑出土遺物観察表（第180・181図）

番号	種別	器種	口径	器高	裏表	文様の特徴	胎土	施成	色調	出土位置	備考
271	梓文土器	深鉢	—	(130)	—	後者区画による口沿部文様帯に粘着沈積がある。 区画内は模倣の波状沈積文。波状間隔下から粘着沈 積が沿う斜格文を層付し、下位は横状把手を作出。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土上層	PL46

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
272	縄文土器	深鉢	—	(8.4)	7.0	菱形の陰唇区画による腹部文様帯に複列の輪筋状沈痕が沿う。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	
273	縄文土器	浅鉢	[17.8]	6.4	7.5	2個一组の孔を有する一对の把手を配する。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	覆土中層	PL42 内外面研磨
TP343	縄文土器	深鉢	—	(7.1)	—	指巻圧痕を有する垂下した腹帶文に輪筋状沈痕が沿う。爪形文を施す。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土中層	

番号	器種	測定値			材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ				
Q130	凹石	18.6	11.8	9.3	25557	安山岩 表裏面各1孔。	覆土	PL51
Q131	石皿	(26.6)	(27.3)	16.9	(90402)	安山岩 表面が傷む。表面15孔。裏面63孔。側面15孔。	底面	PL52 破壊後も凹石として使用

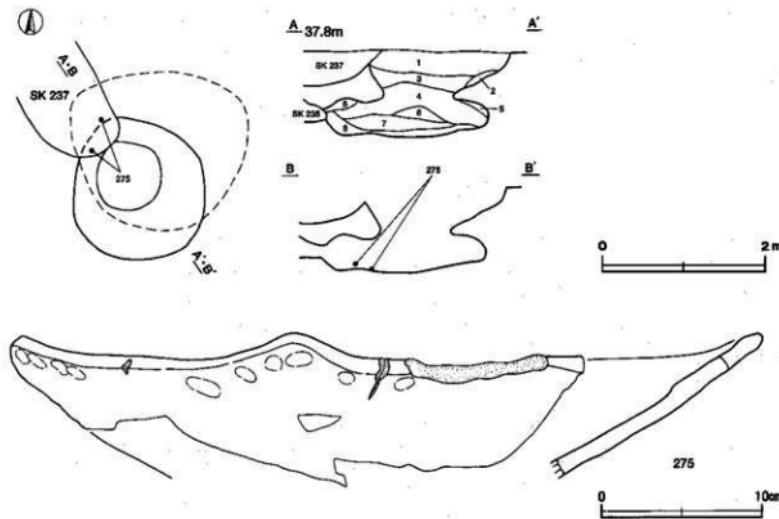
第239号土坑（第182・183図）

位置 調査区中央部の平坦部、土坑群中のC3e1区に位置している。

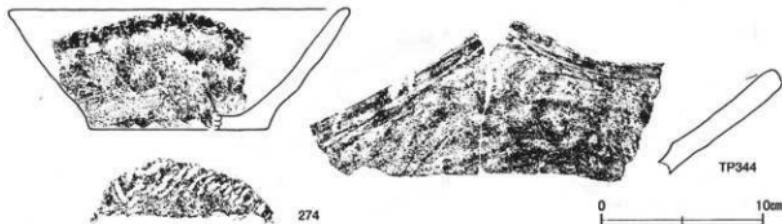
重複関係 第237・238号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形が径1.8mほどの円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で、平面形は径2.2mほどの円形を呈している。深さは102cmほどで、壁は下位から大きく括れて内傾し、上位は緩やかな傾斜をもって皿状に立ち上がっている。また、底面から括れ部までの高さは50cmほどである。

覆土 8層に分層される。暗褐色を基調としたやや締まりのある土層である。第6層は粘土粒子を含み、不自然な堆積状況を示していることから投げ込まれたものと考えられ、それ以外の覆土は、堆積状況に大きな乱れが見られないことから自然堆積と考えられる。



第182図 第239号土坑・出土遺物実測図



第183図 第239号土坑出土遺物実測図

土層解説

1 細褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	5 細褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
2 細褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量	6 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量
3 細褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
4 細褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	8 細褐色	ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 繩文土器片35点が出土している。大形の土器片は覆土下層に集中し、275はほぼ底面の南北壁際から発見されたような状態で出土しており、時期判断の指標となる遺物である。また、274、TP344は覆土中からの出土である。

所見 時期は、重複関係及び出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期）と考えられる。

第239号土坑出土遺物観察表（第182・183図）

番号	種別	器種	口径	番高	底径	文様の特徴	動土	焼成色調	出土位置	備考
274	縄文土器	浅鉢	[210]	73	[110]	口唇部下端に指揮圧痕文。	長石・石英・雲母	普通 明赤褐	覆土	底部削除直
275	縄文土器	浅鉢	[456]	[90]	—	口唇部下端に指揮圧痕文。	長石・石英	普通 明赤褐	底面	内外面研磨
TP344	縄文土器	浅鉢	—	[64]	—	無文。	長石・石英・雲母	普通 明赤褐	覆土	内外面研磨

第241号土坑（第184・185図）

位置 調査区中央部の平坦部、土坑群の外縁部にあたるB3j6区に位置している。

重複関係 第192号ピットに掘り込まれている。

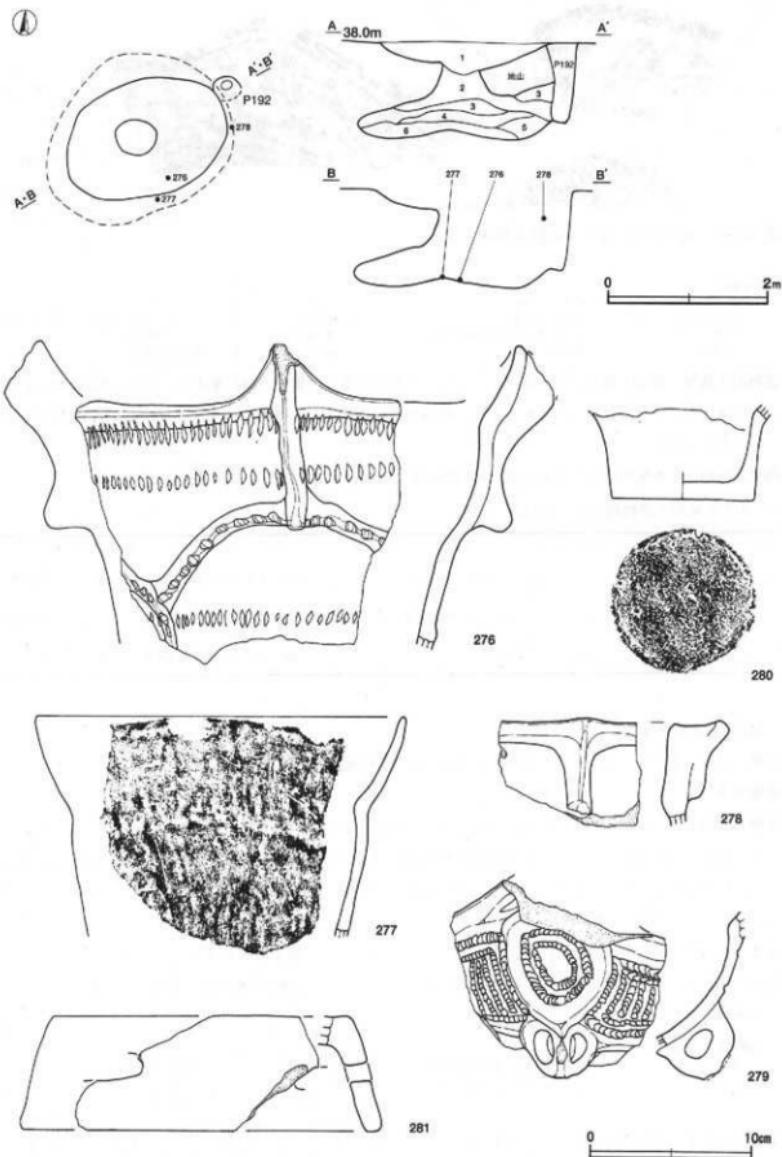
規模と形状 開口部の平面形が長径2.1m、短径1.4mほどの楕円形を呈するフラスコ状土坑である。底面は中央部が緩い丘状に高まっており、平面形は長径2.3m、短径2.0mほどの楕円形を呈している。深さは116cmほどで、壁は下位から大きく括れ内傾し、上位は緩やかな傾斜をもって皿状に立ち上がっている。また、底面から括れ部までの高さは80～90cmほどである。

覆土 6層に分層される。全体的にやや締まりのある上層であり、第4層以下はロームがブロック状に含まれ、粘土粒子が混入していることから人為堆積と考えられる。第1～3層は堆積状況に乱れが見られないことから自然堆積と考えられる。

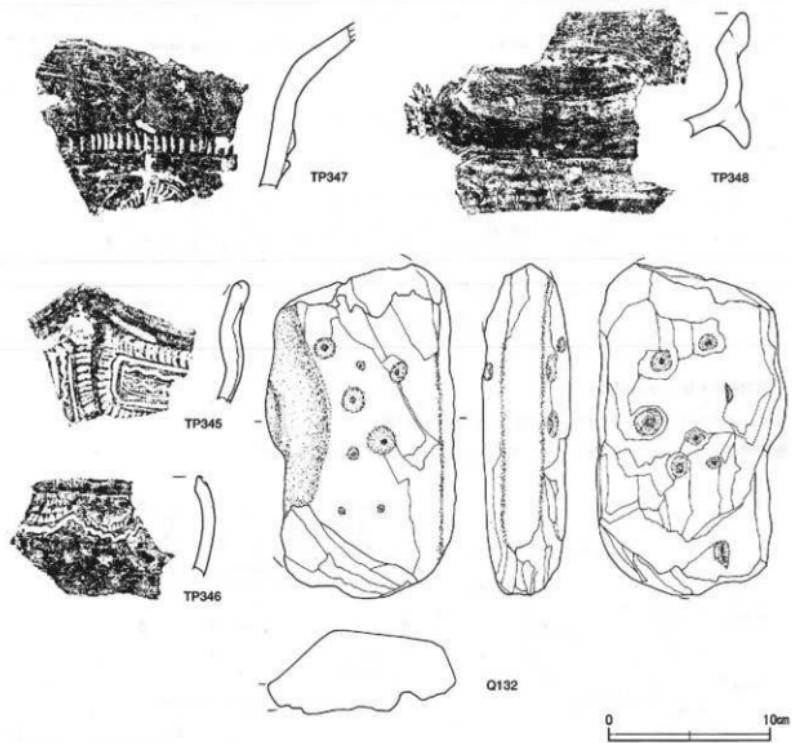
土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	4 細褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
2 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 黒褐色	ロームブロック・粘土粒子中量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	6 細褐色	ロームブロック中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片82点、石皿1点、凹石1点が出土している。土器片はほとんどが細片で覆土中に散在して出土しており、平面的な出土位置には特異な傾向は認められない。276・277は底面の南北壁際から出土し



第184図 第241号土坑・出土遺物実測図



第185図 第241号土坑出土遺物実測図

ており、時期判断の指標となる遺物である。また、278は覆土中層、279・280・281、TP345～TP348及びQ132は覆土中からの出土である。

所見 時期は、出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。

第241号土坑出土遺物観察表（第184・185図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
276	純文土器	深鉢	[29.3]	(19.5)	—	口唇部肥厚。波浪部から縦線の幾条文が垂下する。爪形文を複数。腹部上位は伝承文を有する疊蓋により文様抽出。	長石・石英・雲母	普通	に赤い斑	底面	
277	純文土器	深鉢	[22.7]	(13.5)	—	無文。	長石・石英・雲母	普通	に赤い斑	底面	
278	純文土器	深鉢	—	(6.2)	—	口唇部下端に捲帯文がある。口辺部は縦線の幾条文を複数。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土中層	
279	純文土器	深鉢	—	(12.0)	—	幾条文による口辺部文様帶に結節波線文。口辺部下位には脈状肥厚を付す。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	覆土	

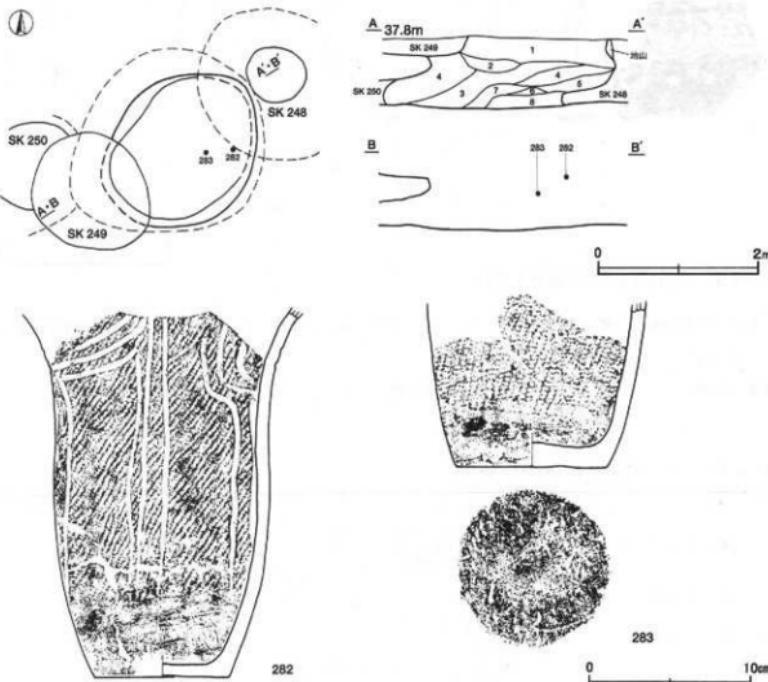
番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
280	縄文土器	浅鉢	—	(5.3)	8.9	腹部無文。	長石・石英・雲母	普通	赤褐色	覆 土	内外面研磨 底漆網代板
281	縄文土器	器 台	[18.2]	7.0	[22.0]	台部に長楕円形の孔を有する。	長石・石英・雲母	普通	赤褐色	覆 土	
TP345	縄文土器	深鉢	—	(7.5)	—	縁帶区画による口辺部文様帶に結節沈線が沿う。区画内には沈綫及び波状沈線。	長石・石英・雲母	普通	赤褐色	覆 土	
TP346	縄文土器	深鉢	—	(6.1)	—	結節沈線及び波状沈線による口辺部文様帶。	長石・石英・雲母	普通	赤褐色	覆 土	
TP347	縄文土器	深鉢	—	(10.2)	—	縁帶区画による側部文様帶に筋節沈線が沿う。 乳形文を施す。	長石・石英・雲母	普通	赤褐色	覆 土	
TP348	縄文土器	浅鉢	—	(8.3)	—	縁帶区画による口辺部文様帶の下位が鈎状に張り出す。側上部無文。	長石・石英・雲母	普通	赤褐色	覆 土	

番号	器種	計測値			材質	特徴	出土位置	備考	
		長さ	幅	厚さ					
Q132	石 皿	(20.5)	(11.7)	(5.4)	(1597.4)	雲母片岩	表面が急傾斜で盛り、表面各8孔。	覆 土	

第246号土坑（第186図）

位置 調査区中央部の平坦部、土坑群中のC3d2区に位置している。

重複関係 第250号土坑を掘り込み、第248・249土坑に掘り込まれている。



第186図 第246号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 第248・249号土坑に掘り込まれているため明確ではないが、開口部の平面形が長径2.1m、短径1.6mほどの椭円形と推定されるフ拉斯コ状土坑である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.6m、短径2.2mほどの椭円形と推定される。深さは85cmほどで、壁は下位から大きく括れて内傾し、上位は外傾して立ち上がっている。また、底面から括れ部までの高さは50cmほどである。

覆土 8層に分層される。暗褐色を基調としたやや締まりのある土層であり、不規則な堆積状況を示していることから土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	5 黒褐色	ロームブロック・粘土粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子少量	6 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
3 淡褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、粘土粒子微量	8 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 繩文土器片32点が出土している。抽出・図示した土器を除いて全てが細片であり、土器片は覆土中に散在して出土している。282・283は覆土上～中層から廃棄されたような状況で出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。

第246号土坑出土遺物観察表（第186図）

番号	種別	器種	口径	断面	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
282	縄文土器	深井	—	(22)	83	R.L.の単節繩文を地文とし、平行沈底及び底状沈底により文様突出。	長石・石英・雲母	普通	にぶい青	覆土上層	PL44
283	縄文土器	深井	—	(102)	93	R.L.の単節繩文を縱方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	覆土中層	底部網代底

第248号土坑（第187・188図）

位置 調査区中央部の平坦部、土坑群中のC3d2区に位置している。

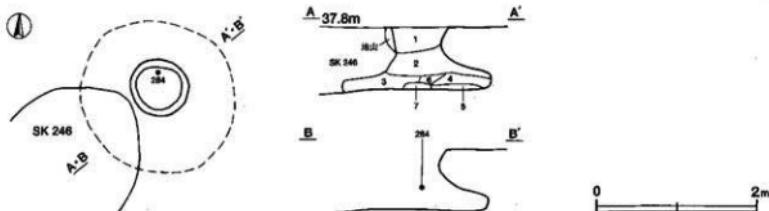
重複関係 第246号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部の平面形が径0.7mほどの円形を呈するフ拉斯コ状土坑である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.0m、短径1.8mほどの椭円形を呈している。深さ75cmほどで、壁は下位から大きく括れて内傾し、上位は外傾して立ち上がっている。また、底面から括れ部までの高さは50cmほどである。

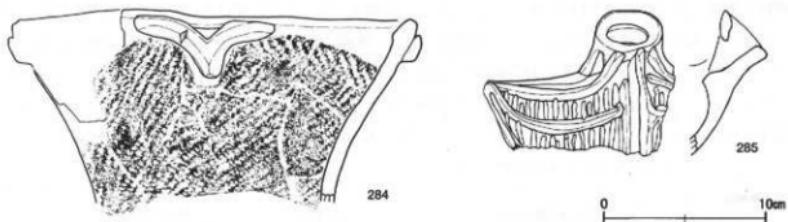
覆土 7層に分層される。全体的にやや締まりのある土層であり、全層にロームがブロック状に含まれていることから土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少額、炭化粒子微量	5 淡褐色	ロームブロック少額、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック少額
3 黒褐色	ロームブロック少額、炭化粒子微量	7 褐色	ローム粒子中量、粘土粒子微量
4 褐色	ロームブロック少額、炭化粒子微量		



第187図 第248号土坑実測図



第188図 第248号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片36点が出土している。抽出・図示した土器を除いて全てが細片であり、土器片は覆土中に散在して出土している。284は覆土中層、285は覆土中から出土しており、ともに廃絶後の埋め戻しに伴って廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。

第248号土坑出土遺物観察表（第188図）

番号	種別	器種	口径	基高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
284	縄文土器	深鉢	[241]	(110)	—	口沿部にV字状幾何文を點付。RLの單算縄文を縱方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	覆土中層	PL43
285	縄文土器	深鉢	—	(86)	—	後頭部に網籠状把手を作成。縄帶区間にによる口沿部幾何文帯が沿う。区画内に複数の比較文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	覆土	

第250号土坑（第189・190図）

位置 調査区中央部の平坦部、土坑群中のC3d1区に位置している。

重複関係 第246・249号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形が径1.1mほどの円形を呈するプラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径1.8m、短径1.6mほどの橢円形を呈している。深さは80cmほどで、壁は下位から大きく括れて内傾し、上位は外傾して立ち上がっている。また、底面から括れ部までの高さは50cmほどである。

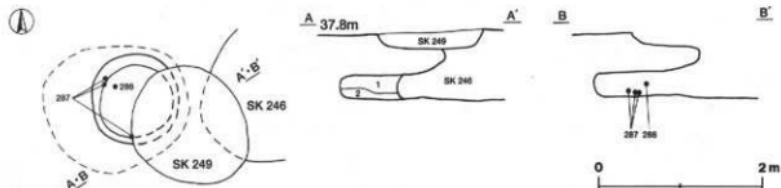
覆土 2層に分層される。下層の一部のみの土層観察であったため、堆積状況の詳細は不明である。

土層解説

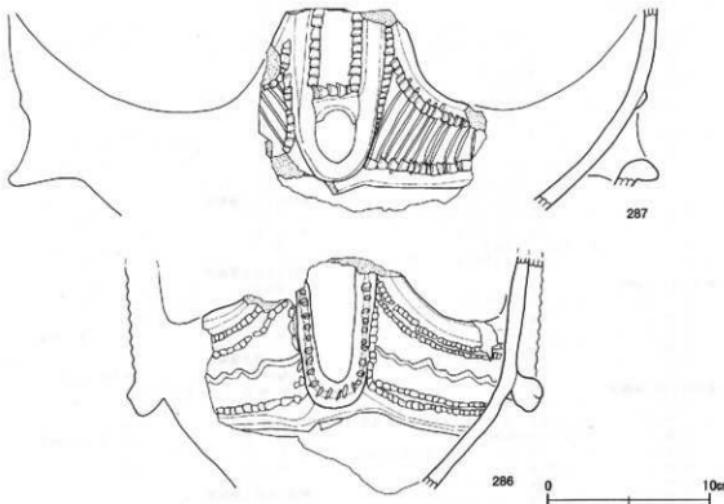
1 細褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

2 細褐色 ローム粒子少量、小礫微量

遺物出土状況 縄文土器片27点が出土している。抽出・図示した土器を除いて全てが細片であり、土器片は覆土



第189図 第250号土坑実測図



第190図 第250号土坑出土遺物実測図

中に散在して出土している。287は底面、286は覆土下層から出土しており、時期判断の指標となる遺物である。
所見 時期は、出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。

第250号土坑出土遺物観察表（第190図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
286	織文土器	深鉢	[224]	(91)	—	縹帶区画による口近部文様帯に結節沈線が沿う。区画内は横位の波状沈線文。波頭部から鋸みを有する幅円形縹帶文を貼付。胴上部無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	覆土下層	
287	織文土器	深鉢	[400]	(123)	—	縹帶区画による口近部文様帯に結節沈線が沿う。区画内は縦位の沈線文。波頭部から構円形縹帶文を貼付し、下位は構決把手を作出。胴上部無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐色	底面	

その他の土坑土層解説

第3号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量

第6号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 黑褐色 ローム粒子中量
- 4 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 黑褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 6 黑褐色 ローム粒子少量
- 7 黑褐色 ロームブロック少量

第13号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黑褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 4 黑褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 5 黑褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量
- 6 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第14号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黑褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
- 4 黑褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

第22号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量
- 2 深褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 4 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 7 黑褐色 ローム粒子中量、炭化物少量、焼土ブロック微量
- 8 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 9 黑褐色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量
- 10 褐色 ローム粒子中量、炭化物微量
- 11 黑褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 12 褐色 ロームブロック中量、砂粒微量
- 13 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子・砂粒微量
- 14 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
- 15 褐色 ローム粒子多量、炭化物微量
- 16 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

第25号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量
- 3 黑褐色 ロームブロック中量
- 4 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量

第26号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 黑褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量、燒土ブロック・炭化物微量
- 6 黑褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 7 新褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 8 新褐色 ロームブロック少量、燒土ブロック微量

第30号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量

第31号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子少量
- 2 黑褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 3 新褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第32号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量、燒土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

第33号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量、燒土ブロック・炭化物微量
- 3 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 4 黑褐色 ロームブロック少量、燒土ブロック微量

第38号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ローム粒子微量
- 3 黑褐色 ロームブロック少量
- 4 深褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量

第43号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量、燒土ブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第45号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、燒土ブロック微量

第46号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第49号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量

3 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

4 暗褐色 ロームブロック少量、燒土ブロック・炭化物微量

5 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

6 暗褐色 ロームブロック少量

第58号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、燒土粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量

第60号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第61号土坑土層解説

- 1 深褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック少量、燒土粒子微量
- 6 褐色 ロームブロック少量
- 7 明褐色 ロームブロック中量

第68号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 黑褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック微量
- 7 黑褐色 ローム粒子微量

第75号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子・焼土ブロック微量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 黑褐色 ロームブロック・燒土ブロック微量
- 5 黑褐色 ローム粒子微量
- 6 黑褐色 ロームブロック少量、燒土ブロック微量
- 7 黑褐色 烧土ブロック中量、ロームブロック少量
- 8 褐色 烧土ブロック多量、ローム粒子微量
- 9 黑褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 10 にじ褐色 粘土粒子多量、ローム粒子微量
- 11 黑褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量

第79号土坑土層解説

- 1 黑褐色 炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黑褐色 ロームブロック少量、燒土ブロック・粘土ブロック微量
- 4 黑褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 7 褐色 ロームブロック中量
- 8 暗褐色 ロームブロック中量、燒土ブロック・炭化粒子微量
- 9 褐色 ロームブロック多量
- 10 にじ褐色 粘土ブロック多量、ローム粒子・炭化物微量

第83号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黑褐色 ロームブロック少量
- 4 黑褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子多量

第84号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック中量、燒土ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量、燒土ブロック・炭化粒子微量

第85号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 3 赤褐色 ローム粒子少量
- 4 黑褐色 ロームブロック少量

第86号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 3 赤褐色 ロームブロック中量、燒土粒子微量

第90号土坑土層解説

- 1 赤褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 黑褐色 ロームブロック微量
- 3 赤褐色 ロームブロック中量

第94号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・燒土ブロック・炭化物微量
- 2 黑褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 赤褐色 ローム粒子中量
- 4 赤褐色 ロームブロック中量

第95号土坑土層解説

- 1 赤褐色 ローム粒子中量
- 2 赤褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 深褐色 ロームブロック中量
- 4 赤褐色 ロームブロック少量
- 5 赤褐色 ロームブロック中量
- 6 赤褐色 ローム粒子中量
- 7 赤褐色 ローム粒子多量

第96号土坑土層解説

- 1 赤褐色 ロームブロック中量
- 2 黑褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 黑褐色 ロームブロック少量
- 4 黑褐色 ロームブロック中量
- 5 黑褐色 ロームブロック少量
- 6 黑褐色 ローム粒子多量

第97号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化物微量
- 3 黑褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 4 黑褐色 ロームブロック少量、燒土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 5 赤褐色 ロームブロック少量
- 6 黑褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 7 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 8 赤褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 9 赤褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 10 赤褐色 粘土ブロック中量、一粒子粒子微量

第98号土坑土層解説

- 1 赤褐色 ローム粒子微量
- 2 赤褐色 ロームブロック少量
- 3 赤褐色 ロームブロック少量
- 4 赤褐色 ローム粒子少量
- 5 黑褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 6 黑褐色 ローム粒子少量

第99号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量
- 2 深褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 深褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 4 黑褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 5 赤褐色 ロームブロック中量
- 6 黑褐色 ロームブロック少量
- 7 黑褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 8 赤褐色 ロームブロック少量、砂粒微量
- 9 赤褐色 ロームブロック少量、砂粒少量
- 10 黑褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 11 赤褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 12 黑褐色 ロームブロック少量
- 13 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 14 赤褐色 ロームブロック中量

第110号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・燒土ブロック・粘土ブロック微量
- 2 深褐色 ロームブロック少量、燒土ブロック・粘土ブロック微量
- 3 深褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量、炭化物微量

4 赤褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量、炭化物微量

第112号土坑土層解説

- 1 黑褐色 燃土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量、燒土ブロック・炭化粒子微量
- 3 赤褐色 ロームブロック多量

第116号土坑土層解説

- 1 赤褐色 ローム粒子微量
- 2 赤褐色 ロームブロック中量

第118号土坑土層解説

- 1 赤褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 赤褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 赤褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 赤褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 5 赤褐色 ローム粒子少量
- 6 黑褐色 ローム粒子微量
- 7 赤褐色 粘土粒子少量、ローム粒子微量

第125号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子微量
- 2 黑褐色 ロームブロック微量
- 3 黑褐色 ローム粒子少量
- 4 赤褐色 ロームブロック少量
- 5 黑褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 6 赤褐色 ロームブロック微量

第127号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・燒土ブロック・炭化物微量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化物微量
- 3 黑褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 4 赤褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 黑褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 6 赤褐色 ロームブロック微量
- 7 赤褐色 ロームブロック少量、燒土ブロック・炭化粒子微量
- 8 黑褐色 ロームブロック少量

第128号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 赤褐色 ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 3 赤褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

第153号土坑土層解説

- 1 黑褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・燒土ブロック微量
- 2 黑褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黑褐色 ロームブロック・燒土ブロック・炭化物微量
- 4 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 赤褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 6 黑褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量

第155号土坑土層解説

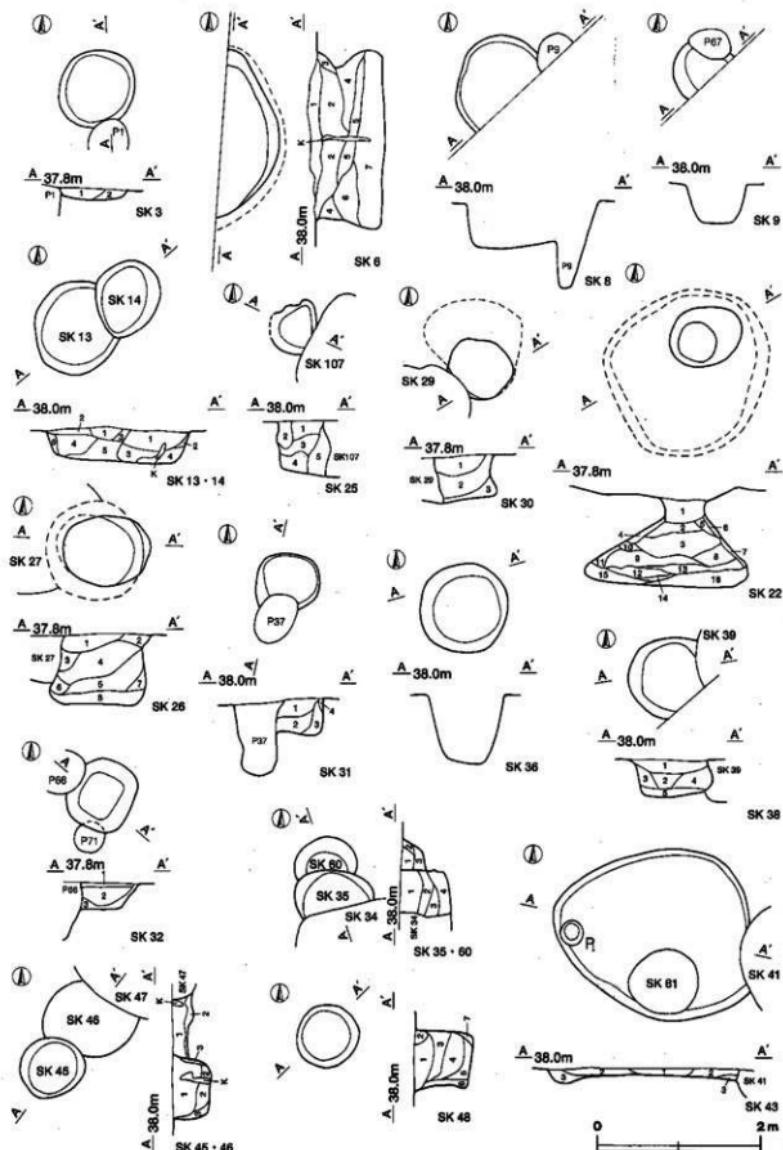
- 1 赤褐色 ロームブロック少量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黑褐色 ロームブロック少量
- 4 赤褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 赤褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 6 黑褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量

第164号土坑土層解説

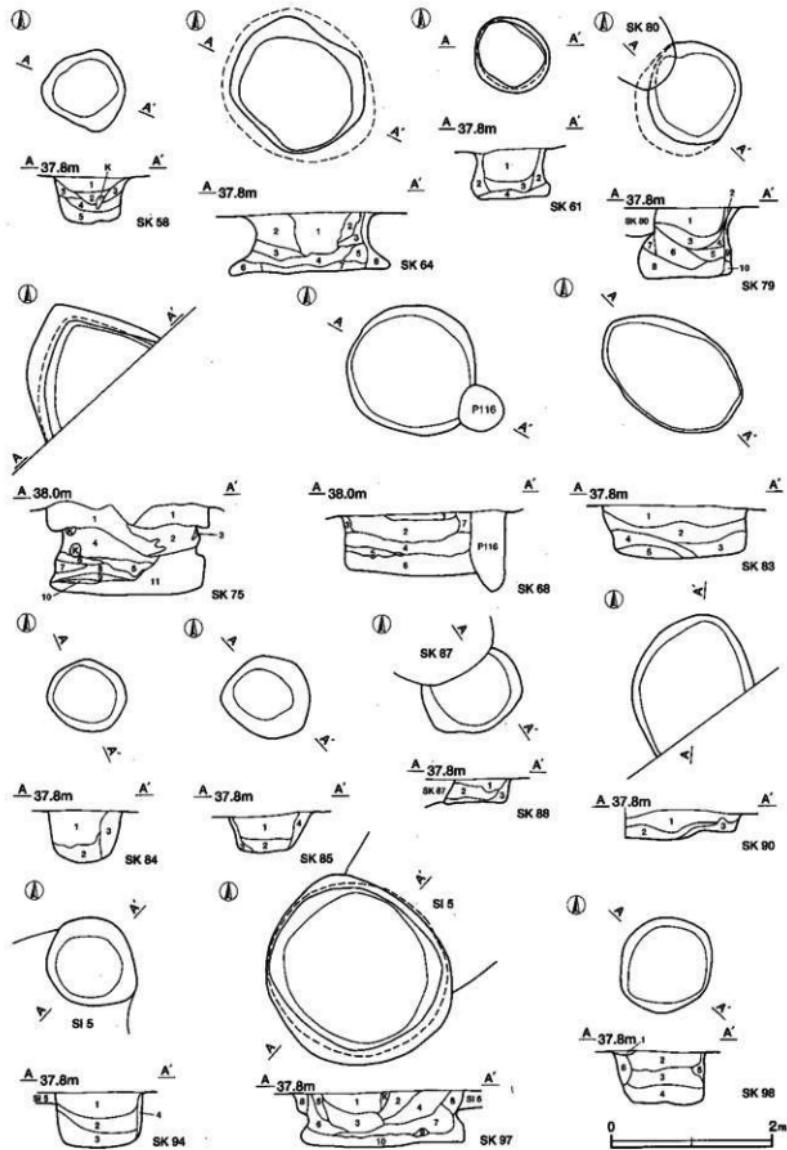
- 1 赤褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 2 赤褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 赤褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 赤褐色 粘土粒子少量、ローム粒子微量
- 5 赤褐色 粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 6 赤褐色 ロームブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 7 赤褐色 ロームブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量
- 8 明褐色 粘土粒子多量、ローム粒子微量
- 9 赤褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・粘土ブロック微量
- 10 赤褐色 粘土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 11 明褐色 粘土粒子多量

第180号土坑土層解説

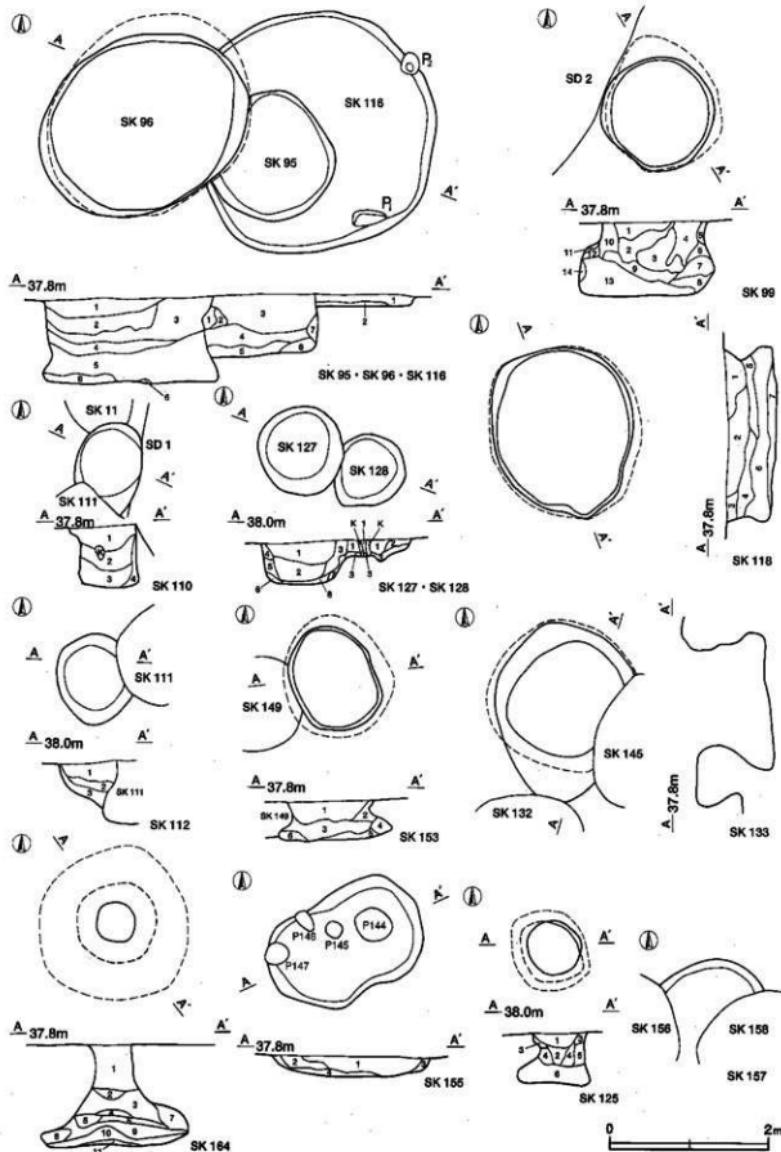
- 1 黑褐色 ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 赤褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 赤褐色 ロームブロック少量
- 4 赤褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 5 黑褐色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
- 6 深褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、燒土粒子微量
- 7 深褐色 ロームブロック・燒土粒子・炭化物微量
- 8 深褐色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
- 9 深褐色 ロームブロック少量、燒土粒子微量



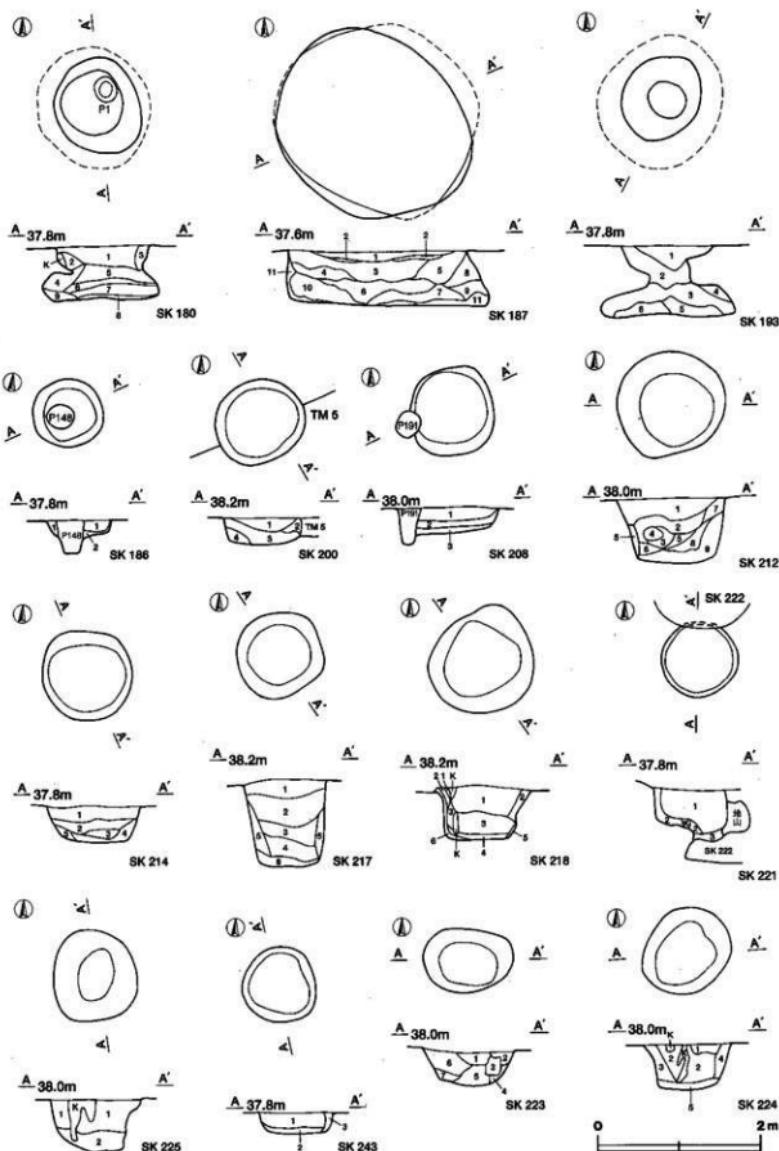
第191図 繩文時代その他の土坑実測図（1）



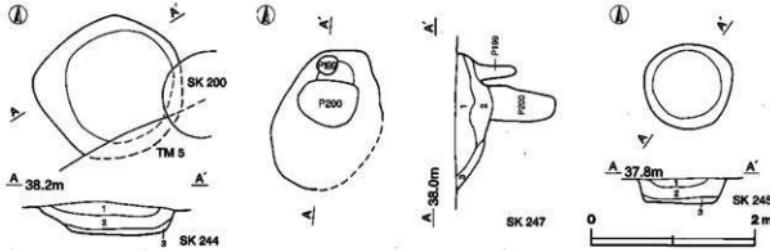
第192図 縄文時代その他の土坑実測図（2）



第193図 縄文時代その他の土坑実測図（3）



第194図 繩文時代その他の土坑実測図（4）



第195図 繩文時代その他の土坑実測図（5）

第186号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第187号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、燒土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黑褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量
- 4 楊葉褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 黑褐色 ロームブロック微量
- 6 楊葉褐色 ロームブロック中量
- 7 黑褐色 ロームブロック微量
- 8 黑褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量
- 9 黑褐色 ロームブロック微量
- 10 黑褐色 ロームブロック微量、燒土粒子微量
- 11 褐色 ロームブロック中量

第193号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・燒土粒子・炭化物少量
- 3 黑褐色 ロームブロック・焼土粒子・燒土粒子微量
- 4 暗褐色 炭化物微量、ロームブロック微量
- 5 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 6 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第200号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子少量
- 2 黑褐色 ロームブロック微量
- 3 黑褐色 ローム粒子微量
- 4 黑褐色 ロームブロック・粘土粒子微量

第208号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

第212号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 3 黑褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量
- 4 黑褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック微量
- 6 黑褐色 ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ロームブロック微量
- 8 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 9 褐色 ロームブロック少量

第214号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 ローム粒子中量

第217号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子・燒土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
- 3 黑褐色 ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量

- 4 黑褐色 ローム粒子・燒土ブロック・炭化物微量
- 5 黑褐色 ロームブロック微量、燒土粒子・炭化物粒子微量
- 6 褐色 ロームブロック中量

第218号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子・燒土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黑褐色 ローム粒子・炭化物微量
- 4 黑褐色 ロームブロック少量
- 5 黑褐色 ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量

第221号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量、燒土ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物粒子微量

第223号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量
- 4 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 5 黑褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量、燒土粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量

第224号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・燒土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量、燒土粒子微量

第225号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第243号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第244号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第245号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第247号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量、燒土ブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

(4) ピット

この項で取り扱うピットは、形態から土坑としてとらえるには規模の小さい径0.8m以下のもの、径に対して深さが深いものと定義した。用途としては貯蔵穴、柱穴などが想定されるが、遺物の出土量が少少で、規則的な配列も見られなかったことから、その機能や性格は不明である。ここでは、本調査区で確認した193基のピットのうち、遺物の出土状況が良好な3基について解説を加え、それ以外のものは一覧表で記載する。

第40号ピット（第196図）

位置 調査区中央部の平坦部、土坑群中のC3j1区に位置している。

規模と形状 平面形は長径0.45m、短径0.35mほどの椭円形である。確認面からの深さは50cmほどで、断面形はU字状である。

覆土 2層に分層される。黒褐色を基調とした含有物の微少な土層で、レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。

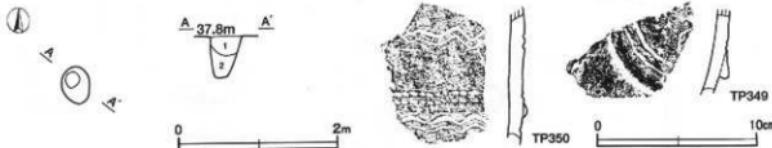
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 繩文土器片19点が出土している。TP349・TP350はいずれも覆土中層から出土している。

所見 全ての土器が細片で、時期判断が可能な土器は覆土中層からの出土であるため判然としないが、時期は出土土器から中期中葉（阿玉台II式期）以前と考えられる。



第196図 第40号ピット・出土遺物実測図

第40号ピット出土遺物観察表（第196図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	断土	焼成	色調	出土位置	備考
TP349	縄文土器	深鉢	—	(5.3)	—	縄帶区画による口部文様帶に複列の結節沈覗が沿う縄帶区画。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐色	覆土中層	
TP350	縄文土器	深鉢	—	(8.5)	—	縄帶区画による側面文様帶に結節沈覗が沿う、斜抜竹管による横位の波状沈覗文を施す。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐色	覆土中層	

第97号ピット（第197図）

位置 調査区西部の平坦部、方形周溝墓群中のC3j4区に位置している。

規模と形状 平面形は径0.45mほどの円形である。確認面からの深さは116cmほどで、断面形はU字状である。

覆土 2層に分層される。黒褐色を基調としたやや縮まりのある土層で、レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。

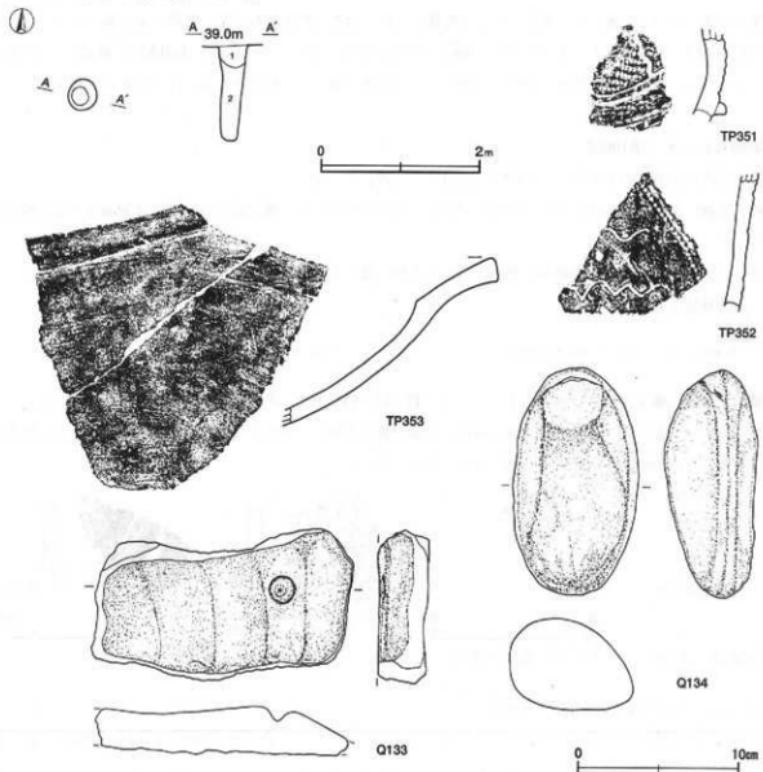
土層解説

1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・ロームブロック微量

2 黒褐色 ロームブロック微量、燒土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 繩文土器片44点、石皿1点、磨石1点が覆土中から出土している。

所見 土器のほとんどが細片で、覆土中からの出土であるため判然としないが、時期は出土土器から中期中葉（阿台Ⅲ式期）以前と考えられる。



第197図 第97号ピット・出土遺物実測図

第97号ピット出土遺物観察表（第197図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP351	縄文土器	深鉢	—	(5.8)	—	縦帶区間にによる口沿部文様帶に手執竹管による平行沈線がある。区間内はRしの單節純文を地文とし波次沈線文を施文。	長石・石英・雲母	普通	褐灰	覆土	
TP352	縄文土器	深鉢	—	(8.5)	—	波状沈線及び単節純文で文様描出。	長石・石英・雲母	普通	灰青褐	覆土	
TP353	縄文土器	浅鉢	—	(10.5)	—	口唇部肥厚。無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい棕	覆土	内外面研磨

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q133	石皿	(94)	(16.0)	(21)	(686.8)	雲母片岩	表面が浅い皿状に盛む。表面1孔。	覆土	
Q134	磨石	140	90	57	747.4	安山岩	全表面を使用。	覆土	

第174号ピット（第198図）

位置 調査区中央部の平坦部、土坑群の外縁部にあたるB4f1区に位置している。

規模と形状 平面形は径0.35mほどの円形である。確認面からの深さは85cmほどで、断面形はU字状である。

覆土 2層に分層される。黒褐色を基調とした含有物の微少な土層で、レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、塊土粒子・炭化粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量



第198図 第174号ピット・出土遺物実測図

第174号ピット出土遺物観察表（第198図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
P288	縄文土器	深鉢	[99]	98	62	口唇部肥厚。腹部は複数の条縞文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	覆土	TP254と同一個体 赤鉄鉱代用
TP354	縄文土器	深鉢	—	(47)	—	口唇部肥厚。口辺部に貫通孔を有する。脇部 は撫頭状工具による条縞文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	覆土	288と同一個体

表2 縄文時代ピット一覧表

番号	位置	長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	番号	位置	長径(m)	短径(m)	深さ(cm)
1	D2a0	0.55		75	16	C3g2	0.41	0.29	66
2	C2j0	0.50	0.44	32	17	C3g2		0.43	32
3	C3j1	0.37	—	105	18	C3g1	0.37	0.31	34
4	C2g0	0.36	[0.28]	68	19	C3f1	0.25	0.22	60
5	C2j0	0.60	(0.28)	45	20	C3f1	0.28	0.22	40
6	C3i1	0.39		87	21	C3f1	0.34	0.25	40
8	C3i1	0.38	0.34	56	22	C3f1		0.24	55
9	C3i2	0.54	(0.28)	107	23	C3f2	0.36	0.27	47
10	C3g1	0.49	0.41	106	24	C3f2	0.30	0.23	38
11	C3h2	0.57	0.39	66	25	C3f2		0.29	29
12	C3g1	0.33	0.23	21	26	C3e2		0.17	23
13	C3g1	0.41	0.32	55	27	C3e2		0.29	20
14	C3g2	0.40	0.32	82	28	C3e2	0.32	0.25	54
15	C3g2	0.20		24	29	C2e8	0.80	0.50	37

番号	位置	長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	番号	位置	長径(m)	短径(m)	深さ(cm)
30	C3h3	0.54		62	80	B3i0	0.53	0.49	71
31	C2e5	0.60		34	81	C3b9	0.25	0.21	53
32	C3f2	0.32	0.27	70	82	C3a6	0.58		74
33	C3g2	0.46		120	83	C3h2	0.48		70
34	C3g2	0.34		57	84	C3h2	0.32	[0.26]	68
35	C3g2	0.35		73	85	C3b9	0.25	0.23	67
36	C3h1	0.39	0.31	75	86	C3d2	0.38	0.32	74
37	C3e4	[0.66]	0.46	87	87	C3e2	0.41		58
38	C3h1	0.35	0.23	57	88	C3f3	0.37		72
39	C3h1	0.45	[0.40]	79	89	C3e3	0.46	0.42	29
40	C3j1	0.45	0.35	50	90	C3f3	0.22		42
41	C3j1	0.26		27	91	C3e3	0.34	0.28	41
42	C3j1	0.42	0.29	63	92	C3e3	0.40	0.30	61
43	C3i1	0.29		14	93	C3e3	0.30	0.25	33
44	C3i1	0.43	0.35	68	94	C3e3	0.43	0.30	65
45	C3i1	0.38		88	95	C3e3	0.28		37
46	C3h1	0.43		74	96	B4i1	0.67	0.50	98
47	C3h1	0.29	0.21	64	97	C3f4	0.45		116
49	C3f3	0.25	0.10	21	98	C3d6	0.36		64
50	C3f3	0.33	0.30	42	99	B4j2	1.09	0.86	132
51	C3e3	0.35	0.28	31	100	B4j1	0.20	0.18	不明
52	A5j4	0.50	0.40	70	101	B4j1	0.59	[0.48]	104
53	B4f5	0.48	0.40	37	102	B4j1	0.45	0.37	75
54	B4g4	0.51	0.46	60	103	B3h9	0.75	0.67	51
55	C3d6	0.10	0.08	63	104	B3h9	0.75	0.63	65
56	C3e6	0.47	0.40	66	105	B3j8	[0.10]		31
57	C3g2	0.34		82	106	B3j9	0.63	0.45	74
58	C3g2	0.38	0.26	68	107	B3i9	0.74	0.36	110
59	C3g2	0.28		60	108	B3i9	0.50	0.45	54
60	C3g2	0.37	0.28	61	110	C3a3	0.50		22
61	B4g5	0.64	0.54	62	111	C3a2	0.52		55
62	B3h9	0.32	0.24	81	112	C3a2	0.38	0.33	49
63	B3h9	0.33		70	113	C3a2	0.33	0.26	76
64	C3f3	0.30		60	114	C3a2	0.41	0.29	48
65	C3g1	0.26		24	115	B4h1	0.23		28
66	C3e3	0.61	0.43	96	116	B4i1	0.55		99
67	C3i2	0.11	0.08	86	117	B3h6	0.53	0.40	92
68	C3i3	0.55	[0.39]	92	118	B3g8	0.62	0.47	55
69	C3i3	[0.36]	0.49	60	119	C3a2	0.30		67
70	C3h3	0.51	[0.43]	48	120	B3i0	0.50		111
71	C3e3	0.40	[0.36]	65	121	B4i1	0.37		51
72	C3b9	0.31		93	122	B4f4	0.39	0.30	21
73	B4i2	0.85	0.75	102	123	B4i3	0.42		20
74	B4i1	0.45		81	124	B4h4	0.37	0.31	18
75	C3e4	0.36		50	125	C3f5	0.23		29
76	C3e4	0.27	0.20	52	126	C3e4	0.46	0.41	62
77	C3f2	0.19		28	127	B3g0	[0.70]	0.50	58

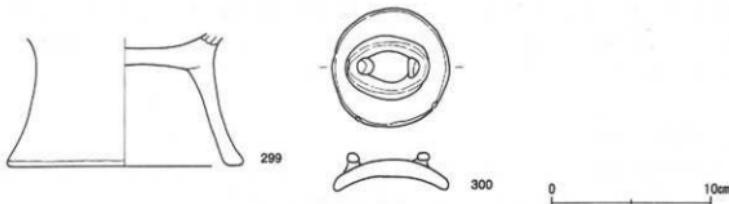
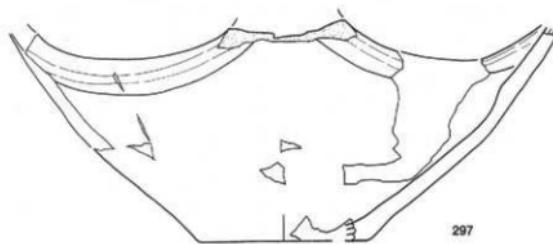
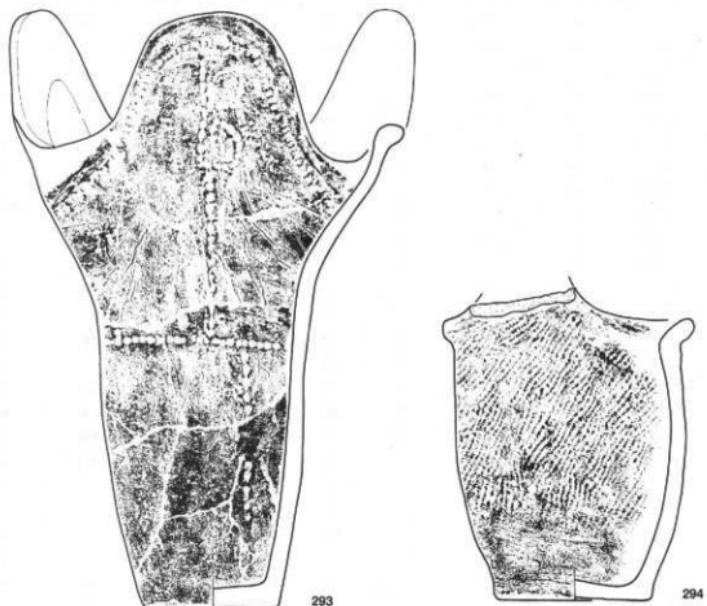
番号	位置	長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	番号	位置	長径(m)	短径(m)	深さ(cm)
128	B3g7	0.51	0.32	60	165	C3a7	0.80	0.60	不明
129	B3g7	[0.56]	0.48	81	166	C3e1		0.20	28
130	B3g8	[0.40]		59	167	C3e1	0.20	(0.10)	23
131	C3a6	0.77	0.46	75	168	C3f4	0.41	0.27	168
132	C3b6	0.78	0.39	74	169	B3j9		0.40	26
133	B3f0	0.45	0.39	36	170	B4h1		0.35	40
134	B4g1	0.58	0.46	91	171	B4h1	0.44	0.33	45
135	B3j8	0.41		12	172	B3h0		0.40	38
136	B3j8	0.51	0.43	23	173	B4f1	0.55	0.46	74
137	C3a8	0.56	0.38	44	174	B4f1		0.35	85
138	C3a8	0.43		79	175	B4f1	0.13	0.95	85
139	C3a7	0.65	0.48	53	176	B3f9	0.35	0.25	58
140	B3j9	0.60		62	177	B3g9	0.60	0.38	68
141	B3j9	0.50	0.40	37	178	B3g8	0.56	0.47	61
142	C3d3	0.42	0.33	48	179	B3i9		0.43	70
143	C3d3	0.40	0.31	54	180	B3i9	0.46	0.39	73
144	C3a3	0.50	0.42	54	181	B3g9	0.58	0.46	98
145	C3a2		0.24	59	182	B3g9	0.60	0.44	107
146	C3a2	0.28	0.15	51	183	C3e5	0.30	0.14	44
147	C3a2		0.28	57	184	C3e5		0.44	72
148	C2c7		0.25	42	185	C3d7		0.35	78
149	C3e2		0.50	92	187	C3d8	0.41		82
150	C3a7	0.54	0.49	65	188	C3h0		0.58	43
151	C3a7	0.64	0.48	53	189	B4g1	0.53	0.41	98
152	C3a7		0.27	21	190	C2g1	0.48	0.39	62
153	C3a7		0.42	62	191	C2e5	[0.34]	0.30	60
154	C3a6		0.70	100	192	B3i7		0.27	50
155	C3b4		0.41	不明	193	C2h5		0.35	62
156	C3a7	0.68	0.57	81	194	C2d8		0.34	64
157	C3a2	0.98	0.56	75	195	C2g1		0.45	60
158	C2f0		0.50	93	196	C3b3	0.53	0.43	64
159	C3e1	0.55	0.35	52	197	C3b3		0.37	41
160	C3e1		0.40	86	198	C3b3		0.25	33
161	B3j5	0.34	0.23	37	199	B3j9	0.30	0.23	31
162	B3j5	0.47	0.31	47	200	B3j9	0.77	0.61	81
163	B3j5	0.37	0.30	38	201	C3f5		0.26	53
164	B3j5	0.47	0.30	35	202	C2e9		0.61	77

遺物出土状況 繩文土器片5点が出土している。288、TP354はいずれも覆土中から出土している。

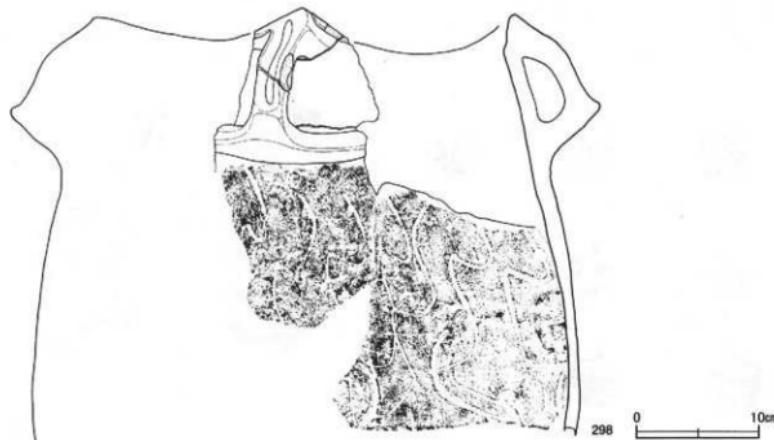
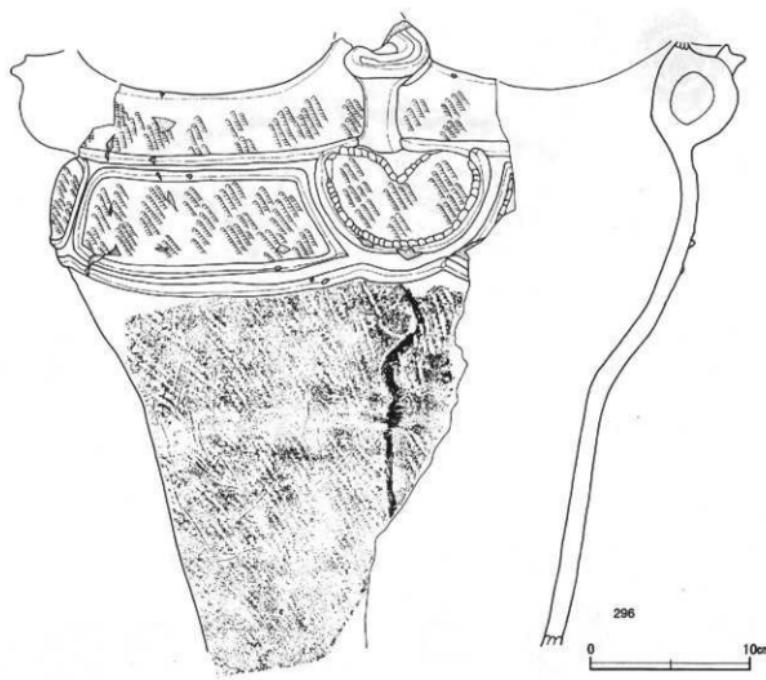
所見 全ての土器が細片で、覆土からの出土であるため判然としないが、時期は出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）以前と考えられる。

（5）遺構外出土遺物

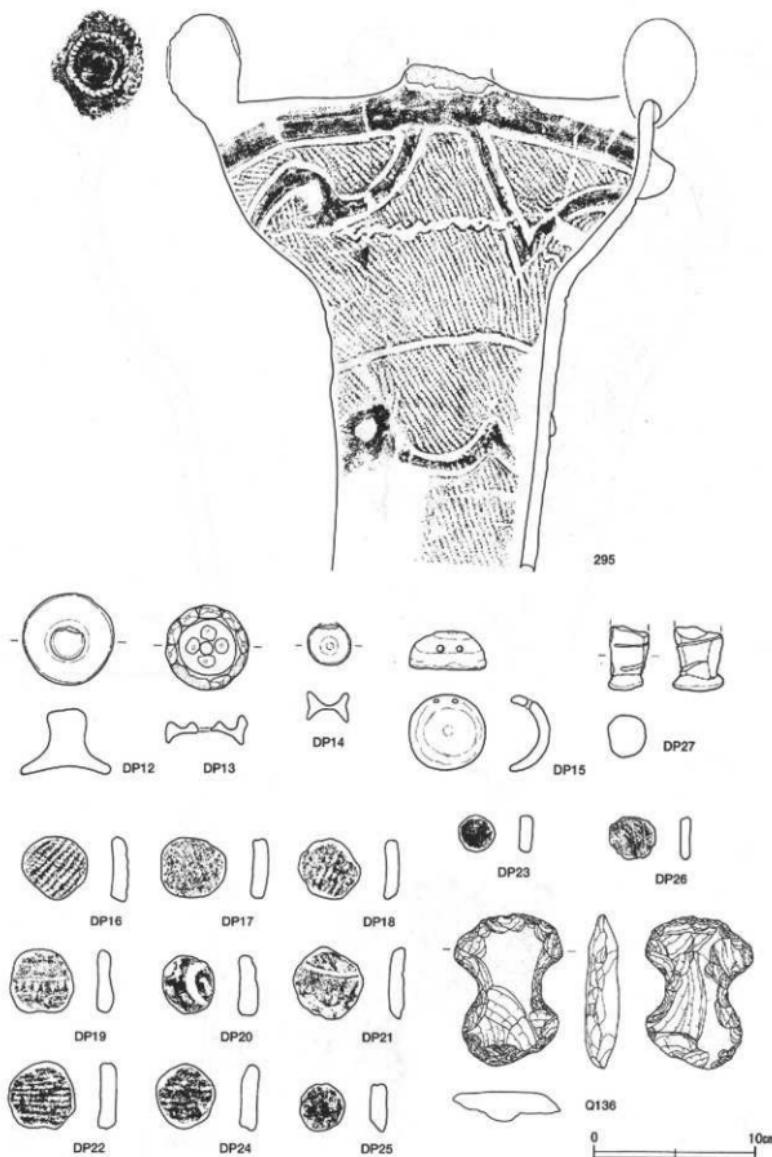
表土と他時期の遺構から出土した多量の遺構外出土遺物のうち、完形または完形に近いもの及び特徴的なものを抽出して掲載する（第199～204図）。なお、解説は遺物観察表で示した。



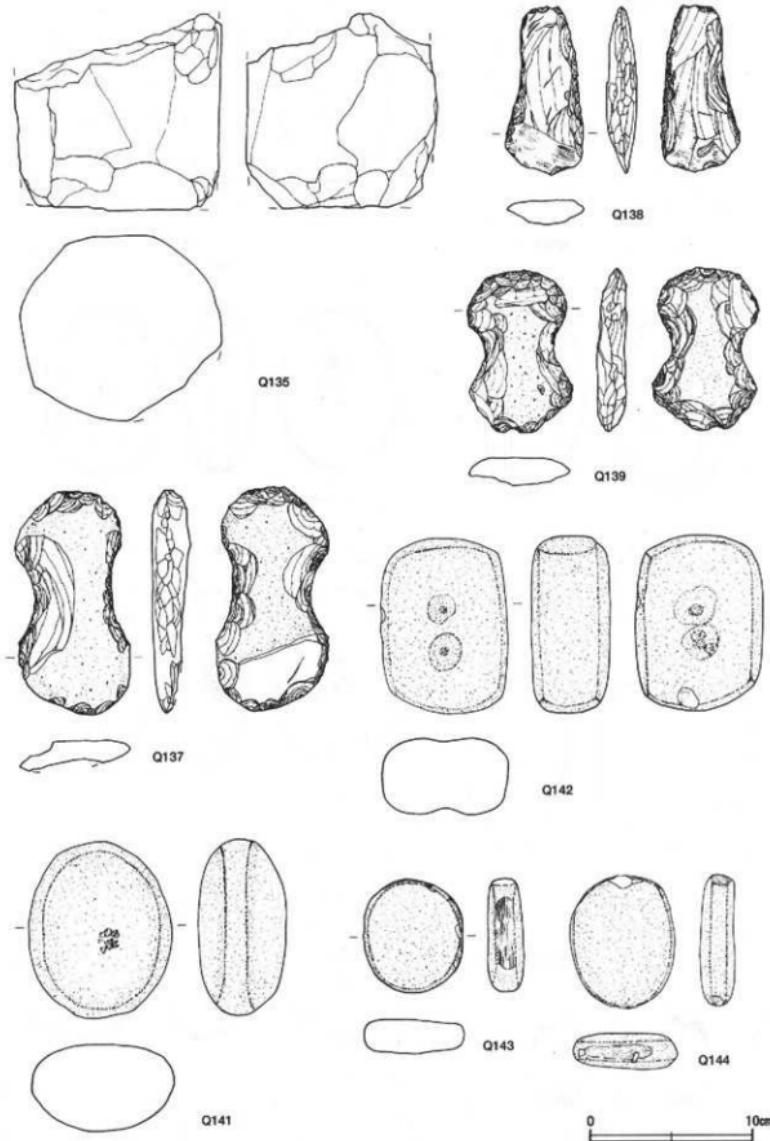
第199図 遺構外出土遺物実測図（1）



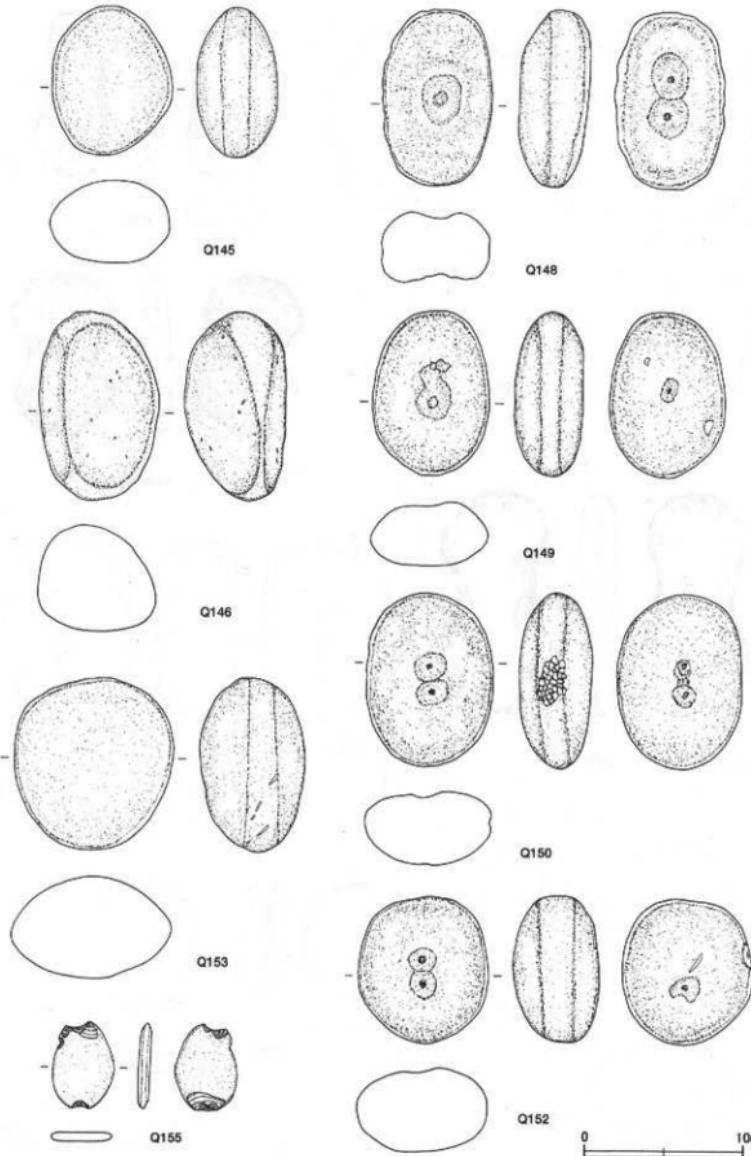
第200図 遺構外出土遺物実測図（2）



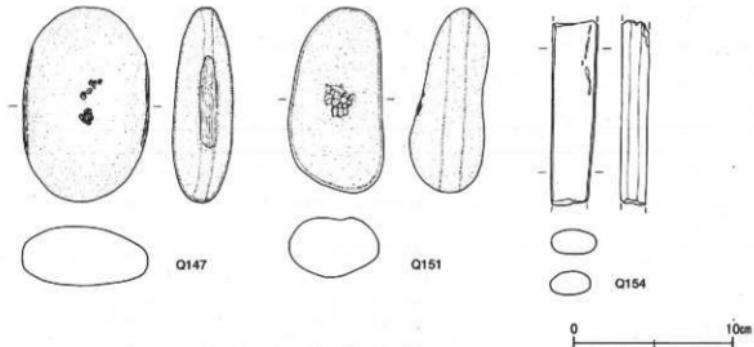
第201図 遺構外出土遺物実測図（3）



第202図 遺構外出土遺物実測図（4）



第203図 遺構外出土遺物実測図（5）



第204図 遺構外出土遺物実測図（6）

遺構外出土遺物観察表（第199～204図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
293	縄文土器	深鉢	[248]	367	82	口部下層に縦帶が温り、底部に沿って筋節沈縫を施す。口部及び側部は筋節沈縫により文様描出。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐色	C3区表土中 中期中葉	PL43
294	縄文土器	深鉢	151	(190)	93	L.Rの半筋縫文を板及び斜方向に施す。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	T.M1裏土中 中期中葉	PL43
295	縄文土器	深鉢	282	(341)	—	腰部区画による口部弦文帯に波線が沿う。腹部は刷毛及び筋節沈縫を有する縦帶により把手作付。胴上部に波線区画文が施し、下部に波線が沿う。腰部により文様描出。地文はL.Rの半筋縫文。	長石・雲母	普通	にぶい赤褐色	C2区表土中 中期中葉	PL43
296	縄文土器	深鉢	[45.1]	(38.5)	—	腰部区画による口部弦文帯。腰頂部下の区画内には腰部に沿って筋節沈縫文。波頭部に横状把手を施す。腰部は隆起文が重なり。地文はL.Rの無筋縫文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐色	C2区表土中 中期中葉	PL43
297	縄文土器	浅鉢	[340]	(130)	[104]	口部下層に縦帶が温る。無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	C3区表土中 中期中葉	PL43
298	縄文土器	蓋	—	(35.1)	—	L.R部無文部の下層を次第に波面し、無文部脇に横状把手を作する。胴際は曲線部近の沈縫化。	長石・石英	普通	橙	B3区表土中 後期前葉	PL43
299	縄文土器	台付鉢	—	(8.0)	[144]	台形無文。	長石・石英	普通	にぶい黄褐色	C3区表土中 後期後葉	PL44
300	縄文土器	蓋	72	23	—	表面に指円形彫刻文を発見し、その両端に孔を穿ち把手を作す。	長石・雲母	普通	にぶい橙	C3区表土中 後期前葉	PL43

番号	器種	計測値	胎土・色調	特徴	出土位置	備考			
DP12	耳鉢	長さ 55 幅 57 厚さ 40 (45.1)	長石・雲母、にぶい橙	無文で皿状に温み、上げ底状を呈する。	C3区表土中	PL47			
DP13	耳鉢	5.1	長石・雲母、にぶい褐色	中央部に貫通孔。表面は胎體で粗鈍。表面は皿状に温む。	T.M1裏土中	PL47			
DP14	耳鉢	(24)	長石・雲母、橙	断面形は椎状を呈する。両端が大きく温む。	T.M5裏土中	PL47			
DP15	重輪カ	46	48	0.6	29.3	長石、橙	半球状を呈する。側面2孔。	C3区表土中	PL47
DP16	上器円盤	40	40	1.0	17.3	長石・石英・雲母、褐灰	R.Lの半筋縫文。周縁部荒削り。	T.M1裏土中	PL48
DP17	土器円盤	36	40	0.8	17.8	長石・明赤褐色	R.Lの半筋縫文。周縁部荒削り。	T.M1裏土中	PL48
DP18	上器円盤	37	38	0.9	13.6	長石・石英・雲母、橙	R.Lの半筋縫文。周縁部荒削り。	T.M1裏土中	PL48
DP19	土器円盤	39	39	1.0	15.7	長石、橙	横位の条線文及び糸形文。周縁部荒削り。	T.M1裏土中	PL48
DP20	土器円盤	36	31	1.2	15.7	長石、にぶい橙	沈縫による渦巻文。周縁部研磨。	B2区表土中	PL48
DP21	土器円盤	43	43	0.9	18.8	長石・石英・雲母、灰褐色	R.Lの半筋縫文を地文に沈縫削を施す。周縁部荒削り。	T.M5裏土中	PL48
DP22	土器円盤	41	41	1.1	20.3	長石・石英・雲母、橙	R.Lの半筋縫文。周縁部荒削り。	S.D1裏土中	PL48
DP23	土器円盤	22	22	0.8	4.5	長石・雲母、にぶい赤褐色	無文。周縁部研磨。	C3区表土中	PL48

番号	器種	計測値				黏土・色調	特徴			出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量						
DP24	土器円盤	39	37	10	15.1	長石、にぶい黄褐色	L Rの単節縄文。周縁部削り。			表土中	PL48
DP25	土器円盤	29	28	10	8.4	長石・石英・雲母、褐灰	無文。周縁部研磨。			表土中	PL48
DP26	土器円盤	26	28	0.5	5.2	長石・雲母、にぶい赤褐色	Rの無筋縄文を地文に複数の沈線文。周縁部削り。			表土中	PL48
DP27	土器	(49)	(24)	(32)	32.9	長石・石英、にぶい黄	山形土器の左肩部分。轉部外側に2条の沈線文。			S 1 8 覆土中	PL47

番号	器種	計測値				材質	特徴			出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量						
Q135	石斧	(120)	(125)	(112)	(202.1)	安山岩	原産を素材とし、表面を研磨する。			TM 1 覆土中	
Q136	打製石斧	94	65	21	116.7	安山岩	分類型。抉入部は浅い。			TM 1 覆土中	PL49
Q137	打製石斧	15.1	7.1	2.3	(236.7)	安山岩	分類型。抉入部は浅い。			S D 1 覆土中	PL49
Q138	打製石斧	102	48	19	96.8	砂岩	鋸形。刃部を局部磨削する。部分研磨。			B 3 区表土中	PL49
Q139	打製石斧	100	65	19	140.3	安山岩	分類型。抉入部は浅い。			C 2 区表土中	PL49
Q141	磨石	108	89	53	667.9	安山岩	全側面を使用。表面に磨打痕。			TM 1 覆土中	PL51
Q142	磨石	107	78	49	570.6	安山岩	全側面を使用。側面の使用痕顕著。表面各2孔。			TM 1 覆土中	PL51
Q143	磨石	69	62	23	150.4	安山岩	全側面を使用。側面の使用痕顕著。			TM 1 覆土中	PL51
Q144	磨石	81	65	22	173.1	砂岩	全側面を使用。一側縁の使用痕顕著。			TM 1 覆土中	
Q145	磨石	9.0	73	5.1	348.2	安山岩	全側面を使用。			S D 3 覆土中	
Q146	磨石	11.7	74	67	637.2	安山岩	全側面を使用。			D 2 区表土中	
Q147	磨石	11.9	7.8	3.7	477.0	安山岩	全側面を使用。一側縁の使用痕顕著。			TM 1 表土中	
Q148	磨石	108	68	45	445.4	安山岩	全側面を使用。表面1孔。裏面2孔。			B 3 区表土中	PL51
Q149	磨石	100	72	43	408.5	安山岩	全側面を使用。裏面2孔。裏面1孔。			C 3 区表土中	
Q150	磨石	10.6	7.8	4.6	493.4	安山岩	全側面を使用。裏面各2孔。一側縁に磨打痕。			B 3 区表土中	PL51 全面被熱膜
Q151	磨石	11.3	6.0	4.8	306.9	安山岩	全側面を使用。表面に磨打痕。			C 3 区表土中	
Q152	磨石	9.0	8.1	5.2	512.7	砂岩	全側面を使用。表面2孔。裏面1孔。			B 3 区表土中	
Q153	磨石	10.5	9.8	6.6	826.2	安山岩	全側面を使用。			B 3 区表土中	
Q154	石劍	(11.3)	(28)	(1.7)	(102.1)	練泥片岩	周縁部欠損。			S 1 8 覆土中	PL47
Q155	石錐	53	38	0.8	18.8	砂岩	長縦方向の両端に抉り切れ目を有する。			C 3 区表土中	PL48

表3 縄文時代堅穴住居跡一覧表

遺構番号	位置	主軸方向 (長軸方向)	平面形		規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	周溝	ピット			炉	覆土	主な出土遺物	重複關係 (古→新)	
			主軸方向 (長軸方向)	周溝					柱穴	柱穴	人口					
2	A5 j 2	N - 61° - W	隅丸長方形		67×4.6	16~42	有段	断続	4	3	—	3	—	自然	漆鉢、浅鉢、凹石	本跡→SE1
3	A4 j 9	N - 5° - E	[隅丸方形]		(3.6×2.8)	34~36	平坦	—	1	—	—	1	—	自然	漆鉢、浅鉢、磨石	
4	B4 d 0	N - 0°	[方形、菱方形]		(2.8×2.6)	8~12	平坦	—	—	—	—	—	—	不明	漆鉢、磨石	
5	B4 f 3	N - 47° - E	[長方形・楕円形]		[5.3×2.5]	12~17	平坦	—	1	5	—	5	—	自然	漆鉢、磨製石斧、磨石、磨石	本跡→SK94・97・121
6	C3 b 5	N - 48° - W	長方形		33×2.6	8	平坦	—	4	—	—	4	—	不明	漆鉢、浅鉢、磨石	本跡→SK150
7	C2 e 8	N - 2° - E	[不整方形・不整長方形]		(4.3×2.8)	8	平坦	—	2	1	—	3	—	不明	漆鉢、磨製石斧、磨石、磨石	SK202・220→本跡→P194、TM1
9	D1 a 9	N - 5° - E	不整方形		39×3.6	6~10	平坦	—	—	—	—	—	—	不明	漆鉢、磨石	

表4 繩文時代土坑一覧表

遺構 番号	位 置	開口部 平面形	規 格			梗 面	底面	ピット	覆 土	主な出土遺物	重複関係 (旧→新)
			底部(長径×短径m)	底部(長径×短径m)	深さ(cm)						
1	D2a0	円 形	0.8	—	32	直立	平坦	—	人為	深鉢、土器円盤	P 1→本跡
2	C3i1	円 形	1.0	—	30	外傾	平坦	—	自然	深鉢、磨石	本跡→P 8
3	D2a0	円 形	1.0	—	13	板状	平坦	—	不明	深鉢	本跡→P 1
4	C3h1	楕円形	2.0×1.8	—	54	外傾	平坦	—	人為・自然	深鉢、浅鉢、壳、土器円盤、着G	P 39→本跡→P 38・47
5	C2h0 [楕円形]	2.0×(0.6)	1.9×(0.6)	93	フ拉斯コ	平坦	—	—	自然	深鉢	
8	C3i2 [円 形]	1.2×(0.8)	—	55	直立	平坦	—	不明	深鉢	本跡→P 9	
9	C3i2 [円 形]	[0.8]	—	50	外傾	平坦	—	小明	深鉢	本跡→P 67	
10	C3i2	円 形	1.5	—	33	外傾	平坦	—	人為	深鉢	
11	C3g3	円 形	1.9	—	34	外傾	平坦	—	人為	深鉢、土器円盤	本跡→S K110
12	C3h3	楕円形	1.4×1.1	—	98	直立	平坦	—	人為	深鉢、浅鉢、磨石	
13	C3h3	円 形	1.1	—	42	外傾	平坦	—	人為	深鉢、磨石	本跡→S K14
14	C3h3	円 形	1.0	—	40	外傾	平坦	—	人為	深鉢、磨石	S K13→本跡
15	C3h2	円 形	1.5	—	96	一部内傾	平坦	—	自然	深鉢、浅鉢	
16	C2g0	円 形	1.7	—	40	直立	平坦	—	人為	深鉢、ミニチュア土器	
18	C3f2 [円 形]	[1.3]	—	18	外傾	凸凹	—	不明	深鉢、四石、磨石	本跡→S K19	
19	C3f2	楕円形	1.4×1.1	1.9×1.6	100~115	フ拉斯コ	平坦	—	自然	深鉢、石皿	S K18→本跡
20	C3g2	円 形	1.2	1.2	62	フ拉斯コ	平坦	—	自然	深鉢、浅鉢、打製石斧、磨石	
21	C3g3	円 形	1.4	1.5	82	フ拉斯コ	平坦	2	自然・人為	深鉢、磨石	
22	C3g3 [円 形]	[0.9]	—	20	フ拉斯コ	平坦	—	自然	深鉢		
23	C3f3	楕円形	1.4×1.2	—	35	内傾	平坦	—	自然	深鉢、浅鉢	
25	B3h0	楕円形	0.6×0.4	—	68	直立	平坦	—	人為	深鉢	本跡→S K107
26	C3g1	楕円形	1.1×0.9	1.0×0.8	87	フ拉斯コ	平坦	—	人為	深鉢、浅鉢、土器円盤	S K27→本跡
27	C3g1	椭円形	1.8×1.6	—	58	内傾	平坦	—	自然	深鉢	本跡→S K26
28	C3g1	円 形	2.1	2.3	125	フ拉斯コ	平坦	—	不明	深鉢、石皿、磨石	
29	C3e2	円 形	1.4	1.5	54	フ拉斯コ	平坦	—	人為・自然	深鉢	S K30→本跡
30	C3e2	楕円形	0.8×(0.6)	1.3×(1.0)	53	フ拉斯コ	平坦	—	自然	深鉢	本跡→S K29・143
31	C3e4	円 形	0.8	—	43	直立	平坦	—	自然	深鉢	本跡→P 37
32	C3e3	楕円形	0.9×0.8	—	32	外傾	平坦	—	自然	深鉢	P 72→本跡→P 66
34	C3f5 [円 形]	[1.7]	1.8	65	フ拉斯コ	平坦	—	人為・自然	深鉢、浅鉢	S K35→本跡	
35	C3e5 [円 形]	[0.9×0.5]	—	61	直立	平坦	—	自然	深鉢	S K60→本跡→S K34	
36	C3e5	円 形	1.1	—	83	外傾	平坦	—	自然	深鉢	
37	C3e6	円 形	1.1	—	75	直立	平坦	—	人為	深鉢	
38	C3e6 [円 形]	[1.0]	—	58	外傾	平坦	—	人為	深鉢、剥片	本跡→S K39	
39	C3e6 [円 形]	[1.5]	[1.6]	64	フ拉斯コ	平坦	—	自然・人為	深鉢	S K38→本跡	
40	C3e6	楕円形	1.1×0.9	1.9×1.7	130	フ拉斯コ	曲狀	—	自然	深鉢、磨製石斧、磨石	
41	C3d7	円 形	1.2	—	75	内傾・板状	平坦	—	自然	深鉢	
42	C3d7	円 形	1.2	—	93	直立	平坦	—	人為	深鉢	
43	C3d5 [楕円形]	[2.6]×2.1	—	15	外傾	平坦	—	不明	深鉢、磨石	本跡→S K44・81	
44	C3d5	楕円形	1.6×1.3	—	73	外傾	平坦	—	人為	深鉢	S K43→本跡
45	C3d5	円 形	0.8	—	50	外傾	平坦	—	自然	深鉢	S K45→本跡
46	C3d5 [円 形]	[1.0]	—	25	外傾	凸凹	—	自然	深鉢	本跡→S K45・47	
47	C3c5	楕円形	1.8×1.3	—	42	板状	直状	—	不明	深鉢、磨石	S K46→本跡→P 56
48	C3c6	円 形	0.8	—	72	直立	平坦	—	自然	深鉢	
49	C3c5	円 形	0.8	1.5	114	フ拉斯コ	平坦	—	人為	深鉢、浅鉢、石皿	
51	C3f5	円 形	1.3	—	78	外傾	平坦	—	自然	深鉢	本跡→S K52
52	C3f5	円 形	0.7	—	40	直立	平坦	—	自然	深鉢、漆	S K51→本跡

遺物番号	位・置	開口部 平面形	規 模			壁 面	底 面	ピット	覆 土	主な出土遺物	重複関係 (旧→新)
			露口幅(奥行き×幅)cm	底面(長径×短径)cm	深さ(cm)						
53	C3c6	円 形	16	—	65	直立	平坦	—	人為	深鉢、壺	
54	C3d7	楕円形	14×12	—	65	直立	平坦	—	人為	深鉢	
55	C3d7	楕円形	10×9	—	53	直立	平坦	—	自然	深鉢、磨製石斧	S K56→本跡
56	C3d8	楕円形	19×16	22×19	98	フラスコ	平坦	—	人為	深鉢、浅鉢、器台	本跡→S K55
58	C3e6	円 形	69	—	55	外傾	平坦	—	自然	深鉢	
59	C3e7	[円 形]	[12]	[18]	90	フラスコ	平坦	—	人為	深鉢	本跡→SD 2
60	C3e5	[円 形]	[65]	—	28	傾斜	平坦	—	自然	深鉢	本跡→S K35
61	A5f7	楕円形	10×9	10×7	64	フラスコ	平坦	—	自然	深鉢	
63	B5a2	楕円形	17×15	—	15	外傾	平坦	—	不明	深鉢、浅鉢、ミニチュア土器	
64	B5a2	楕円形	17×14	20×17	72	フラスコ	平坦	—	自然・人為	深鉢、削片	
68	B4h1	円 形	16	—	75	外傾	平坦	—	自然	深鉢	本跡→P116
75	B4e9	[椭円形]	19×[12]	14×(68)	86	フラスコ	平坦	—	人為	深鉢、磨製石斧、磨石	
78	B4e5	円 形	19	—	45	直立	平坦	—	自然	深鉢	
79	C3c5	円 形	14	10	83	フラスコ	平坦	—	人為・自然	深鉢、削片	本跡→S K80
80	C3c6	楕円形	15×9	—	34	外傾	平坦	—	人為	深鉢、磨石	S K79→本跡
81	C3d5	円 形	68	—	55	直立	平坦	—	自然	深鉢	S K43→本跡
83	B4d4	円 形	13	—	64	直立	平坦	—	人為	深鉢	
84	B4f5	円 形	69	—	64	直立	平坦	—	人為	深鉢、浅鉢	
85	B4g5	円 形	11	—	44	外傾	平坦	—	人為	深鉢、削片	
86	B4i4	楕円形	21×17	22×17	80	フラスコ	平坦	—	自然	深鉢、磨石	
87	C3b6	円 形	15	—	35	緩斜	平坦	—	人為	深鉢、磨石	S K88→本跡
88	C3b6	[円 形]	[12]	—	27	外傾	平坦	—	自然	深鉢	本跡→S K87
89	C3b6	楕円形	16×14	—	66	直立	平坦	1	人為	深鉢	
90	C3d8	楕円形	(16)×15	—	27	外傾	平坦	—	自然	深鉢	
92	B4g4	[円 形]	[16]	—	90	直立	平坦	—	自然	深鉢、土器円盤	本跡→SD 2
94	B4f3	円 形	12	—	67	直立	平坦	—	自然	—	S I 5→本跡
95	B4e3	円 形	16	—	75	外傾	平坦	—	自然	深鉢	S K116→本跡→S K96
96	B4e3	楕円形	27×20	27×23	100	フラスコ	平坦	—	人為	深鉢、磨石	S K95→本跡
97	B4g2	楕円形	24×22	18×17	66	フラスコ	平坦	—	人為	深鉢、浅鉢	S I 5→本跡
98	B4h3	円 形	12	—	62	外傾	平坦	—	自然	深鉢、削片	
99	B4b4	円 形	15	13	89	フラスコ	平坦	—	人為	深鉢、浅鉢	
100	B4h3	円 形	16	—	70	直立	平坦	—	人為	深鉢、打製石斧	本跡→SD 2
103	B3g0	円 形	17	14×12	80	フラスコ	平坦	—	人為	深鉢	
104	B3g0	唐円形	18×13	14×12	120	フラスコ	平坦	—	自然	深鉢、浅鉢、磨製石斧	
107	B3h0	円 形	14	—	70	直立	平坦	—	自然	深鉢	S K25→本跡
108	B4h1	円 形	18	—	75	外傾	平坦	—	自然	深鉢、浅鉢	
110	C3g3	楕円形	10×6	—	77	直立	平坦	—	人為	深鉢	SK11→本跡→SK111→SD 1
111	C3g3	楕円形	14×11	15×14	80	フラスコ	平坦	—	自然	深鉢	SK110・112→本跡→SD 1
112	C3g3	[円 形]	10	—	56	緩斜	直状	—	自然	深鉢、浅鉢	本跡→S K111
116	B4e3	円 形	30	—	14	緩斜	直状	—	不明	深鉢	本跡→S K95
117	B4i2	円 形	20	22	75	フラスコ	平坦	—	自然	深鉢	
118	B4g2	楕円形	21×18	22×19	60	フラスコ	平坦	—	人為	深鉢	
119	B3h9	円 形	16	—	90	内履・外傾	平坦	—	人為	深鉢、壺	
122	C3d6	円 形	10	—	25	緩斜	直状	—	自然	深鉢	
123	C3d6	円 形	14	—	75	直立	直状	—	人為	深鉢、石鏡	S K124→本跡
124	C3d6	円 形	10	—	70	直立	平坦	—	人為	深鉢	本跡→S K123
125	C3b9	[円 形]	[67]	10×9	61	フラスコ	平坦	—	自然・人為	深鉢	

遺構 番号	位 置	開口部 平面形	規 模			壁 面	底面	ピット	覆 土	主な出土 遺物	重 要 因 子 (旧 → 新)
			範囲 (長径×短径)	底面 (長径×短径) m	深さ (cm)						
126	C3b9	楕円形	1.7×1.5	—	80	直立	平底	—	人為	漆鉢、磨石	
127	C3c9	[楕円形]	1.1×[0.9]	—	52	外傾	平底	—	自然	漆鉢	
128	C3c9	楕円形	1.0	—	26	外傾	平底	—	人為	漆鉢	
129	B3j8	円 形	1.4	2.0×1.8	85	フ拉斯コ	平底	—	人為	漆鉢、浅鉢、磨石	本跡→P105
131	B3j8	不整円形	2.0	1.5×1.2	87	フ拉斯コ	平底	—	人為	漆鉢、浅鉢、磨石	本跡→P105
132	B3j7	[円 形]	[1.7]	[2.2]	67	フ拉斯コ	平底	—	自然	漆鉢、浅鉢	本跡→SK146
133	B3j8	[楕円形]	2.2×[1.4]	1.7	112	フ拉斯コ	平底	—	不明	漆鉢、浅鉢	SK145→本跡
134	B3h7	楕円形	1.5×1.0	1.5×1.4	115	フ拉斯コ	平底	—	人為・自然	漆鉢、浅鉢、不明土器類、磨石、敲石	
135	B3g7	円 形	0.9	2.3	100	フ拉斯コ	丘状	—	人為	漆鉢	
138	C3e6	楕円形	1.8×1.4	1.7×1.4	105	フ拉斯コ	平底	—	人為・自然	漆鉢、浅鉢、磨石、敲石	本跡→P82
139	C3f5	楕円形	1.1×0.9	—	115	直立	平底	—	自然	漆鉢	
140	C3f4	楕円形	1.5×1.4	—	98	直立	平底	—	人為・自然	漆鉢、磨石	
142	C3f5	楕円形	1.4×1.0	2.4×2.0	90	フ拉斯コ	平底	—	自然	漆鉢、浅鉢、磨石	本跡→P201
143	C3e2	楕円形	0.7×0.6	2.0	75	フ拉斯コ	平底	—	自然・人為	漆鉢、浅鉢、石皿	SK30→本跡
144	C3a5	円 形	1.9	2.1	90	フ拉斯コ	平底	—	人為	漆鉢、浅鉢、磨石	
145	B3i8	円 形	1.6	1.7	86	フ拉斯コ	平底	—	自然	漆鉢、土器円盤	本跡→SK7-133
146	B3i8	楕円形	1.9×1.4	2.0×1.5	80~100	フ拉斯コ	傾斜	—	自然	漆鉢、磨石	SK132→本跡
147	B3g8	楕円形	1.6×1.4	1.6	120	フ拉斯コ	平底	—	自然	漆鉢、器台、磨石	
148	B3j0	楕円形	1.5×1.3	—	50	楕鉢	平底	—	自然	漆鉢、林	SK149→本跡
149	B3j0	円 形	1.1	1.6×1.4	85	フ拉斯コ	平底	—	自然	漆鉢、浅鉢、磨石	本跡→SK148・153
151	B3j5	楕円形	2.2×1.7	2.3	110	フ拉斯コ	平底	—	自然・人為	漆鉢、浅鉢	本跡→P88
153	B3j0	楕円形	1.3×1.0	1.4×1.2	48	フ拉斯コ	平底	—	自然	漆鉢	
154	C3e2	円 形	1.2	1.3×1.1	70	フ拉斯コ	平底	—	自然	漆鉢、林	
155	C3a2	楕円形	2.4×1.2	—	25	外傾	平底	1	自然	漆鉢	
156	B3j4	円 形	1.5	[2.2]×1.9	70	フ拉斯コ	平底	—	人為	漆鉢、浅鉢	SK157→本跡
157	B3i4	[楕円形]	1.5×[1.2]	—	70	楕鉢	直立	—	自然	漆鉢	SK158→本跡→SK156
158	B3j4	[円 形]	[1.7]	1.9×1.7	105	フ拉斯コ	平底	—	自然・人為	漆鉢、浅鉢、磨石	本跡→SK157
159	B3j3	楕円形	0.8×0.7	—	50	直立	平底	—	人為	漆	
163	B3i5	円 形	1.9	2.2	94	フ拉斯コ	平底	—	人為	漆鉢、浅鉢	
164	B3i6	円 形	0.5	1.9	122	フ拉斯コ	平底	—	人為・自然	漆鉢	
165	B3j3	円 形	1.0	2.3×1.8	92	フ拉斯コ	平底	—	人為	漆鉢、浅鉢、打製石斧、磨石	本跡→SK166
166	B3j3	円 形	1.4	—	90	外傾	平底	—	自然	漆鉢、土器円盤	SK165→本跡
170	C2c0	円 形	0.9	1.5	76	フ拉斯コ	平底	—	自然	漆鉢、浅鉢	
171	C3a1	[円 形]	[1.6]	[1.4]	65~70	フ拉斯コ	平底	—	人為	漆鉢	
173	C3c5	[楕円形]	[1.4×1.2]	[2.2×1.9]	90	フ拉斯コ	平底	—	自然・人為	磨石	本跡→SD1
174	C3e1	楕円形	0.9×0.8	2.4	78	フ拉斯コ	平底	—	自然	漆鉢、石皿、磨石	
179	C3c1	楕円形	1.1×0.9	1.3	75	フ拉斯コ	平底	—	人為	漆鉢、浅鉢、磨石	
180	C3c4	円 形	1.1	1.5	66	フ拉斯コ	平底	1	自然	漆鉢、浅鉢	
181	C3a7	(円 形)	(0.5)	2.7×2.4	(145)	フ拉斯コ	平底	—	自然	漆鉢、浅鉢、石皿、打製石斧、磨石	本跡→SK210
182	C2f0	円 形	0.8	2.3×1.8	100	フ拉斯コ	平底	—	自然	漆鉢、土器円盤	
184	C2c9	楕円形	1.6×1.0	2.2	88	フ拉斯コ	平底	—	人為・自然	漆鉢	本跡→P202
186	C2c7	円 形	0.9	—	19	外傾	平底	—	自然	—	本跡→P148
187	C2c7	楕円形	2.5×2.1	2.5×2.2	65	フ拉斯コ	平底	—	人為・自然	漆鉢	
191	C2f9	不 明	—	2.0×1.7	—	不明	平底	—	不明	漆鉢	
193	B3h9	楕円形	1.1×0.9	1.7×1.5	84	フ拉斯コ	平底	—	自然	漆鉢、磨石、核石	
194	B3i6	円 形	1.0	2.4×2.1	110	フ拉斯コ	平底	—	人為	漆鉢、林	
195	B3j5	円 形	1.2	1.8×1.6	75	フ拉斯コ	平底	—	自然	漆鉢、磨石	本跡→P164

遺構 番号	位 置	開口部 平面形	規 模			壁 面	底面	シット	覆 土	主な出土遺物	重複関係 (旧→新)
			開口部(長径×短径m)	底面(長径×短径m)	深さ(cm)						
200	C1h0	円 形	1.1	—	33	外傾 平坦	—	自然	漆鉢	TM5・SK244→本跡	
202	C2d7	楕円形	2.4×2.0	—	60	【ラスコ】平傾	—	人為	漆鉢、打製石斧	本跡→S17・SK203	
203	C2d8 [円 形]	[1.2]	—	17	60	ラスコ 平傾	—	自然	漆鉢	SK202→本跡	
205	C2e6	円 形	0.9	1.6	40	ラスコ 平傾	—	自然	漆鉢、浅鉢	本跡→SK204・206	
207	C2d5	円 形	1.3	2.2	95	ラスコ 平傾	—	人為	漆鉢、打製石斧、磨石	本跡→P191	
208	C2e5	円 形	1.0	—	32	外傾 平傾	—	自然	—	—	
212	C1g9	円 形	1.3	—	79	外傾 平傾	—	人為	漆鉢、洞片	—	
213	C2h6	円 形	1.4	—	80	直立 平傾	—	人為	漆鉢、壺、磨石	—	
214	C2h5	円 形	1.2	—	45	外傾 平傾	—	人為	漆鉢	—	
215	C2h6	楕円形	1.8×1.3	—	65	直立 平傾	—	自然	漆鉢、打製石斧	本跡→P193	
217	C2h2	円 形	1.1	—	109	直立 平傾	—	自然	漆鉢、磨石	—	
218	C2h2	円 形	1.3	—	66	内傾 平傾	—	人為	漆鉢、磨石	—	
219	C2h5	楕円形	1.2×1.0	—	95	直立 平傾	—	自然	漆鉢	—	
221	B4e1	円 形	0.9	—	60	直立 凹凸	—	人為	漆鉢	本跡→SK222	
222	B4e1	円 形	1.5	2.2	93	ラスコ 平傾	—	人為・自然	漆鉢、浅鉢	SK221→本跡	
223	C2h4	楕円形	1.1×0.8	—	40	外傾 平傾	—	人為	漆鉢	—	
224	C2i3	楕円形	1.1×1.0	—	56	外傾 平傾	—	人為	漆鉢、浅鉢	—	
225	D1a9	円 形	1.1	—	63	外傾 蝶状	—	自然	漆鉢、浅鉢、打製石斧	—	
227	C2h2	円 形	1.2	—	90	直立 平傾	—	人為	漆鉢、壺、打製石斧	—	
228	C2g5	円 形	1.2	—	52	直立 平傾	—	自然	漆鉢	SK229→本跡	
229	C2h5	楕円形	1.5×1.2	—	80	外傾 平傾	—	自然	漆鉢、石墨	本跡→SK228	
232	C2g3	楕円形	1.3×1.1	—	82	直立 平傾	—	人為・自然	漆鉢、石墨、磨石	本跡→SK233	
234	C2h3	楕円形	1.6×1.2	—	67	直立 平傾	—	自然	漆鉢	本跡→SK233	
235	C2g4	円 形	1.5	1.4	93	ラスコ 平傾	—	自然	漆鉢、磨石	—	
236	C3d1	円 形	1.2	2.1	95	ラスコ 平傾	—	自然・人為	漆鉢、鉢	本跡→SK250	
238	C2e0 [楕円形]	[1.2×1.0]	2.2×1.7	90	ラスコ 平傾	—	人為	漆鉢、浅鉢、石墨、凹石	SK239→本跡→SK227		
239	C3e1	円 形	1.8	2.2	102	ラスコ 平傾	—	自然・人為	漆鉢、浅鉢	本跡→SK237・238	
241	B3j6	楕円形	2.1×1.4	2.3×2.0	116	ラスコ 正傾	—	人為・自然	漆鉢、浅鉢、廢台、石墨	本跡→P192	
243	C1j9	円 形	0.9	—	25	外傾 平傾	—	自然	漆鉢、浅鉢	—	
244	C1h0 [円 形]	[1.8]	—	40	外傾 平傾	—	自然	漆鉢	本跡→SK200・TM5		
245	C2j1	円 形	1.1	—	32	外傾 平傾	—	自然	漆鉢、浅鉢	—	
246	C3d2 [楕円形]	[2.1×1.6]	2.6×2.2	85	ラスコ 平傾	—	人為	漆鉢	SK250→本跡→SK248・249		
247	B3j9	楕円形	1.8×1.3	—	47	外傾 平傾	—	自然	漆鉢	P199・200→本跡	
248	C3d2	円 形	0.7	2.0×1.8	75	ラスコ 平傾	—	人為	漆鉢	SK246→本跡	
250	C3d1	円 形	1.1	1.8×1.6	80	ラスコ 平傾	—	不明	漆鉢	本跡→SK246・249	

2 古墳時代の遺構と遺物

今回の調査で確認された古墳時代の遺構は、竪穴住居跡2軒、方形周溝墓5基である。以下、それぞれの遺構の特徴と出土した遺物について記載する。

(1) 竪穴住居跡

第1号住居跡 (第205・206図)

位置 調査区中央部の平坦部、C3g4区に位置している。

重複関係 第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南部の約3分の2が調査区域外に及んでいるため明確ではないが、残存するコーナー部の様相から平面形は方形もしくは長方形と推定され、確認された南北軸は4.5m、東西軸は4.2mほどである。壁は外傾して立ち上がり、壁高は35~40cmほどである。また、主軸方向はN-15°-Eである。

床 ローム面を床面とし、全体的に締まってはいるが顕著な硬化面は認められなかった。壁下には幅20~25cm、深さ5cmほどの壁溝が確認できる。

炉 検出されなかった。

ピット 1か所。P 1は径80cmほどの円形で、深さは55cmほどであり、規模及び配置から4本主柱の一柱穴に相当すると考えられる。

ピット土層解説

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 黒 色 ローム粒子少量 | 3 紺 褐 色 ロームブロック中量 |
| 2 黒 褐 色 ローム粒子少量、ロームブロック微量 | 4 紺 褐 色 ロームブロック中量、ローム粒子少量 |

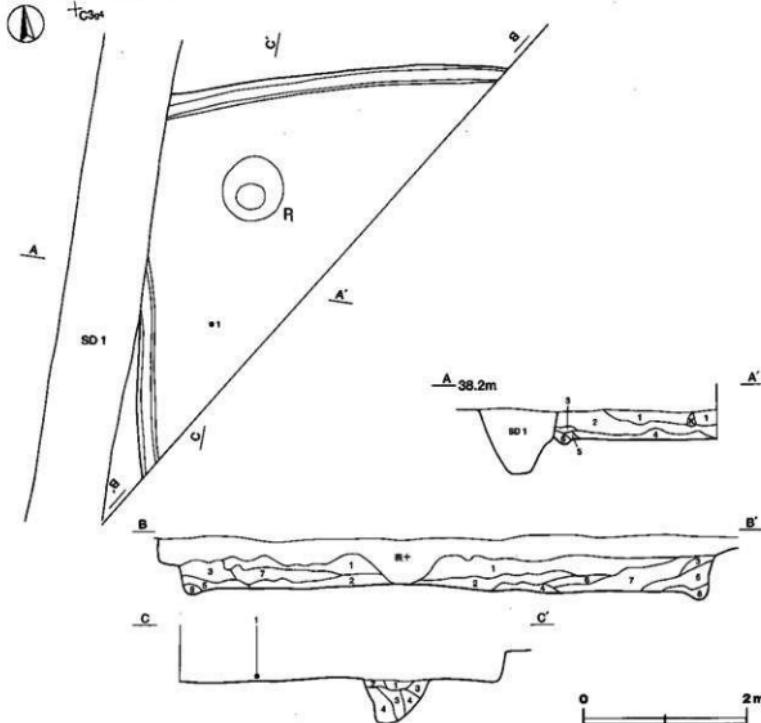
覆土 8層に分層される。黒褐色を基調とした縛まりのない土層である。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。なお、第8層は壁溝の覆土である。

土層解説

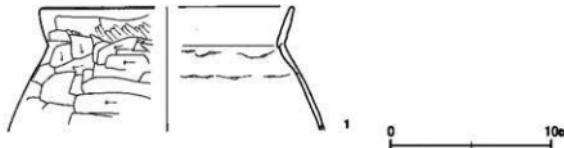
- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1 黒 色 ローム粒子微量 | 5 黒 褐 色 ローム粒子中量 |
| 2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 極暗褐色 ロームブロック中量 |
| 3 黒 褐 色 ローム粒子少量 | 7 黒 褐 色 ローム粒子少量 |
| 4 黒 褐 色 ロームブロック微量、炭化粒子微量 | 8 紺 褐 色 ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片29点(甕)のほかに流れ込みによる織文土器片358点が出土している。土師器片はほとんどが細片で、覆土中～下層にかけて散在しており、平面的な位置には特異な傾向は認められない。復元図示できたものは1のみで、床面からやや浮いて出土している。

所見 出土土器が細片かつ少量であったため判然としないが、ほぼ床面から出土している1から、時期は4世紀前～中葉と考えられる。



第205図 第1号住居跡実測図



第206図 第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表（第206図）

番号	種類	器種	口径	器高	底盤・脚	胎 土	色 葵	底成	手 法 の 特 徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	[157]	(7.6)	一	長石・雲母	にいし	普通	口縁部ヘラ削り、外面ヘラ削り、内面輪状底。	床 面	PL45

第8号住居跡（第207・208図）

位置 調査区西部の平坦部、方形周溝墓群中のC2f2区に位置している。

重複関係 第3号方形周溝墓を掘り込んでいる。

規模と形状 平面形は長軸6.8m、短軸6.0mほどの長方形で、ほぼ同規模の第3号方形周溝墓の周溝内に鞋線を西に25度ほどずらして構築されており、主軸方向はN-28°-Wである。壁は外傾して立ち上がり、壁高は15~17cmほどである。

床 中央部がよく踏み固められていおり、焼土が広がっている。幅25~30cm、深さ7~10cmほどの壁溝が断続的に巡っている。

炉 中央部やや東寄りに位置し、床面を10cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。火床面は被熱により赤変硬化している。また、一部原位置をとどめていないものの、本炉に伴うと考えられる土製支脚が、南側から2点、南東にやや離れて1点出土している。

ピット 5か所。P1~P4の深さは、P1が57cm、P2が40cm、P3が45cm、P4が50cmほどで、規模及び配置から主柱穴と考えられ、北側の2本が相対的に深く掘り込まれている。P5は深さ15cmほどの浅い掘り込みで、配置から出入口に伴うピットと想定される。

貯蔵穴 南壁際の東寄りに55cmほどの深さで長方形に掘り込まれており、形状と配置から貯蔵穴と考えられる。

覆土は不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

貯蔵穴土層解説

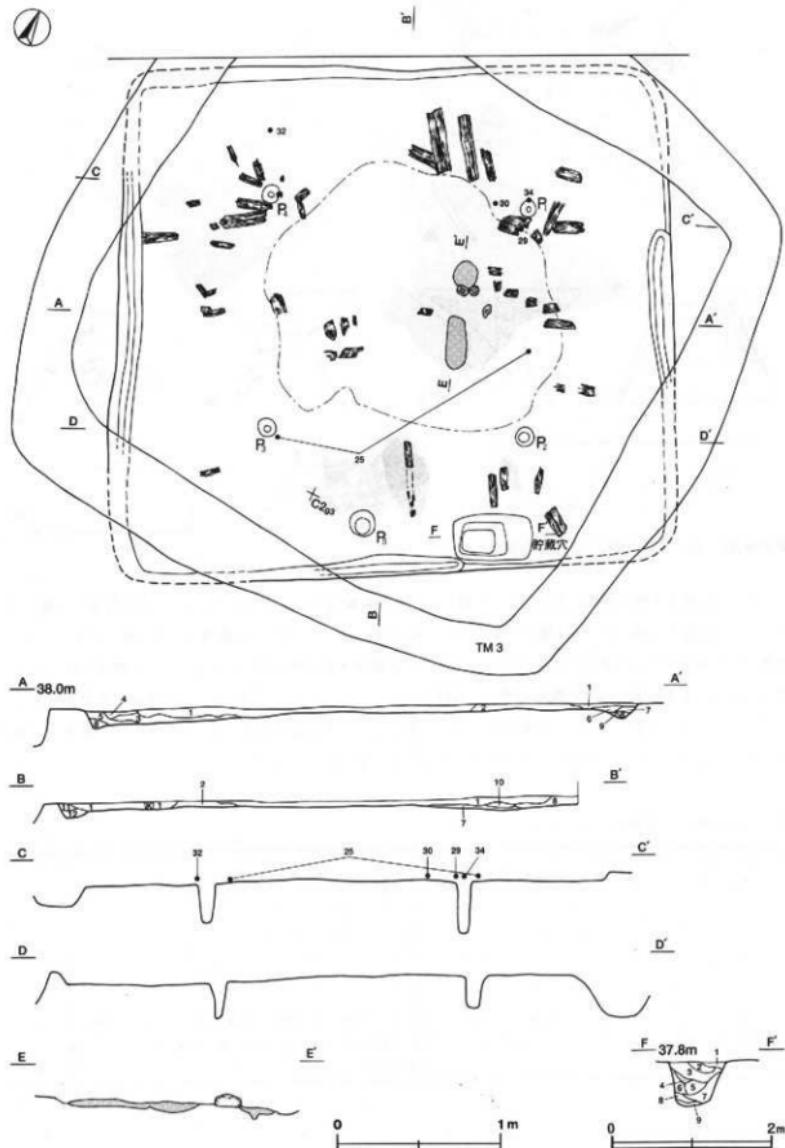
1 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック多量
3 黒褐色	炭化粒子微量、ロームブロック・焼土粒子微量	8 黒褐色	ロームブロック微量
4 黒褐色	ロームブロック少量	9 黒褐色	ロームブロック少量
5 黒褐色	ロームブロック中量		

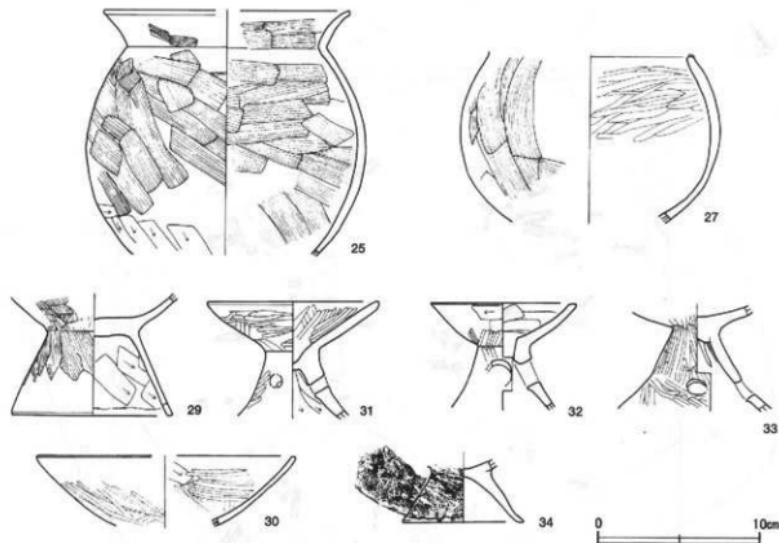
覆土 12層に分層される。層厚が薄いため判然としないが、壁際に三角堆積が認められることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量、焼土ブロック微量	7 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量、ロームブロック微量	8 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	9 黒褐色	ロームブロック中量
4 焙赤褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子微量	10 黒褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
5 黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	11 黒褐色	ロームブロック微量
6 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	12 黒褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片135点（高杯11、器台10、片4、甕104、不明6）、土製支脚3点のほかに流れ込みによる織文土器片813点が出土している。土師器片は覆土中に散在しており、平面的な位置に特異な傾向は認められない。





第208図 第8号住居跡出土遺物実測図

い。25, 29は覆土下層と床面に散在していた破片がそれぞれ接合したものである。また、31は貯蔵穴の覆土中、30, 32, 34は覆土下層、27, 33は覆土中からそれぞれ出土している。また、広範囲から炭化材が出土している。所見 炉の周辺を中心に床面に焼土が広がっており、広範囲に炭化材が認められることから焼失住居であると考えられる。出土土器には二次焼成を受けた痕跡がほとんど認められないことから、焼失後に廻棄されたものと思われる。また本跡は、大きな時期差をもたない第3号方形周溝墓の周溝を埋め戻して、その周溝内に構築されていると想定される。時期は、出土土器から4世紀中葉と考えられる。

第8号住居跡出土遺物観察表(第207図)

番号	種類	器種	口径	高さ	蓋合	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
25	土器器	甕	[162]	(149)	—	長石・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口縁部ハケ目調整後横ナデ、内外面ハケ目調整、体部下位ヘラ削り。	覆土下層	PL45
27	土器器	甕	—	(10.4)	—	長石・雲母	にぶい橙	普通	外側ハケ目調整、内面ヘラ削り。	覆土	
29	土器器	台付甕	—	(7.4)	99	長石・雲母	灰褐色	普通	外側ハケ目調整、台部内面ナデ。	床面	PL45
30	土器器	甕	[159]	(43)	—	長石・雲母	にぶい橙	普通	环部外側面ヘラナデ後、ヘラ磨き。	覆土下層	
31	土器器	器台	10.6	(7.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	器部内外面ヘラ磨き、脚部外側面ヘラ磨き、内面ヘラ削り。孔2ヶ所。	貯藏穴 覆土上中	PL45
32	土器器	器台	9.0	(6.5)	—	長石・赤色粒子	浅黄褐色	普通	器部外側面ヘラナデ後ヘラ磨き。内面横ナデ、脚部ヘラ磨き。孔3ヶ所。	覆土下層	PL45
33	土器器	器台	—	(6.4)	—	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	器部内外面ヘラ磨き、脚部外側面ヘラ磨き、内面ナデ。	覆土上	
34	土器器	台付甕	—	(3.8)	7.5	長石・雲母	黒褐色	普通	台部外側ハケ目調整後横ナデ、内面ナデ。	覆土下層	

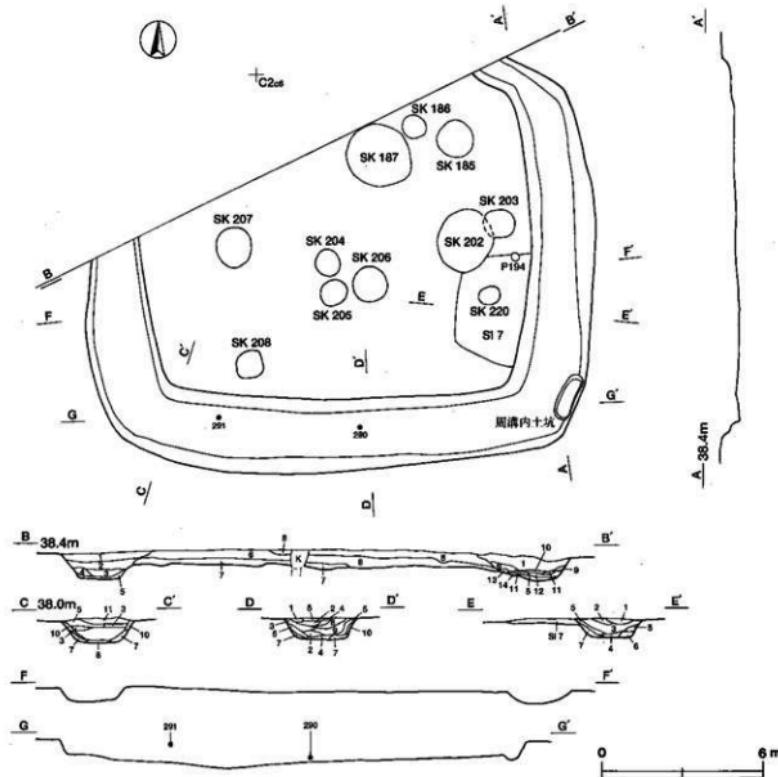
(2) 方形周溝墓

第1号方形周溝墓(第209・210図)

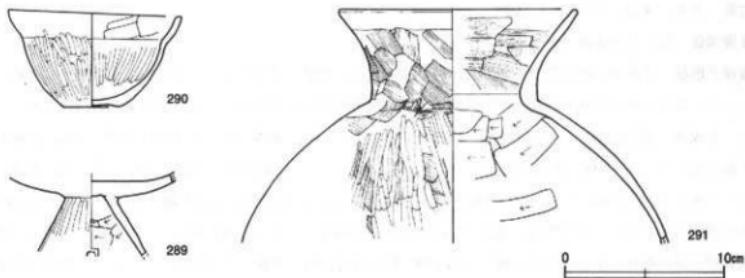
位置 調査区西部の平坦部、C2d6区を中心に検出された。

重複関係 第7号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北西部の約3分の1が調査区域外に及ぶため明確ではないが、三方の周溝が方形状に連結しているため、調査区域外の形状も同様と考えられる。内法は東西方向14.4mほどで、外法は東西方向18.6mほどである。北周溝が調査区域外のため南北方向の規模は判然としないが、東西方向とほぼ同様と考えられ、平面形は、主軸方向がN-16°-Wの隅丸方形と推定され、各コーナーとも比較的整った弧状を呈している。周溝は全周すると推定され、上幅1.2~2.9m、下幅0.8~1.8mほどであり、南に向かうほど幅が広くなっている。深さは、南周溝が74cmと深く、東西周溝は北辺が35cm、南辺が70cmほどと北から南に向かって緩傾斜している。周溝の断面形は逆台形状を呈し、方台部側と外周部側の壁はほぼ同様に外傾して立ち上がっている。周溝の底面は、一部に凹凸が見られるものの全体的には平坦である。盛り土は確認できなかった。周溝の南東コーナー部に東壁面に沿って長方形の掘り込みが検出され、底面まで掘り込んだ段階で確認されたことなどから周溝内土坑としてとらえたが、その性格は不明であり、周溝内埋葬施設の可能性も考えられる。



第209図 第1号方形周溝墓実測図



第210図 第1号方形周溝墓出土遺物実測図

覆土 14層に分層される。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒 色 ローム粒子少量、焼土粒子・白色粒子微量	8 黒 色 コームブロック・炭化粒子微量
2 黒 色 ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子微量	9 黒 黄色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 黒 黄色 ローム粒子中量、粘土粒子微量	10 黒 黄色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
4 黒 黄色 ローム粒子少量	11 黒 黄色 ロームブロック微量
5 黒 黄色 ロームブロック少量、粘土粒子微量	12 黒 黄色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
6 黑 黄色 ローム粒子少量、焼土粒子微量	13 黒 黄色 ロームブロック少量
7 黑 黄色 ロームブロック少量	14 灰 黄色 ロームブロック中量

遺物出土状況 周溝内から土師器片98点（杯1, 高杯1, 増5, 豆91）のほか、流れ込みによる繩文土器片1785点、石皿2点、石棒1点、磨製石斧1点、打製石斧1点、磨石16点、凹石1点が出土している。土師器片は大多数が細片で、復元・図示できたものは3点である。290は南周溝の覆土下層からほぼ正位で出土しており、時期判断の指標となる遺物である。また、291は南周溝の覆土上層、289は東周溝の覆土中から出土である。

所見 周溝の南東コーナー付近で検出された掘り込みは、本跡に伴うものとして周溝内土坑としてとらえたが、明確な性格は不明であるが、埋葬施設の可能性が示唆される。時期は、出土土器から4世紀中葉と考えられる。

第1号方形周溝墓出土遺物観察表（第210図）

番号	種別	器種	口径	番高	縦径	横径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備考
289	土師器	高 杯	—	(50)	—	長石・雲母	普通	基部内外面へラき、算部外面へラき、内面積ナデ。			覆土	
290	土師器	壺	10.8	5.8	34	長石・雲母	粗	普通	口縁部僅ナデ、体部内外面へラき。		覆土下層	PL45
291	土師器	壺	14.6	(142)	—	長石	にふい根	普通	口縁部ハケ目調整後横ナデ、体部外側ハケ目調整後横ナデ、内面ヘラナデ。		覆土上層	PL45

第2号方形周溝墓（第211図）

位置 調査区西部の平坦部、C2b9区を中心に検出された。

重複関係 第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北側の大部分が調査区外に及び、南東コーナー部周辺のみの検出であるため全容については不明な点が多いが、平面形は主軸方向をN-30°-Eにもつ隅丸方形もしくは隅丸長方形になるものと推定される。規模は、確認された部分で内法が南北軸3.0m、東西軸1.8mほどで、外法が南北軸5.5m、東西軸4.0mほどである。周溝は、南東周溝が上幅1.6~1.9m、下幅1.7~1.8mほどであり、南西周溝は上幅0.8~0.9m、下幅0.5~0.6mほどと南東周溝に比して南西周溝が狭い。深さはともに40~50cmである。断面形は逆台形状を呈し、コーナー部の外周部側の

壁が緩やかな傾斜をもって立ち上がっているほかは、方台部側と外周部側の壁はほぼ同様に外傾して立ち上がっている。また底面は、一部に凹凸が見られるものの全体的には平坦である。主体部及び盛り土は確認できなかった。

覆土 8層に分層される。黒褐色を基調とした覆土で、レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。

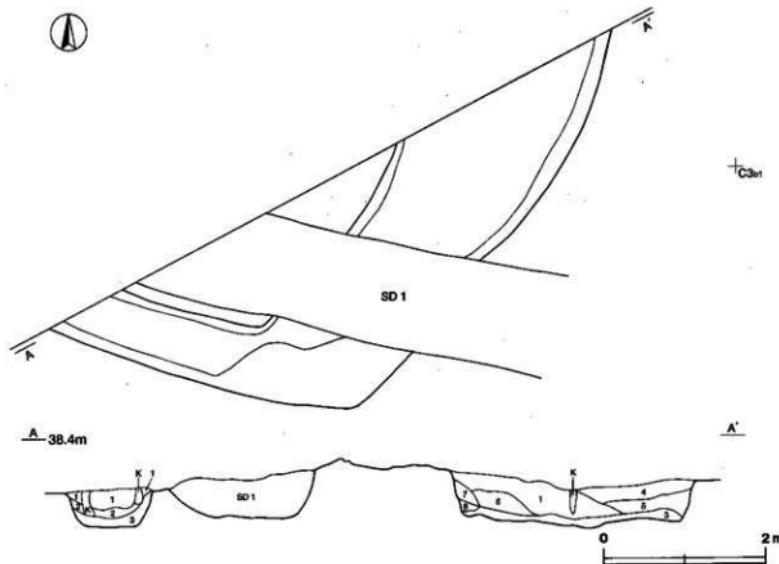
土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック中量
4	黒褐色	ローム粒子少量

5	黒褐色	ローム粒子微量
6	黒褐色	ロームブロック微量
7	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
8	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 流れ込みによる縄文土器片187点、剥片1点が出土しているだけで、本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡に伴う遺物が出土していないため判然としないが、第3号方形周溝墓と主軸方向をほぼ同じくしていることから、第3号方形周溝墓と同時期の4世紀前半と考えられる。



第211図 第2号方形周溝墓実測図

第3号方形周溝墓（第212・213図）

位置 調査区西部の平坦部、C2f2区を中心に検出された。

重複関係 第8号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 北西コーナー部が調査区域外に及ぶため明確ではないが、四方の周溝が方形状に連結しているため、調査区外の形状も同様と考えられる。規模は、内法は南北方向6.2m、東西方向6.6mほどで、外法は南北方向7.9m、東西方向8.4mであり、平面形は、主軸方向がN-5°-Eの隅丸方形である。各コーナーとも比較的整った弧状を呈している。周溝は全周すると推定され、上幅0.7~1.1m、下幅0.3~0.6mほどであり、コー-

一部がやや狭くなっている。深さは36~65cmほどである。周溝の断面形は逆台形状もしくはU字状を呈し、方台部側と外周部側の壁はほぼ同様に外傾して立ち上がっている。底面は、一部に凹凸が見られるものの全体的にはほぼ平坦である。主体部及び盛り土は確認できなかった。

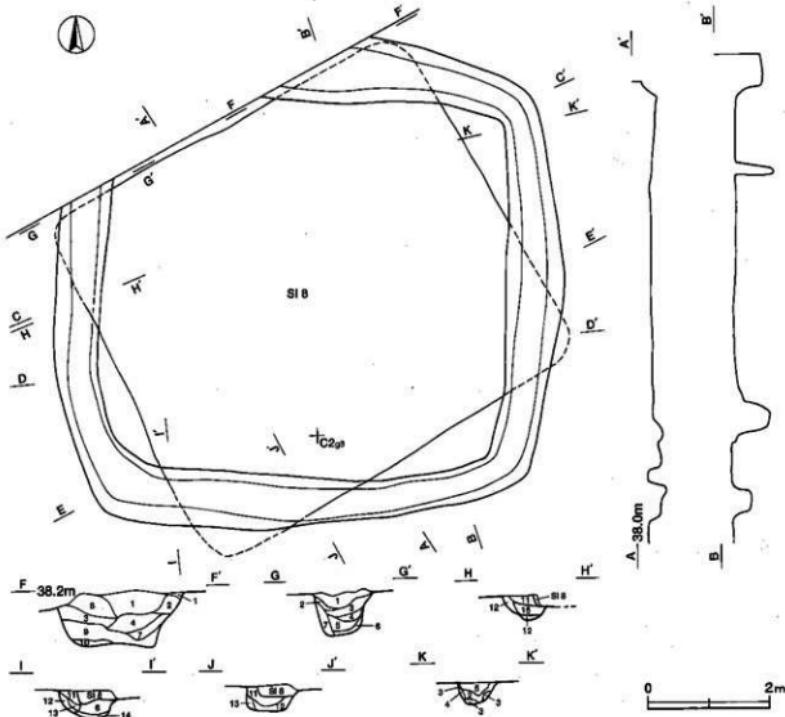
覆土 15層に分層される。ロームをブロック状に含んでおり、不規則な堆積状況を示していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

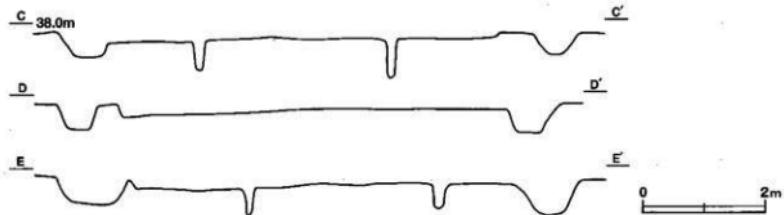
1 黒褐色	ローム粒子微量	9 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	10 黒褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック微量
3 黒褐色	ロームブロック微量	11 黒褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック中量
4 黒褐色	ロームブロック少量	12 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量
5 黑褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量	13 黑褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量
6 黑褐色	ロームブロック微量、焼土粒子微量	14 黑褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
7 黑褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	15 黒褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
8 黑褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量		

遺物出土状況 土師器片18点(甕)のはか、流れ込みによる繩文土器片681点、土器片円盤1点、打製石斧1点、石核1点、剥片2点が出土している。土師器片は細片のみで、復元・図示できるものはなかった。

所見 時期判断できる遺物が出土していないため判然としないが、4世紀中葉と考えられる第8号住居跡に掘り込まれていることから、時期は4世紀前半と考えられる。



第212図 第3号方形周溝墓実測図(1)



第213図 第3号方形周溝墓実測図（2）

第4号方形周溝墓（第214図）

位置 調査区西部の平坦部、C1g0区を中心に検出された。

規模と形状 北側の大部分が調査区域外に及び、南周溝と2コーナーだけの検出であるため詳細については不明な点が多いが、三方の周溝が方形に連続しているため、調査区外の形状も同様と考えられる。平面形は、南周溝の様相から、主軸方向がN-17°-Wの隅丸方形もしくは隅丸長方形と推定され、コーナー部は整った弧状を呈している。規模は、残存する部分での内法は東西方向5.6m、外法は東西方向6.6mほどである。周溝は、上幅0.4~0.6m、下幅0.3~0.5mほどであり、東西周溝に比して南周溝が広くなっている。確認面からの深さは20cmほどであるが、調査区域境の土層から周溝の壁の立ち上がりが確認され、構築時には90cmほどの掘り込みを有していたと想定される。周溝の断面形は逆台形状もしくはU字状を呈し、方台部側と外周部側の壁はほぼ同様に外傾して立ち上がっている。底面は、一部に凹凸が見られるものの全体的にはほぼ平坦である。主体部及び盛り土は確認できなかった。

覆土 3層に分層される。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。

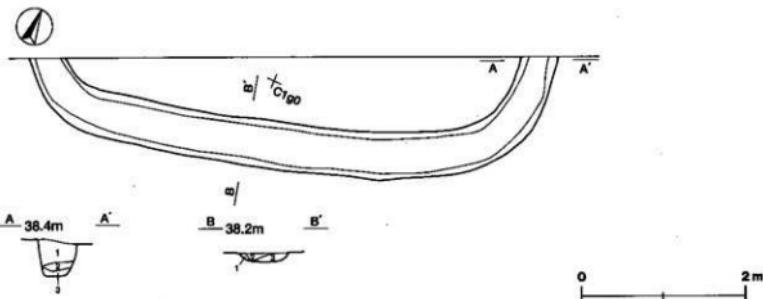
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 棕褐色 ロームブロック少量

- 3 薄褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 流れ込みによる繩文土器片57点、打製石斧1点が出土しているだけで、本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡に伴う遺物が出土していないため判然としないが、第3号方形周溝墓と主軸方向をほぼ同じくしていることから、第3号方形周溝墓と同時期の4世紀前半と考えられる。



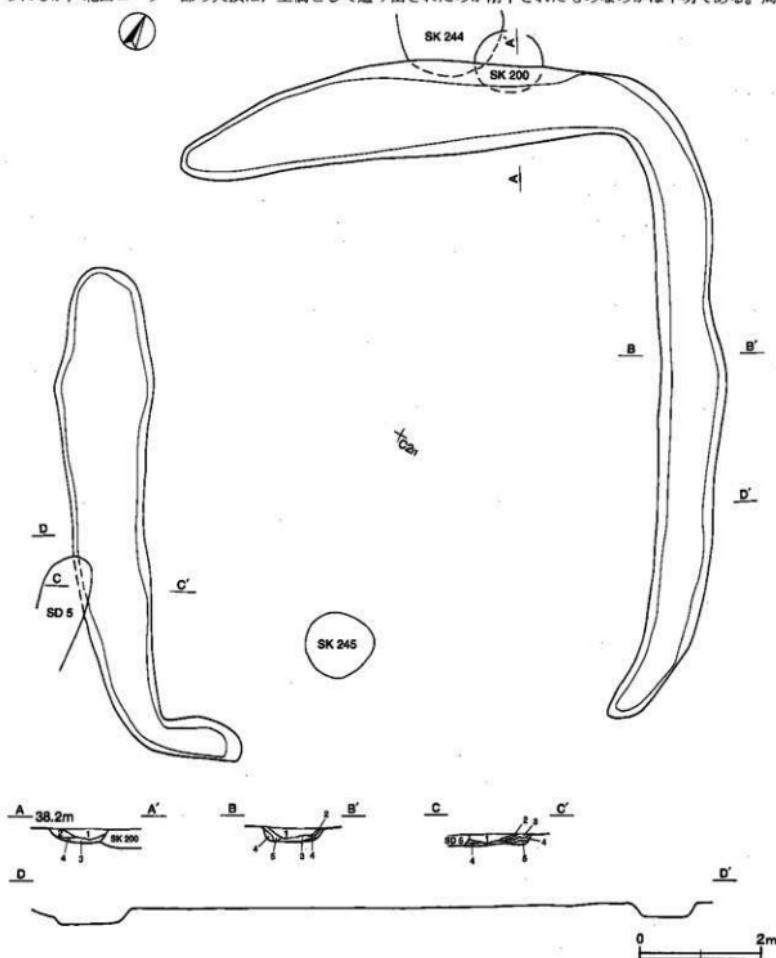
第214図 第4号方形周溝墓実測図

第5号方形周溝墓（第215・216図）

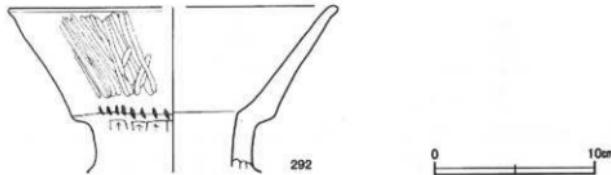
位置 調査区西部の平坦部、C2i1区を中心に検出された。

重複関係 第200号土坑及び第244号土坑を掘り込み、第5号溝に掘り込まれている。

規模と形状 規模は、内法は南北方向11.4m、東西方向11.1mほどであり、外法は南北方向9.0m、東西方向8.6mである。平面形は、主軸方向をN-28°Wにもつ隅丸長方形を呈しており、北西コーナー部及び南周溝が欠損している。南周溝の欠損は、確認面の標高が下がっていることから表土除去時の削平によるものと考えられるが、北西コーナー部の欠損は、土橋として造り出されたのか削平されたものなのかは不明である。周溝



第215図 第5号方形周溝墓実測図



第216図 第5号方形周溝墓出土遺物実測図

は上幅0.8~1.6m、下幅0.4~1.5mほどであり、東周溝及び各コーナー部が他に比して狭くなり、深さは25cmほどである。周溝の断面形は逆台形状もしくは皿状を呈し、方台部側と外周部側の壁はほぼ同様に外傾して立ち上がる。また、周溝の底面はほぼ平坦である。主体部及び盛り土は確認できなかった。

覆土 5層に分層される。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量	4 灰褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック少量	5 灰褐色 ロームブロック少量
3 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	

遺物出土状況 土師器片13点(甕12、壺1)、須恵器片1点のほか、流れ込みによる繩文土器片558点、土製耳飾1点、土器片円盤1点、磨石2点、剥片1点が出土している。292は北周溝の覆土中から出土している。

所見 本跡に伴うと考えられる土師器片のはとんどが細片で、抽出・図示できた土器は292だけであるため判然としないが、他の4基と軸線を異にするものの、方形周溝墓の隣接関係から本跡の所在する区域が墓域として意識されていたと想定される。そのため他の4基と大きな時期差はないと思われ、また出土土器から、時期は4世紀前半と考えられる。

第5号方形周溝墓出土遺物観察表（第216図）

番号	種別	器種	口径	器高	盛溝	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
292	土師器	壺	[202]	(100)	—	長石・石英・雲母 粉	普通	口縁部外側へラ痕あり、下縁有段で削み、頭部へクナデ。		覆土	

3 平安時代の遺構と遺物

今回の調査で確認された平安時代の遺構は、土塙墓1基である。以下、遺構の特徴と出土した遺物について記載する。

第1号土塙墓（第217図）

位置 調査区中央部の平坦部、繩文時代の土坑群の外縁部、B3b9区に位置している。

規模と形状 長軸1.75m、短軸0.85mほどの長方形で、長軸方向はN-17°-Eである。深さは20cmほどであり、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 6か所。長軸方向でP1・P2の一対、短軸方向でP3・P4及びP5・P6の二対のピットが検出された。深さは14~18cmで、規則的な配列を示しているが性格は不明である。

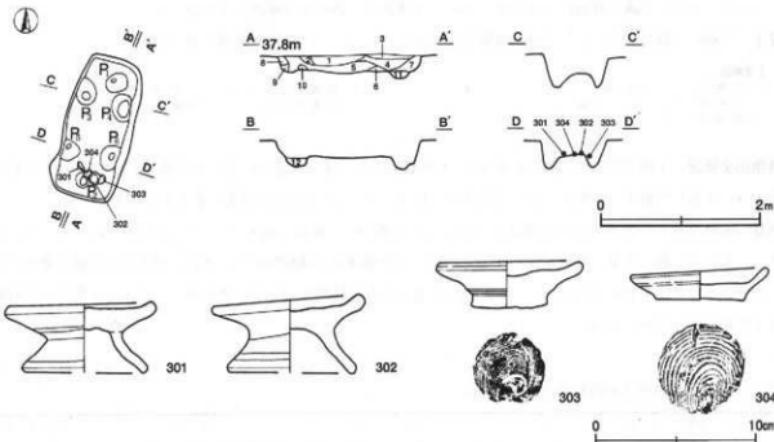
覆土 12層に分層される。締まりのない土層で、全層にわたってロームをブロック状に含む人為堆積である。なお、第11層はP1、第12層はP2の覆土である。

土層解説

1 黒 色	ロームブロック少量	7 黒 色	ロームブロック中量
2 紫 色	ロームブロック中量	8 黒 紫 色	ロームブロック少量
3 黒 青 色	ロームブロック多量	9 青 色	ロームブロック中量
4 黑 青 色	ロームブロック少量、炭化物微量	10 青 色	ロームブロック多量
5 黑 青 色	ロームブロック少量	11 黑 青 色	ロームブロック中量
6 黑 青 色	ロームブロック中量、幾土粒子微量	12 黑 青 色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器4点（小皿1, 柱状高台皿1, 脚高台皿2）が出土している。301～304は底面の南端から一部重なって4個体並んだ状態で出土しており、埋納されたものと考えられる。

所見 骨片は確認できなかったが、形状やブロック状の覆土から土塙墓と判断した。301～304が底面の南端から並んで出土していることから、副葬された可能性が高い。また、これらの土器がP2の確認面上から出土していることは、少なくともピットが埋葬前に機能していたことを示している。これらのピットは、棚状の施設や棺の支え木としての機能も想定されるが判然としない。時期は、出土土器から11世紀前半と考えられる。



第217図 第1号土坑墓・出土遺物実測図

第1号土塙墓出土遺物観察表（第217図）

番号	種 別	器 形	口径	基高	器高 ^{1/2}	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	番号
301	土師質土器	脚高台皿	8.9	4.3	[7.3]	灰石・赤色粒子	にぶい煙	普通	内外面クロナダ	底面	PL45
302	土師質土器	脚高台皿	9.1	4.8	[7.5]	灰石・赤色粒子	にぶい煙	普通	内外面クロナダ	底面	PL45
303	土師質土器	柱次高台皿	8.6	2.9	4.7	灰石・赤色粒子	煙	普通	内外面クロナダ、高台部削り出し、底部回転糸切り。	底面	PL45
304	土師質土器	小 皿	8.3	2.0	5.4	灰石・赤色粒子	煙	普通	内外面クロナダ、底部回転糸切り。	底面	PL45

4 中・近世の遺構と遺物

今回の調査で確認された中・近世の遺構は、井戸跡5基である。以下、遺構の特徴と出土した遺物について記載する。

第1号井戸跡（第218図）

位置 調査区東部A5j3区に位置し、北に向かう緩斜面に立地している。

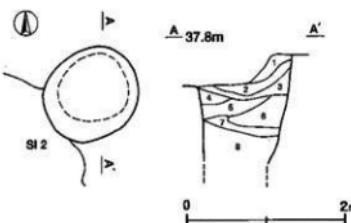
重複関係 第2号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.2mほどの円形を呈し、円筒状に掘り込まれている。深さ1.3mほど掘り下げた時点で湧水したため下部の調査を断念した。

覆土 8層に分層される。全層にわたってロームがブロック状に含まれていることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒 色	ロームブロック少量
2	黒 褐 色	ロームブロック少量・炭化粒子微量
3	黒 色	ロームブロック中量・炭化粒子微量
4	黒 色	ロームブロック中量
5	黒 褐 色	ロームブロック中量
6	黒 褐 色	ロームブロック少量・焼土粒子微量
7	黒 褐 色	ロームブロック中量
8	黒 褐 色	ロームブロック少量



第218図 第1号井戸跡実測図

遺物出土状況 混入による繩文土器片17点が出土しているのみで、本跡に伴う遺物は出土していない。

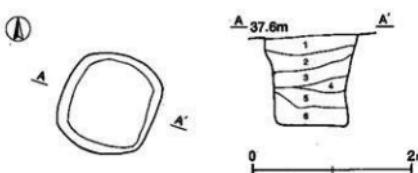
所見 本跡に伴う遺物が出土していないため判然としないが、形状や覆土の色調などから、時期は中・近世と考えられる。

第2号井戸跡（第219図）

位置 調査区東部の平坦部、B4d9区に位置している。

規模と形状 長・短軸ともに1.2mほどの隅丸方形を呈し、円筒状に掘り込まれている。深さは1.1mほどで、底面はほぼ平坦である。

覆土 6層に分層される。ほぼ水平の堆積状況



第219図 第2号井戸跡実測図

を示しているが、第5・6層にはロームがブロック状に含まれていることから人為堆積であり、第1～4層は自然堆積と考えられる。

土層解説

1	黒 色	ロームブロック少量
2	黒 褐 色	ロームブロック少量・焼土粒子微量
3	黒 色	ロームブロック少量・炭化粒子微量
4	黒 褐 色	ロームブロック微量
5	黒 色	ロームブロック少量・炭化粒子微量
6	黒 褐 色	ロームブロック中量

遺物出土状況 混入による繩文土器片46点が出土しているのみで、本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡に伴う遺物が出土していないため判然としないが、形状や覆土の色調などから、時期は中・近世と考えられる。

第3号井戸跡（第220図）

位置 調査区東部の平坦部、B4d4区に位置している。

規模と形状 径1.3mほどの円形を呈し、円筒状に掘り込まれている。深さ1.0mほど掘り下げた時点で湧水したため下部の調査を断念した。

覆土 5層に分層される。ほぼ水平の堆積状況を示しているが、全層にわたってロームがブロック状に含まれていることから人為堆積と考えられる。

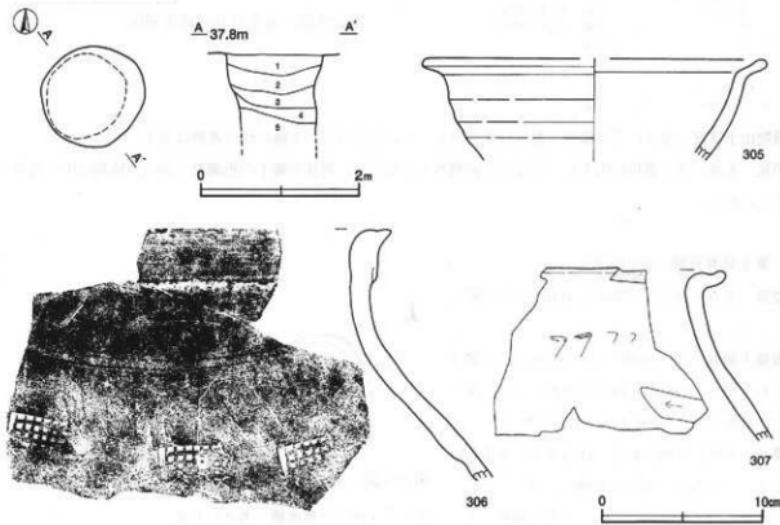
土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、粘土粒子微量
 2 黒褐色 ロームブロック中量
 3 黒色 ロームブロック少量

- 4 黒褐色 ロームブロック中量、粘土粒子微量
 5 黒色 ロームブロック多量、粘土粒子微量

遺物出土状況 陶器片3点(窓2, 深皿1)のほか、流れ込みによる縄文土器片26点、磨石19点、土師器片3点が出土している。305~307は覆土中層から出土しており、埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中世後葉頃と考えられる。なお、縄文時代の磨石が19点出土しているが、廃棄に伴って投棄されたものと考えられるが、詳細は不明である。



第220図 第3号井戸跡・出土遺物実測図

第3号井戸跡出土遺物観察表(第220図)

番号	種別	器種	口径	器高	断面	胎土	色調	造成	手法の特徴	馬土位置	備考
305	陶器	深皿	[21.0]	(6.1)	—	長石	灰黄	良好	体部クロナダ、蓮輪は薄い。	覆土中層	黒褐色
306	陶器	甕	—	(15.2)	—	長石	にいぶ赤褐色	良好	底部ハラ削り、体部横ナギ、口縁部内面輪摺痕。	覆土中層	常滑II型式
307	陶器	甕	—	(10.4)	—	長石	灰赤	良好	内外面横ナギ、外表面格子状スタンプ文。	覆土中層	常滑大甕

第4号井戸跡(第221図)

位置 調査区中央部の平坦部B4g4区に位置している。

規模と形状 径1.5mほどの円形を呈し、円筒状に掘り込まれている。深さ1.3mほど掘り下げた時点で湧水したため下部の調査を断念した。

覆土 12層に分層される。全層にわたってローム

第221図 第4号井戸跡実測図

がブロック状に含まれていることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 棕褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック中量
2 棕褐色	ロームブロック中量	8 黒褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	9 棕褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 褐色	ローム粒子多量	10 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	11 黒褐色	ロームブロック中量
6 黒褐色	ロームブロック多量	12 暗褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 混入による縄文土器片36点、磨石1点が出土しているだけで、本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡に伴う遺物が出土していないため判然としないが、形状や覆土の色調などから、時期は中・近世と考えられる。

第5号井戸跡（第222図）

位置 調査区中央部の平坦部、B4f2区に位置している。

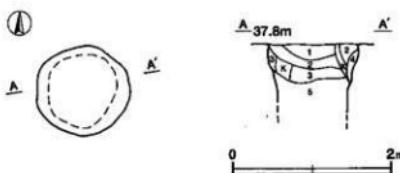
規模と形状 径1.1mほどの円形を呈し、円筒状に掘り込まれている。深さ1.3mほど掘り下げた時点で湧水したため下部の調査を断念した。

覆土 5層に分層される。全層にわたってローム

がブロック状に含まれていることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 棕褐色	ロームブロック少量	4 黒褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	5 黒褐色	ロームブロック中量
3 黒褐色	ロームブロック中量		



第222図 第5号井戸跡実測図

遺物出土状況 混入による縄文土器片209点、打製石斧1点が出土しているだけで、本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡に伴う遺物が出土していないため判然としないが、形状や覆土の色調などから、時期は中・近世と考えられる。

5 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期不明の土坑44基、溝跡5条を検出した。ほとんどの遺構は覆土中から縄文土器片が出土しているが、形状や覆土の色調、縛まり及び重複関係などから縄文時代の遺構とは考えにくく、かつ他に時期を特定できる遺物も出土していないことから時期不明として扱った。以下、それぞれの遺構について記載する。なお、土坑については一覧表で紹介し、併せて実測図と土層解説を記載する。また、溝跡の配置や全体の形状については遺構全体図に示す。

(1) 土坑（第223～225図）

その他の土坑土層解説

第5号土坑土層解説

1 暗褐色	ローム粒子
2 暗褐色	ロームブロック微量
3 暗褐色	ローム粒子微量

第7号土坑土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック微量
3 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子微量

第59号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、燒土ブロック微量

第62号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第65号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第66号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第67号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック微量
- 2 黑褐色 ローム粒子微量

第67号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子微量
- 2 黑褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

第70号土坑土層解説

- 1 後暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・燒土粒子微量

第71号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第72号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 黑褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第73号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第76号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量

第77号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子・燒土粒子微量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量
- 3 黑褐色 ロームブロック少量、燒土粒子微量
- 4 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第91号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 2 黑褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子微量
- 3 黑褐色 ローム粒子・粘土ブロック微量
- 4 黑褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量
- 5 黑褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック微量
- 6 黑褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 7 黑褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック微量
- 8 黑褐色 ローム粒子・粘土ブロック微量
- 9 黑褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 10 黑褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 11 黑褐色 ローム粒子・粘土粒子微量

第101号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第102号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 黑褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第113号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黑褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子少量
- 6 黑褐色 ロームブロック少量

第115号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第121号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量、燒土ブロック微量

第130号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化物微量
- 2 黑褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第150号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

第160号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・白色粒子微量
- 2 黑褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第167号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 烧土粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量

第168号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 黑褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量
- 7 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第169号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 黑褐色 ローム粒子中量

第172号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第175号土坑土層解説

- 1 暗褐色 烧土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・燒土粒子微量
- 3 黑褐色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化物微量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量

第178号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子少量

第185号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第196号土坑土層解説

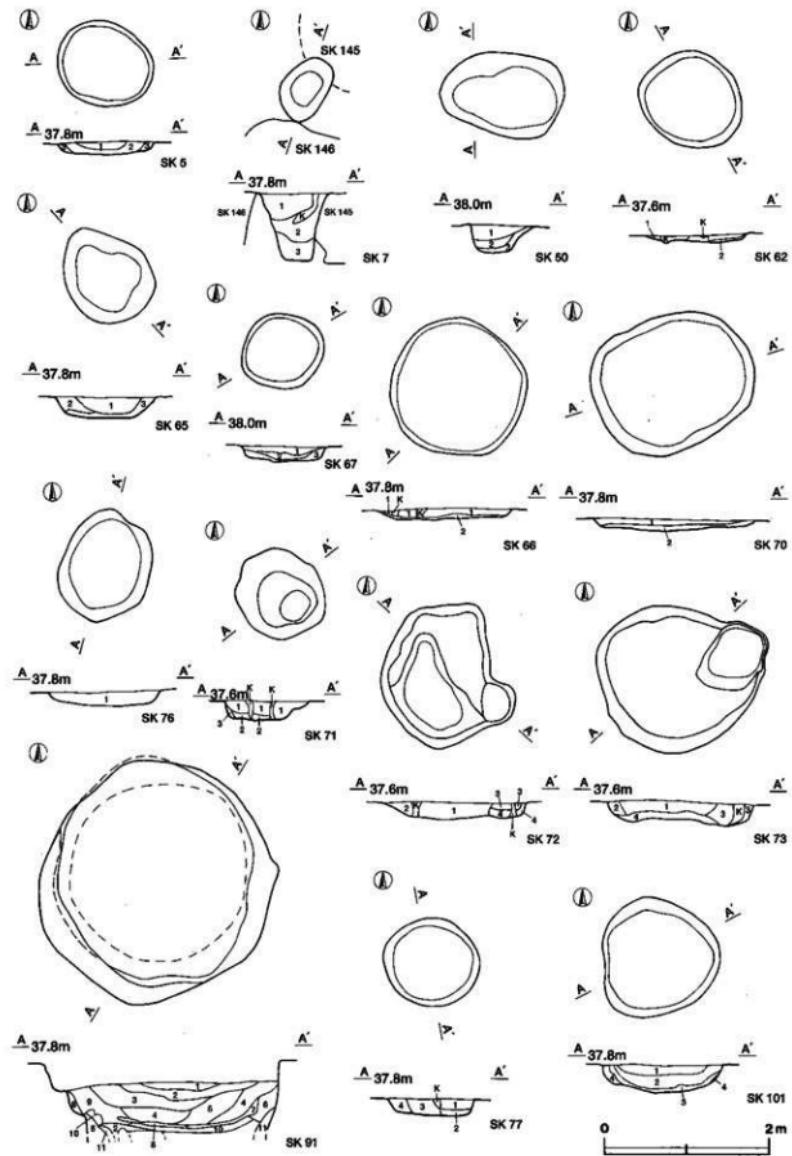
- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 明褐色 ロームブロック多量

第197号土坑土層解説

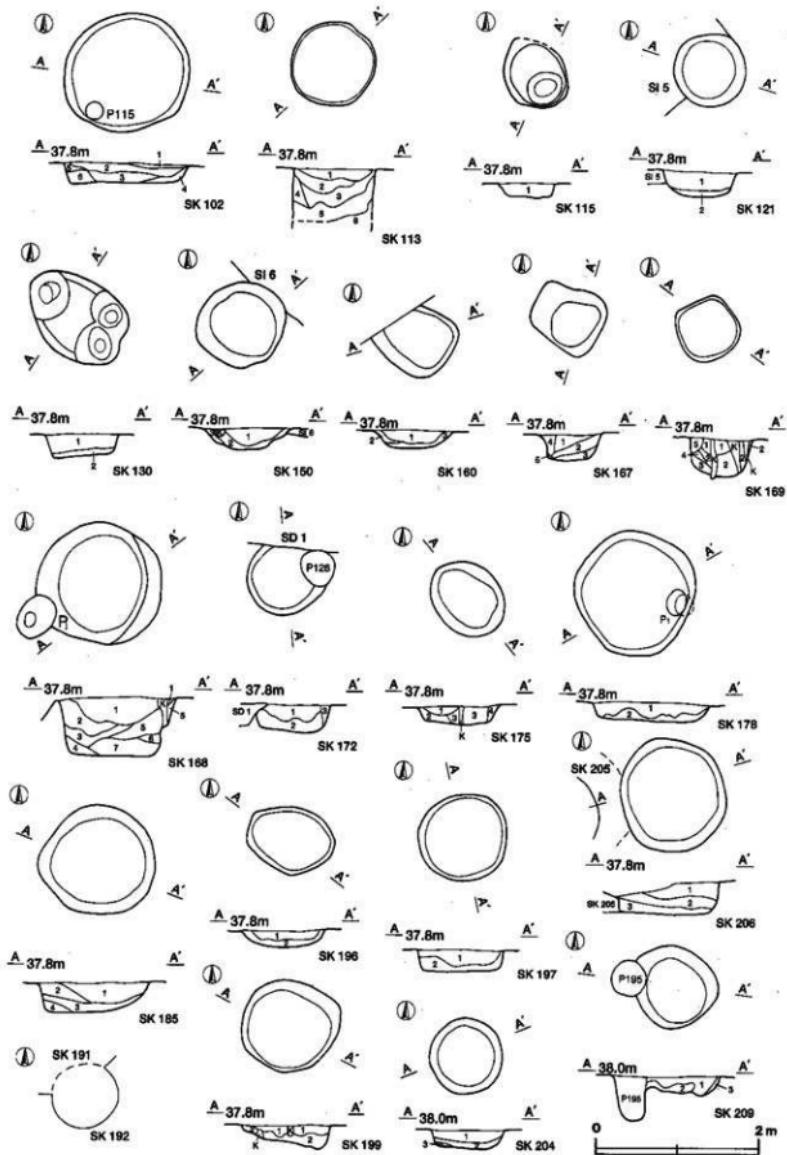
- 1 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

第199号土坑土層解説

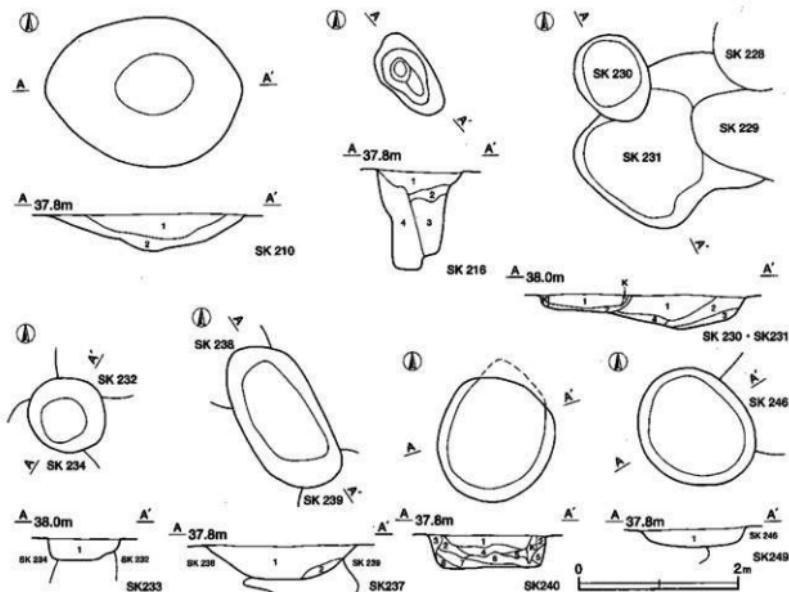
- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 明褐色 ロームブロック中量



第223図 時期不明土坑実測図（1）



第224図 時期不明土坑実測図 (2)



第225図 時期不明土坑実測図（3）

第204号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 褐褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第206号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第209号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・焼土ブロック中量
- 2 明褐色 ロームブロック多量
- 3 明褐色 ロームブロック中量

第216号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック微量
- 2 褐褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量

第219号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 枯葉褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 枯葉褐色 ロームブロック少量

第230号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第231号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 3 黑褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

第233号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第237号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第240号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 黑褐色 ローム粒子中量
- 4 黑褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黑褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
- 6 黑褐色 ロームブロック中量
- 7 黑褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 8 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第249号土坑土層解説

- 1 褐褐色 ロームブロック少量

(2) 溝跡

第1号溝跡（第226図）

位置 調査区中央部の平坦部、C2b9～C3h3区に位置している。

重複関係 第1号住居跡、第2号方形周溝墓及び第72・73・80号土坑をそれぞれ掘り込んでいる。

規模と形状 C3b4区から北方向（N-12°-E）に直線的に延び、C3c4区で西方向（N-79°-W）に直角に曲がり、長さ43.5mほどが確認されている。規模は上幅0.9～1.4m、下幅0.3～0.8m、深さ55～80cmほどで、南北方向では南に向かうほど深く、断面形は逆台形もしくはU字状を呈している。

覆土 12層に分層される。黒色及び黒褐色を基調とした締まりのない土層であり、レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒 色	ローム粒子・炭化粒子微量	7 薄 色	ロームブロック中量
2 黒 色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	8 黒 色	ロームブロック少量
3 黒 色	ロームブロック微量	9 黒 色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
4 黒 色	ローム粒子中量	10 黒 色	ローム粒子少量
5 黒 色	ローム粒子少量	11 黒 色	ロームブロック少量
6 黒 色	ロームブロック微量、炭化粒子微量	12 薄 色	ロームブロック多量

遺物出土状況 繩文土器片903点、土師器片2点、土師質土器片4点、馬齒2点などが出土している。馬齒はC3e4区の覆土上層から出土しており、本跡がほぼ埋没しかけた時点で投棄されたものと考えられる。

所見 くの字に屈曲する形態や断面形から区画溝の性格を有していたと考えられる。出土遺物が多時期にわたっているため時期判断は困難であるが、重複関係及び覆土の色調や締まりなどから中世を通過することはないと考えられるが判然としない。

第2号溝跡（第226図）

位置 調査区中央部の平坦部、土坑群の外縁部に沿ったC3d8～B4e4区に位置している。

重複関係 第92・100・201号土坑及び第188号ビットをそれぞれ掘り込んでいる。

規模と形状 C3hD8区から北東方向（N-50°-E）に直線的に延び、B4g4区で北方向（N-2°-E）に張状に曲がっている。深さが浅いため途中中断しながら延びているが、覆土の色調や軸線などから本来は1条の溝であったと判断した。長さ33.4mほどが確認されている。規模は上幅0.2～0.8m、下幅0.1～0.6m、深さ10cmほどであり、断面形は皿状を呈している。

覆土 単一層であり、堆積状況の詳細は不明である。

土層解説

1 黒 色 ロームブロック微量

遺物出土状況 繩文土器片181点、土師器片21点が覆土中から出土しているが、本跡に伴うと考えられる遺物は出土していない。

所見 出土遺物が多時期にわたっているため時期判断は困難であるが、繩文時代中・後期の土坑を掘り込んでいることから、時期は少なくとも繩文時代後期以降であり、性格は繩文時代の土坑群外縁部を囲むように存在しているが、前述の重複関係から該期の区画溝とは考えにくい。何らかの区画溝もしくは排水溝の性格を有していたと想定される。

第3号溝跡（第226図）

位置 調査区東部A5f6～A5h7区に位置し、東に向かう緩斜面に立地している。

規模と形状 A5h7区から北西方向(N-34°-W)に直線的に延び、長さ10.0mほどが確認されている。規模は上幅1.1~1.3m、下幅0.4m、深さ15~20cmほどで、南東に向かうほどやや深くなっている。断面形は△状を呈している。

覆土 3層に分層される。黒褐色を基調とした縛まりのない土層である。層厚が最深部で20cmほどと薄いため明確ではないが、ロームなどの混入物が微少で、レンズ状の堆積状況を示していることなどから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 |

- | | |
|-------|-----------|
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 |
|-------|-----------|

遺物出土状況 流れ込みと考えられる縄文土器片69点、磨石1点が覆土中から出土している。

所見 本跡に伴う遺物はなく、掘り込みも浅いため時期・性格ともに明確ではないが、直線的に延びる形状から区画溝の性格を有していた可能性が考えられる。

第4号溝跡(第226図)

位置 調査区西部の平坦部、方形周溝墓群中のC2i3~C2i4区に位置している。

規模と形状 C2i3区から東方向(N-5°-E)にほぼ直線的に延び、長さ5.7mほどが確認されている。規模は上幅0.7m、下幅0.3m、深さは最深部で40cmほどで、東に向かうほど深くなっている。西端は緩やかに立ち上がり地山と同化している。断面形は深い部分では逆V字形を呈している。

覆土 5層に分層される。暗褐色を基調とした縛まりのない土層で、レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 黑褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量 |

- | | |
|-------|------------------|
| 4 暗褐色 | ローム粒子微量、焼土粒子微量 |
| 5 黑褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 流れ込みと考えられる縄文土器片96点が覆土中から出土している。

所見 本跡に伴う遺物はなく、時期及び性格は不明である。

第5号溝跡(第226図)

位置 調査区西部の平坦部、方形周溝墓群中のD1a0区に位置している。

重複関係 第5号方形周溝墓を掘り込んでいる。

規模と形状 南側が擾乱を受けており明確ではないが、北方向(N-2°-W)にほぼ直線的に延び、長さ2.2mほどが確認されている。規模は上幅0.8~0.9m、下幅0.6m、深さ18cmほどで、断面形は皿状を呈している。

覆土 2層に分層される。層厚が18cmほどと薄いため明確ではないが、レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。

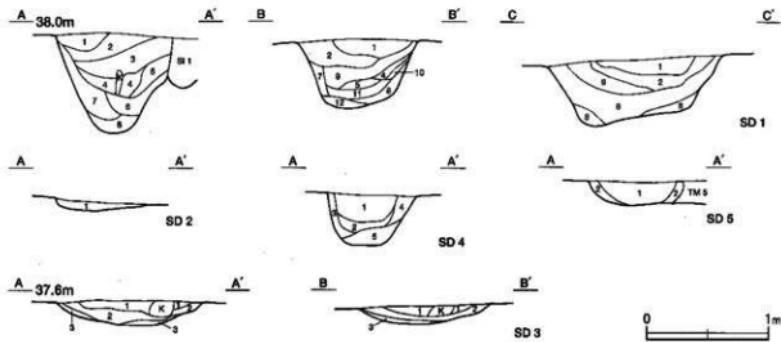
土層解説

- | | |
|--------|------------------|
| 1 繁縛褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
|--------|------------------|

- | | |
|-------|-----------|
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量 |
|-------|-----------|

遺物出土状況 縄文土器片51点、土師器片4点、須恵器片3点が覆土中から出土しており、いずれも流れ込みによるものと考えられる。

所見 出土遺物が多時期にわたっているため時期判断は困難であるが、第5号方形周溝墓を掘り込んでいることから古墳時代前期以降と考えられ、性格は不明である。



第226図 第1～5号溝跡土層断面実測図

表5 古墳時代堅穴住居跡一覧表

遺構番号	位置	主軸方向 (長軸方向)	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内装施設	覆土	主な出土遺物	重複関係 (古→新)				
1	C3g4	N-15°-E	[方形・長方形]	[45×42]	35~40	平坦	[全周]	1	—	土師器	本跡→SD 1			
8	C2f2	N-28°-W	長方形	68×60	15~17	平坦	断続	4	1	—	1	自然	土師器	TM 3→本跡

表6 方形周溝墓一覧表

遺構番号	位置	主軸方向	平面形・規模			周溝形状・規模			主な出土遺物	重複関係 (旧→新)		
			平面形	内法(m)	外法(m)	断面形状	上幅(m)	下幅(m)				
1	C2d6	N-15°-W	隅丸方形	[14.4]×14.4	[18.6]×18.6	逆台形状	1.2×2.9	0.8×1.8	35~74	自然	土師器	SI7→本跡
2	C2b9	N-30°-E	[隅丸方形・隅丸長方形]	[30×18]	[55×40]	逆台形状	0.8×1.9	0.5×1.9	40~50	自然		本跡→SD 1
3	C2f2	N-5°-E	隅丸方形	66×62	84×79	逆台形状・U字状	0.7×1.1	0.3×0.6	36~65	人為	土師器	本跡→SI8
4	C1g0	N-17°-W	[隅丸方形・隅丸長方形]	[56]×[69]	[66]×[15]	逆台形状・U字状	0.4×0.6	0.3×0.5	[90]	自然		
5	C2i1	N-28°-W	隅丸長方形	90×85	[114×111]	逆台形状・直状	0.8×1.6	0.4×1.5	25	自然	土師器	SK300・244→本跡→SD5

表7 井戸跡一覧表

遺構番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長径×短径	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	重複関係 (旧→新)
1	A5j3	N-0°	円形	1.2	(130)	直立	不明	人為		S 12→本跡
2	B4d9	N-18°-E	隅丸方形	1.2	110	外傾	平坦	人為・自然		
3	B4d4	N-0°	円形	1.3	(100)	外傾・直立	不明	人為	陶器	
4	B4g4	N-0°	円形	1.5	(13)	直立	不明	人為		
5	B4f2	N-0°	円形	1.1	(13)	外傾・直立	不明	人為		

表8 時期不明土坑一覧表

遺構番号	位臵	開口部 平面形	規模			壁面	底面	ピット	覆土	主な出土遺物	重複関係 (旧→新)
			開口部(長径×短径m)	底部(長径×短径m)	深さ(cm)						
5	C2j0	楕円形	1.2×1.0	—	15	鍔斜	平坦	—	自然	縄文土器片	
7	b3i8	楕円形	0.9×0.6	—	82	外傾	平坦	—	自然	縄文土器片	SK145・146→本跡

遺構 番号	位 置 面	開口部 平面形	概 模			壁面	底面	ピット	覆土	主な出土遺物	重 複 関 係 (旧 → 新)
			開口部(長径×短径m)	底部(長径×短径m)	深さ(cm)						
50	C3c8	不整梢円形	1.6×1.0	—	35	外傾	平坦	—	自然	縄文土器片	
62	A5i4	梢円形	1.3×1.1	—	8	緩斜	圓状	—	不明		
65	B5b2	梢円形	1.3×1.0	—	25	緩斜	圓状	—	自然	縄文土器片	
66	A4j0	円 形	1.7	—	14	緩斜	圓状	—	不明	縄文土器片	
67	A4j0	円 形	1.0	—	20	外傾	平坦	—	自然	縄文土器片	
70	B4c7	梢円形	2.0×1.6	—	14	緩斜	圓状	—	不明	縄文土器片, 磨石	
71	B4b9	梢円形	1.2×1.0	—	22	外傾	平坦	—	自然	縄文土器片, 王師賀土器	
72	B4c8	梢円形	1.8×1.3	—	22	緩斜	圓状	—	人為		
73	B4c8	梢円形	2.2×1.8	—	27	外傾	半坦	—	人為	漆鉢	
76	B4b6	円 形	1.1	—	16	緩斜	圓状	—	不明	縄文土器片	
77	B4e6	円 形	1.1	—	18	外傾	平坦	—	人為	縄文土器片	
91	B4f2	円 形	2.9	—	(84)	外傾	不明	—	人為	縄文土器片, 打製石斧	
101	B4h3	円 形	1.5	—	33	外傾	平坦	—	自然	縄文土器片	
102	B4h1	梢円形	1.6×1.4	—	25	外傾	平坦	—	人為	縄文土器片	
113	B4h2	円 形	1.1	—	(50)	直立	不明	—	人為		
115	B3b9	梢円形	0.9×0.8	—	17	緩斜	圓状	—	不明	縄文土器片	
121	B4f3	円 形	0.9	—	29	外傾	平坦	—	自然	縄文土器片	S I 5→本跡
130	B3h7	不整梢円形	1.3×1.0	—	28	外傾	凹凸	—	自然	縄文土器片, 磨石	
150	C3e5	梢円形	1.2×1.0	—	28	緩斜	圓状	—	自然	縄文土器片, 磨石	S I 6→本跡
160	B3j2	[陶瓦瓦方軸]	(0.8)×0.8	—	21	緩斜	平坦	—	自然	縄文土器片	
167	C3a3	梢円形	1.6×1.1	—	32	外傾	平坦	—	自然	縄文土器片	
168	C3b2	円 形	1.5	—	70	外傾	平坦	1	自然		
169	C2e0	[円 形]	[0.7]	—	56	外傾	平坦	—	自然		
172	C3c4	円 形	1.0	—	33	外傾	平坦	1	人為		
175	B3i0	梢円形	1.0×0.8	—	22	緩斜	圓状	—	自然		
178	C3e3	円 形	1.5	—	22	外傾	平坦	1	人為	縄文土器片	
185	C2e7	円 形	1.4	—	35	外傾	平坦	—	自然	縄文土器片	
192	C2f9	不 明	—	[0.8]	—	不明	平坦	—	不明		
196	C3b4	梢円形	1.1×0.8	—	18	緩斜	圓状	—	不明		
197	C2f0	円 形	1.1	—	28	外傾	平坦	—	人為		
199	C3b4	梢円形	1.3×1.1	—	28	外傾	平坦	—	人為		
204	C2d6	円 形	0.9	—	25	緩斜	圓状	—	自然	縄文土器片	
206	C2d7	円 形	1.1	—	38	外傾	平坦	—	自然		S K 205→本跡
209	C2g1	円 形	1.0	—	23	外傾	平坦	—	人為	縄文土器片	本跡→P195
210	C3a7	梢円形	2.5×1.8	—	46	緩斜	圓状	—	自然		
216	B3i6	梢円形	1.1×0.6	—	121	外傾	平坦	—	自然		
220	C2g4	梢円形	1.1×0.9	—	42	緩斜	平坦	—	自然	縄文土器片	S K 231→本跡
231	C2h4	梢円形	[2.3]×1.7	—	21	緩斜	平坦	—	自然	縄文土器片	本跡→S K 230
233	C2b3	円 形	0.7	—	27	外傾	平坦	—	不明		SK232・234→本跡
237	C2e0	梢円形	2.0×1.0	—	43	緩斜	圓状	—	不明	縄文土器片	SK238・239→本跡
240	C2g6	円 形	1.3	—	30	外傾	平坦	—	自然		
249	C3d2	梢円形	1.6×1.3	—	21	緩斜	圓状	—	不明		S K 246→本跡

表9 溝跡一覧表

遺構番号	位置	長軸方向	形状	規 模				断面	裏面	ピット	覆土	主な出土遺物	重複関係 (旧→新)
				確認長(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)						
1	C2b9~C3h3	N-12°-E N-79°-W	クランク状	43.5	0.9~1.4	0.3~0.8	55~89	逆台形状 U字状	平坦	一	自然	馬鹿	SD, TM2, SK2-73-80→本跡
2	C3e7~B4e4	N-50°-E N-20°-W	弓状	33.4	0.2~0.8	0.1~0.6	10	直状	直状	一	自然		SD, TM2, SK2-73-80→本跡
3	A5f6~A5h7	N-34°-W	直線状	10	1.1~1.3	0.4	15~20	直状	直状	一	自然		
4	C2i3~C2i4	N-5°-E	直線状	5.7	0.7	0.3	40	逆台形状	平坦	一	自然		
5	D1a0	N-2°-W	直線状	22	0.8~0.9	0.6	18	直状	直状	一	自然		TM5→本跡

第4節 まとめ

今回の調査で、縄文時代から近世までの遺構と遺物が検出された。ここでは、縄文時代の集落の変遷と出土土器及び平安時代の土壙墓から出土した土師質土器について概略を述べ、まとめとしたい。

1 縄文時代の集落と出土土器

当遺跡の中心となる時代で、竪穴住居跡7軒、屋外炉1基、土坑175基、ピット194基を検出した。集落は中期から後期にかけて断続的に営まれており、出土土器から大きく8期に分けることができる。集落の構成要素は、竪穴住居跡、屋外炉、土坑、ピットなどであるが、ここで取り上げる遺構は、年代幅があるものや時期が明確でないものについては除外した。また、後期前葉に関しては、特に称名寺2式と堀之内1式期の差異が明確にできないため、後期初頭(称名寺1式期)、後期前葉(称名寺2式~堀之内1式期)に大別した。なお、縄文土器の編年については主に『日本土器辞典』¹⁾に依拠し、時間軸については中期中葉が阿玉台式・加曾利E式、後期初頭から前葉は称名寺式・堀之内式の編年を基準とした。

I期 中期中葉 阿玉台I b式期(第227図)

土器は深鉢が主体で、単列の結節沈線が沿う三角形の断面形をもつ隆帯によって主文様を描出し、胴部には輪横痕や圧痕文を残している。本期の遺構は第117号土坑だけであるため、集落の様相は不明であるが、それ以前の遺物は出土していないことから、本期が集落形成の萌芽期にあたると考えられる。

II期 中期中葉 阿玉台II式期(第227図)

土器は深鉢と浅鉢が主体で、わずかに鉢が加わる。複列の結節沈線が沿う隆帯によって主文様を描出し、胴部や口辺部には爪形文(キザミ目列)が巡っている。口縁は4単位の波状口縁と平口縁のものがある。本期の遺構は第2・3・4・8号住居跡及び第18・59・63号土坑などが相当し、第181号土坑からは良好な一括資料が出土している。住居跡は本期が最も多く、調査区東部には3軒まとまり、西部から1軒が検出された。第2号住居跡は、いわゆる大形で梢円形もしくは隅丸長方形を呈し、炉をもたないという特徴を有する有段掘り込みをもつ住居跡の一類型ととらえられる。同様の遺構は県内各地で検出例があり、近年の例では茨城町宮後遺跡の第199号住居跡があげられる²⁾。宮後遺跡例は阿玉台III式期のものであるが、集落の縁辺部に単独で位置しており、当遺跡の分布状況と近似する。このタイプの遺構については、倉庫や作業場としての機能も提唱されているが判然としない。また、土坑は調査区中央部に点在し、断面形の形状はフラスコ状を呈している。本期のフラスコ状土坑は、底部が大きくオーバーハングし、括れ部から開口部に向かって大きく開くものが多い。集落構成は、住居跡域に土坑群が付随していない状況が看取できる。

Ⅲ期 中期中葉 阿玉台Ⅲ式期（第227図）

土器は深鉢、浅鉢、鉢であり、幅広の結節沈線が沿う隆帯によって主文様が描出されている。地文に縞文が施されるのもこの時期からである。口縁は3単位及び4単位の波状口縁と平口縁のものがあり、平口縁のものはV字状もしくはY字状の隆帯が貼付されているものが多い。また、第154・163号土坑のように大木8a式土器が客体的に伴出している例も見られる。本期の遺構は第5・6号住居跡及び第2・28・34・49・56・103号土坑などが相当し、調査区中央部に比較的まとまりをもって分布していることから、2軒の検出ではあるが住居跡と土坑群とが同一エリア内に構築されている状況が認められる。土坑はラスコ状土坑が安定して構築されており、本期からラスコ状土坑の群在化がみられる。

Ⅳ期 中期中葉 阿玉台Ⅳ式期（第227図）

土器は深鉢と浅鉢であり、結節沈線や半截竹管による平行沈線が沿う隆帯によって主文様が描出される。波状口縁を有する土器は3単位と4単位のものがあり、口縁部文様帶を区画する隆帯の断面は下方に突出している。また、口辺部に隆帯による横S字文を貼付した土器が第171号から出土しており、數は若干減少するが、Ⅲ期と同様に大木8a式土器が伴出している。また、隆帯上に刻みを有する勝板系の土器も見られる。本期の遺構は第222号土坑出土土器を指標とし、第29・104・129・142・144号土坑などが相当する。住居跡が検出されなかつたため、集落の様相は判然としないが、ラスコ状土坑が調査区中央部にある程度のまとまりをもって点在していることから、Ⅲ期に引き続き群在化した土坑群を形成していたととらえることが可能である。北側に隣接する古堂遺跡からは該期の土器が採集されていることから、住居域は古堂遺跡側に広がっていたことも想定できる。

前述したように、本節では年代幅があるものは除外したため、ここで扱う遺構数は検出数に比して決して多いものではないが、これらを中期中葉の遺構と包括してとらえると、該期が調査区中央部に群在化したラスコ状土坑群を内包する集落が形成された時期で、当遺跡の主体となる時代であると言える。また、土坑群域にはピットが群在しており、時期が判断できるものほとんどが該期に相当することから、性格は不明ながらも中期中葉集落の構成要素の一つになることは間違いない。

Ⅴ期 中期後葉 加曾利E I式期（第228図）

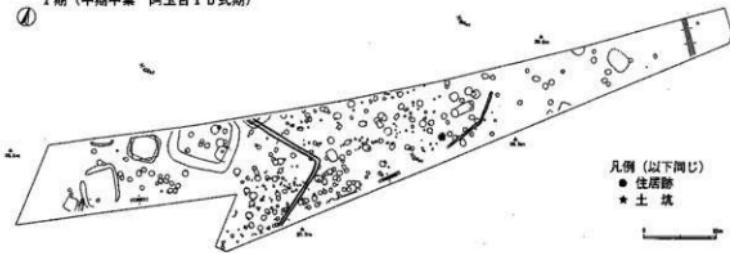
遺構数は減少し、明確に本期と判断できる遺構は土坑5基である。土器は深鉢が主体で、沈線が沿う隆帯によって主文様が描出されている。口縁部文様帶にはクランク文・渦巻文などを配し、胴部には平行沈線文や波状沈線文が垂下する。波状口縁には3単位のものと4単位のものがある。本期の遺構は第202号土坑出土土器を指標とし、第16・27・246・248号土坑が相当する。これらの土坑は調査区中央部に位置するⅢ・Ⅳ期の土坑群の西側にまとまって検出されている。土坑の形状は、ラスコ状土坑の割合が減少し、壁がわずかに内傾するものが見られるようになる。この時期になると環状集落を形成する例が全国的に増加してくることから、本調査区が環状集落内の土坑群の一部にあたることも想定され、Ⅳ期と同様に住居跡群が古堂遺跡を含めたその周囲に巡る可能性が考えられる。なお、本期以降、加曾利E II式から同IV式期までは遺構と遺物ともに検出されておらず、一時的に集落が断絶する。これは当遺跡の西側を流れる小貝川の流路変更などに伴う生活領域の変動が要因とも考えられる。

Ⅵ期 後期初頭 称名寺I式期（第228図）

土器は深鉢が主体で、沈線によってJ字状やO字状、H字状の区画文を施し、区画内には単節縞文を充填している。口縁部に向かって直立気味に外傾し、口辺部無文帯下に微隆帯を巡らし、舌状の突起を付す深鉢もこの時期に含めた³⁾。本期の遺構は第10・41・86・100・140号土坑が相当する。区分した年代幅がⅤ期に比して

I期（中期中葉 阿玉台I式期）

①



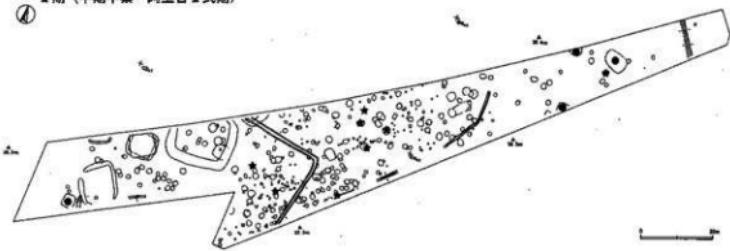
凡例（以下同じ）

● 住居跡

★ 土 塵

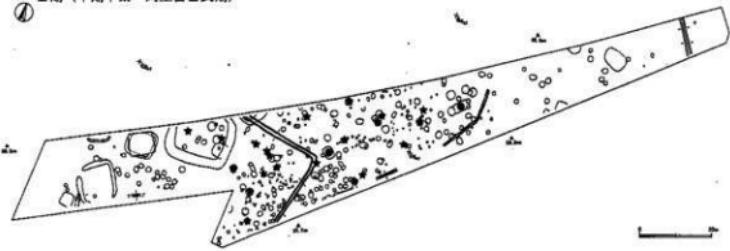
II期（中期中葉 阿玉台II式期）

②



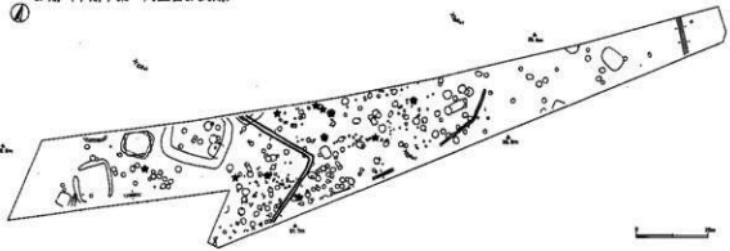
III期（中期中葉 阿玉台III式期）

③



IV期（中期中葉 阿玉台IV式期）

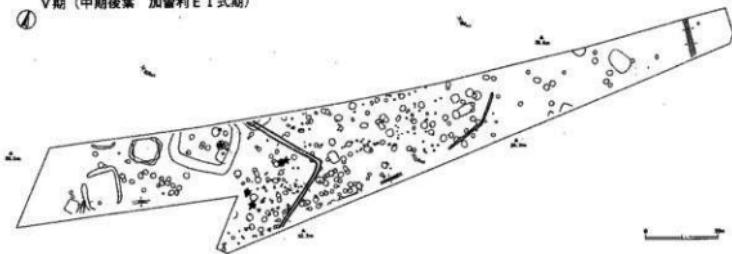
④



第227図 縄文時代遺構変遷図（1）

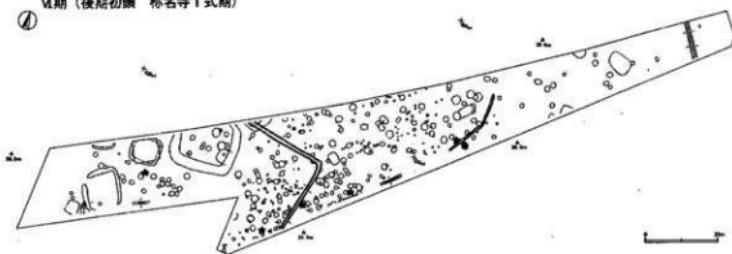
V期（中期後葉 加曾利E I式期）

④



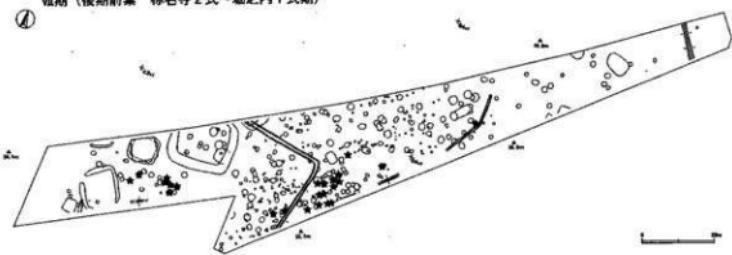
VI期（後期初頭 称名寺1式期）

④



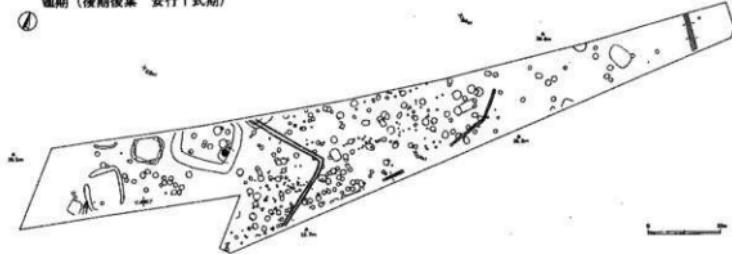
VII期（後期前葉 称名寺2式～堀之内1式期）

④



VIII期（後期後葉 安行1式期）

④



第228図 縄文時代遺構変遷図（2）

狭いため単純な比較はできないが、遺構数は少なく、断面形が円筒状を呈する土坑が、調査区中央部の南側及び調査区西部に点在する程度である。住居跡は検出されていない。本期は、加曾利E II式期以降一時的に断絶していた集落が再形成される時期にあたる。なお、土坑の分布傾向はVI期とほぼ同様のため、VI期の項で述べることとする。

VI期 後期前葉 称名寺2式～堀之内1式期（第228図）

土器は深鉢、壺、蓋である。細別段階を擔象したやや強引なとらえ方ではあるが、胴部に沈線による区画文中に列点文を充填しているものや沈線による斜格子文や波状櫛歯状文を施しているもの、胴部文様帶に沈線によるJ字状文などを配し、区画内に単節繩文を充填しているものなどを本期の土器ととらえた。波状口縁をもつものは、波頂部にO字状・S字状の隆帯を貼付している。沈線描出の起点や交差する部分には円形貼付文を付しているものが多い。また、口辺部無文帯下に隆帯を巡らし、無文帯部にC字状・I字状の隆帯文を貼付する綱取I式土器や口辺部無文帯下を沈線で画す綱取II式への傾斜を示唆する土器も含まれている⁴⁾。調査区中央部に位置する第53号土坑の底面からは深鉢と壺が併出しており、良好な一括資料となっている。同土坑で併出している2点の深鉢のうち1点は、胴部に沈線区画を施し、区画内に列点文を充填している典型的な称名寺2式土器であり、もう1点は底部から口縁部にかけて直線的に外反するいわゆる朝顔形の深鉢で、胴部上位に沈線で区画した文様帶を配する綱取系の土器である。また、これらと併出している壺は、県内では出土例の少ないものであるが、近隣では栃木県の寺野東遺跡^{5)・6)}、古宿遺跡⁷⁾、浄法寺遺跡⁸⁾などに類例が求められ、さらに東北地方において同形の土器群が見出される⁹⁾。これらの土器と第53号土坑から出土した壺には8字状の構状把手を有するという類似点を確認できる¹⁰⁾。第55号土坑の一括土器群は、綱取式土器の編年細分、さらには当地域の後期前葉土器群の様相を検討する上での好資料となるものと思われる。本期の遺構は前述の第53号土坑出土土器を指標とし、第21・37・39・44号土坑などが相当する。これらの土坑のほとんどが円筒状の断面形を呈している。住居跡が検出されていないため集落の様相は判然としないが、土坑群ととらえることができるブロックが調査区中央部と西部の2か所認められる。これらの土坑群はいずれも調査区の南側に寄っていることから、本期の集落は調査区域外の南に向かって展開しており、本調査区はその北端に相当すると想定される。併せて、茨城県内の該期の集落規模は廻り地A遺跡例でみられるように小規模化傾向の時期であり¹¹⁾、当遺跡もこの趨勢に合致していると考えられる。

VI期 後期後葉 安行1式期（第228図）

土器は深鉢で、口縁部に隆帯が巡りその下位を沈線・平行沈線で区画し、単節繩文を地文とするものと、口縁部から胴部にかけ条線文が垂下・斜行するものとがある。遺構は、住居跡1軒が調査区西部から検出されており、北側に隣接する古堂遺跡が集落の中心で、本調査区がその縁辺部にあたると想定される。また、調査区西部では、表土中から後期中葉から晩期にかけての土器片が採集されており、繩文時代においては、同期の土器が採集されている古堂遺跡¹²⁾との有機的な関連や面的な連続性が窺える。

2 第1号土墳墓出土の土師質土器について

平安時代の遺構は第1号土墳墓が検出されただけで、該期の様相は判然としないが、住居跡が検出されなかったことや遺物がほとんど出土しなかったことなどから、本調査区が墓域の周辺部に相当すると想定される。第1号土墳墓は調査区中央部の平坦部に位置しており、長軸1.75m、短軸0.85mほどの長方形を呈している。骨片は確認できなかったものの、形状やブロック状の覆土から土墳墓と判断した。本跡からは、南壁際から土師質土器の小皿1点、柱状高台皿1点、脚高高台皿2点が一部重なって並ぶという特異な出土状況を示してお

り、埋葬時に何らかの意図をもって埋納されたものと考えられる。出土遺物の中で特筆すべきものは柱状高台皿であり、管見の限りでは県内の出土例は認められない。柱状高台皿は、古代末から中世にかけて出土する回転台を使用して成形された土器で、坂本美夫氏によって関東・甲信地域をフィールドとして先駆的な研究が進められた¹³⁾。その後、主に東北・北陸・甲信・山陰地方などで編年に組み込まれ、近年は全国的な視野での研究も進められており、次第にその様相が明らかになりつつある。坂本氏は柱状高台皿を器高と底の厚さに着目してⅠ～Ⅲ類に形態分類をしており、さらには八紘興氏はその分類を高台部の形状により9細分している¹⁴⁾。この分類によると本跡から出土した柱状高台皿は、器高が低く円柱状の低い高台をもつⅠA類に相当する。ⅠA類は主に柱状高台に成立期にあたる11世紀前葉に多く見られ、茨城県における編年はなされていないが、「この時期の柱状高台は、全国的に見ても各地域ごとの差を抽出することは難しい」¹⁵⁾ことからも、本跡から出土した柱状高台皿は概ね11世紀前半に相当すると考えられる。また、柱状高台の使途については、①灯明皿または漁燭立て、②儀式のための主たる器、③灯明・儀式などの補助的な器が想定されている¹⁶⁾。本跡の柱状高台皿は油煙が認められなかったことから①は考えられず、前述の如く脚高高台皿2点と小皿が共存したことや土塚墓から出土したことなどを考え合わせると、②もしくは③の使途が想定される。いずれにしてもこれらの中土師質土器は日常的な器ではなく、何らかの宗教または儀礼のために使用されたものととらえてよいだろう。すなわち副葬品としての性格が付与されると考えられる。なお、全国的に土塚墓から柱状高台皿が出土した例は見られず、柱状高台をもつ土師質土器の性格や該期の葬送儀礼などを検討する上での好資料になろう。今後の資料の蓄積を待つところである。

註

- 1) 大川 清・鈴木公雄・工來善通編『日本土器辞典』 雄山閣 1996年12月
- 2) 和田清典・吹野富美夫・浅野和久・荒蔵克一郎・駒澤悦郎「宮後遺跡2 やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」「茨城県教育財團調査報告」(近年刊行予定)
- 3) 橋本澄朗ほか「八剣遺跡 北関東自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査」「茨城県埋蔵文化財調査報告」第254集 2001年3月
- 4) 網取式土器の編年細分、特にⅠ式とⅡ式の区分をどこにおくかについては研究者によって意見が分かれているが、ここでは、口辺部無文帯と胴部文様帯を縦帯で区切るものをⅠ式、沈線で区切るものをⅡ式ととらえた。
- 5) 初山孝行・江原英はか「寺野東遺跡V 小山市小山西部地区工業用地造成に伴う発掘調査」「茨城県埋蔵文化財調査報告」第200集 1997年3月
- 6) 江原 英「寺野東遺跡II 小山市小山西部地区工業用地造成に伴う発掘調査」「茨城県埋蔵文化財調査報告」第224集 1999年3月
- 7) 芹澤清八はか「古宿遺跡 県道藤原・宇都宮線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査」「茨城県埋蔵文化財調査報告」第142集 1994年3月
- 8) 塚本誠也「淨法寺遺跡 県道網場整備事業小川北西部地区に係る埋蔵文化財発掘調査」「茨城県埋蔵文化財調査報告」第196集 1997年3月
- 9) 江原 英「織紋後期初頭から前半における壺形土器観書—茨城県内の資料から見た壺型土器の存在状態—」「研究紀要」第9号 (財)とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2001年3月
- 10) 江原英氏は、前掲9)で「壺型土器」は「称名寺式～壠之内I式期にかかる土器群において重要な一「器種」」であるとし、また東北地方に見られる同土器群との関連について、「茨城県内の壺型土器の体部文様表現の多くは、む

- しろ東北中部～南部の土器群の壺・深鉢で認められる表現が多いようであり、当然のこと乍ら、壺型土器及びその文様について直接的な東北北部一関東の関連性で捉えられないことは注意しておきたい。」と述べている。
- 11) 瓦吹 堅 「茨城県における縄文時代集落の諸様相」『第1回研究集会基礎資料集 列島における縄文時代集落の諸様相』 縄文時代文化研究会 2001年12月
 - 12) 協和町史編さん委員会『協和町史』 協和町 1993年3月
 - 13) 板本美夫 「古代末期の特徴的な土器群の様相(2)柱状高台の壺・杯について」『神奈川考古』 第21号 神奈川考古同人会 1986年2月
 - 14) 八峰 興 「柱状高台考」『中世土器研究論集—中世土器研究会20周年記念論集』 中世土器研究会 2001年5月
 - 15) 前掲14)
 - 16) 前掲14)

参考文献

- ・ 吹野富美夫 「宮後遺跡における縄文時代中期中葉の土器様相」『領域の研究』 阿久津久先生還暦記念事業実行委員会 2003年3月
- ・ 塚本節也 「茨城県北部域に於ける縄文時代中期中葉の土器様相」『領域の研究』 阿久津久先生還暦記念事業実行委員会 2003年3月
- ・ 吹野富美夫・宮崎修士・柴田博行 「伊奈・谷和原丘陵部特定土地開発整理事業地内埋蔵文化財調査報告書4 前田村遺跡G・H・I区」『茨城県教育財團文化財調査報告』第146号 1999年3月
- ・ 川又清明・野田良直・吹野富美夫・浅野和久 「宮後遺跡1 やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書II」『茨城県教育財團調査報告』第188集 2002年3月
- ・ 後藤信祐・江原英 「栃木県における縄文時代集落の諸様相」『第1回研究集会基礎資料集 列島における縄文時代集落の諸様相』 縄文時代文化研究会 2001年12月
- ・ 押山雄三 「東北地方南部における縄文後期前葉の土器」『第15回縄文セミナー後期後半の再検討』 縄文セミナーの会 2002年5月
- ・ 馬目順一 「いわき市下片寄貝塚発見の後期縄文式土器について」『考古』 16号 茨城高校史学研究クラブ 1970年
- ・ 鈴木 源 「銚取式土器再考」『いわき地方史研究』 第31号 いわき地方史研究会 1994年
- ・ 海老原郁雄 「接觸の縄文中・後期文化」『ミュージアム氏企画展図録—よみがえる縄文人—』 1998年9月

写 真 図 版



調査区東部完堀状況



調査区西部完堀状況



第2号住居跡
完 堀 状 況



第2号住居跡
遺 物 出 土 状 況



第3号住居跡
遺 物 出 土 状 況



第3号住居跡
遺物出土状況

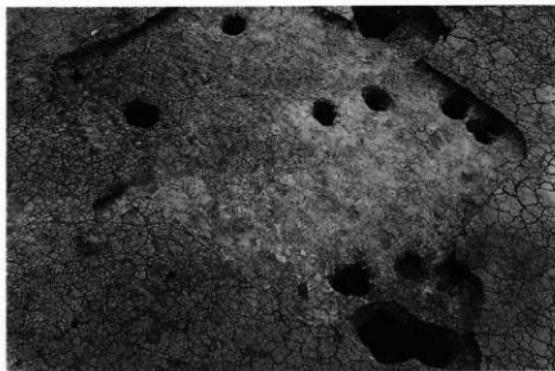


第5号住居跡
遺物出土状況

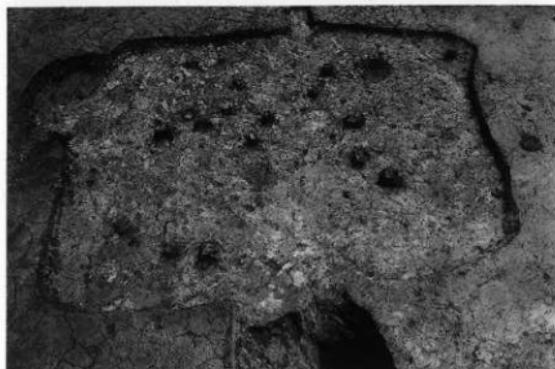


第5号住居跡
遺物出土状況

PL4



第6号住居跡
完 堀 状 況



第6号住居跡
遺 物 出 土 状 況



第7号住居跡
完 堀 状 況

第1号住居跡
完 堀 状 況



第1号住居跡
遺 物 出 土 状 況



第8号住居跡
遺 物 出 土 状 況



PL6



第4号土坑
遗物出土状况



第4号土坑
遗物出土状况



第10号土坑
遗物出土状况



第15号土坑
完 填 状 况



第15号土坑
遗 物 出 土 状 况



第16号土坑
遗 物 出 土 状 况

PL 8



第 18 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 19 号 土 坑
土 层 断 面



第 22 号 土 坑
土 层 断 面



第 23 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 28 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 34 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 41 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 53 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 55 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况

第 59 号 土 坑
遺 物 出 土 狀 況



第 87 号 土 坑
遺 物 出 土 狀 況



第 92 号 土 坑
遺 物 出 土 狀 況





第 103 号土坑
遗物出土状况



第 104 号土坑
遗物出土状况



第 123 号土坑
遗物出土状况



第 129 号 土 坑
遺 物 出 土 狀 況



第 132 号 土 坑
遺 物 出 土 狀 況



第 132 号 土 坑
遺 物 出 土 狀 況

P L 14



第 135 号 土 坑
土 层 断 面



第 138 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 144 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第145号土坑
遺物出土狀況



第145号土坑
遺物出土狀況



第148・149・153土坑
遺物出土狀況



第148·149号土坑
遗物出土状况



第151号土坑
土层断面



第154号土坑
遗物出土状况



第 156 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 156 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 159 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况

P L 18



第 165 号土坑
土 层 断 面



第 173 号土坑
遗 物 出 土 状 况



第 173 号土坑
遗 物 出 土 状 况

第 173 号土坑
土 層 断 面



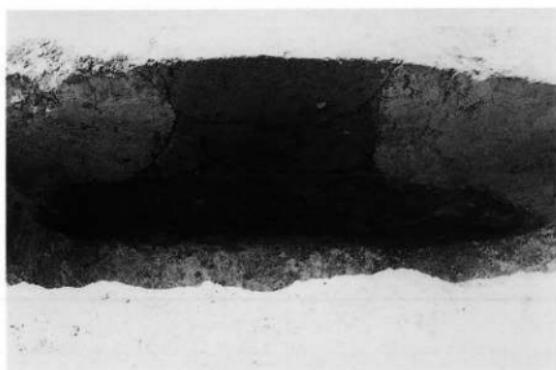
第 181 号土坑
遗 物 出 土 状 况



第 182 号土坑
遗 物 出 土 状 况



P L 20



第 182 号土坑
土 层 断 面



第 184 号土坑
遗 物 出 土 状 况



第 184 号土坑
遗 物 出 土 状 况



第 194 号 土 坑
完 挖 状 況



第 202 号 土 坑
遗 物 出 土 状 況



第 203 号 土 坑
遗 物 出 土 状 況



第 222 号土坑
遗物出土状况



第 222 号土坑
遗物出土状况



第 222 号土坑
遗物出土状况

第 222 号 土 坑
遺 物 出 土 狀 況



第 236 号 土 坑
遺 物 出 土 狀 況



第 246 号 土 坑
遺 物 出 土 狀 況





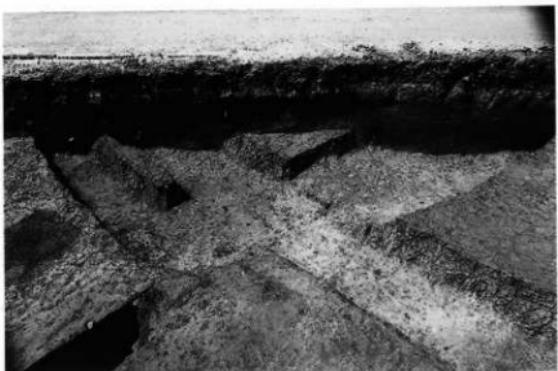
第1号方形周溝墓
遺物出土状況



第1号方形周溝墓
遺物出土状況



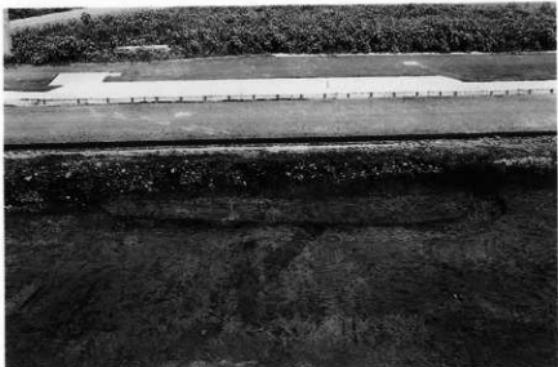
第1号方形周溝墓
遺物出土状況



第2号方形周溝墓
完 挖 状 況



第3号方形周溝墓
完 挖 状 況



第4号方形周溝墓
完 挖 状 況



第5号方形周溝墓
完掘状況



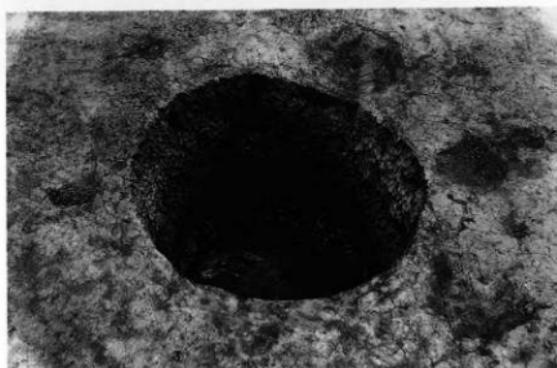
第1号土壤墓
遺物出土状況



第1号土壤墓
遺物出土状況



第 1 号 井 戸 跡
完 挖 状 況



第 2 号 井 戸 距
完 挖 状 況



第 1 号 溝 距
馬 齒 出 土 状 況



第53号土坑出土土器



第154号土坑出土土器



第173号土坑出土土器



第222号土坑出土土器

PL 30



SI 3-7



SI 5-20



SI 3-6



SI 5-17



SK 16-56



SK 18-59

第3·5号住居跡、第16·18号土坑出土土器



SK 40-87



SK 28-73



SK 28-72



SK 56-103



SK 34-78



SK 16-57

第 16 · 28 · 34 · 40 · 56 号土坑出土土器

P L 32



SK 56-106



SK 63-112



SK 53-99



SK 53-101



SK 53-100



SK 37-83

第37·53·56·63号土坑出土土器



SK 49-94



SK 104-124



SK 59-110



SK 81-114



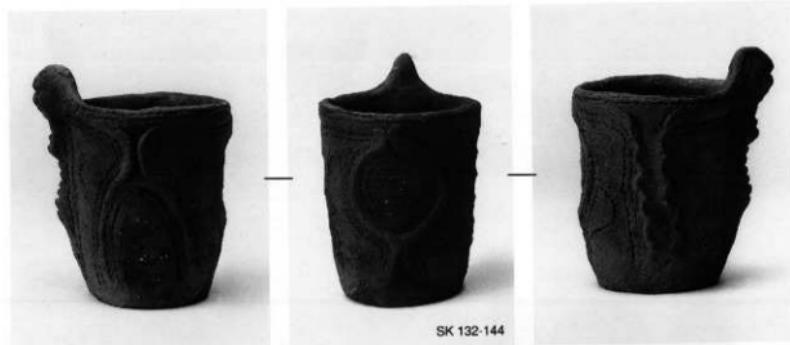
SK 59-111



SK 55-102

P L 34





第104·129·132号土坑出土土器



SK 132-148



SK 134-149



SK 142-159



SK 142-160



SK 129-140



SK 145-167



SK 149-179



SK 148-172



SK 149-175



SK 145-168



SK 149-174



SK 154-181

第145·148·149·154号土坑出土土器

P L 38



SK 154-182



SK 159-192



SK 163-193



SK 154-184



SK 156-185



SK 170-197

第154·156·159·163·170号土坑出土土器



SK 171-201



SK 173-205



SK 173-204



SK 173-203



SK 171-200



SK 174-208

第171·173·174号土坑出土土器

P L 40



第174·179·181·182号土坑出土土器



SK 222-252



SK 202-227



SK 222-248



SK 202-226



SK 222-247



SK 222-246

P L 42



第184·222·227·236·238号土坑出土土器



第236・248号土坑、遺構外出土遺物

P L 44



SK 246-282



造構外-299



SK 119-130



SK 227-259



SK 213-238



SK 56-108



SK 56-109



SK 147-171

第56・119・147・213・227・246号土坑、造構外出土遺物



第1号土壤基-304



第1号土壤基-303



第1号土壤基-301



第1号土壤基-302



TM 1-290



SI 8-32



SI 8-31



SI 8-29



SI 1-1



SI 8-25



TM 1-291

第1号土壤基，第1·8号住居跡，第1·3号方形周溝墓出土土器



230



260



229



45



271



84



97



194



177



269



173



遺構外-DP13



遺構外-DP14



遺構外-DP12



遺構外-DP15

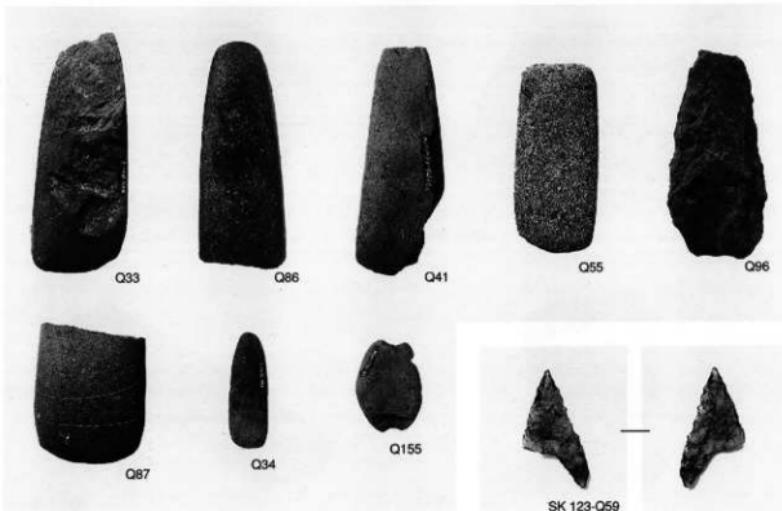
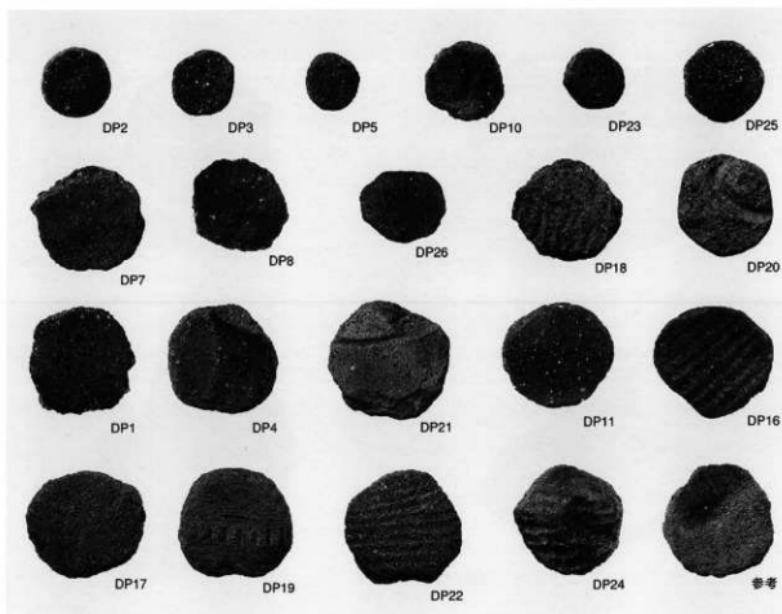


遺構外-DP27

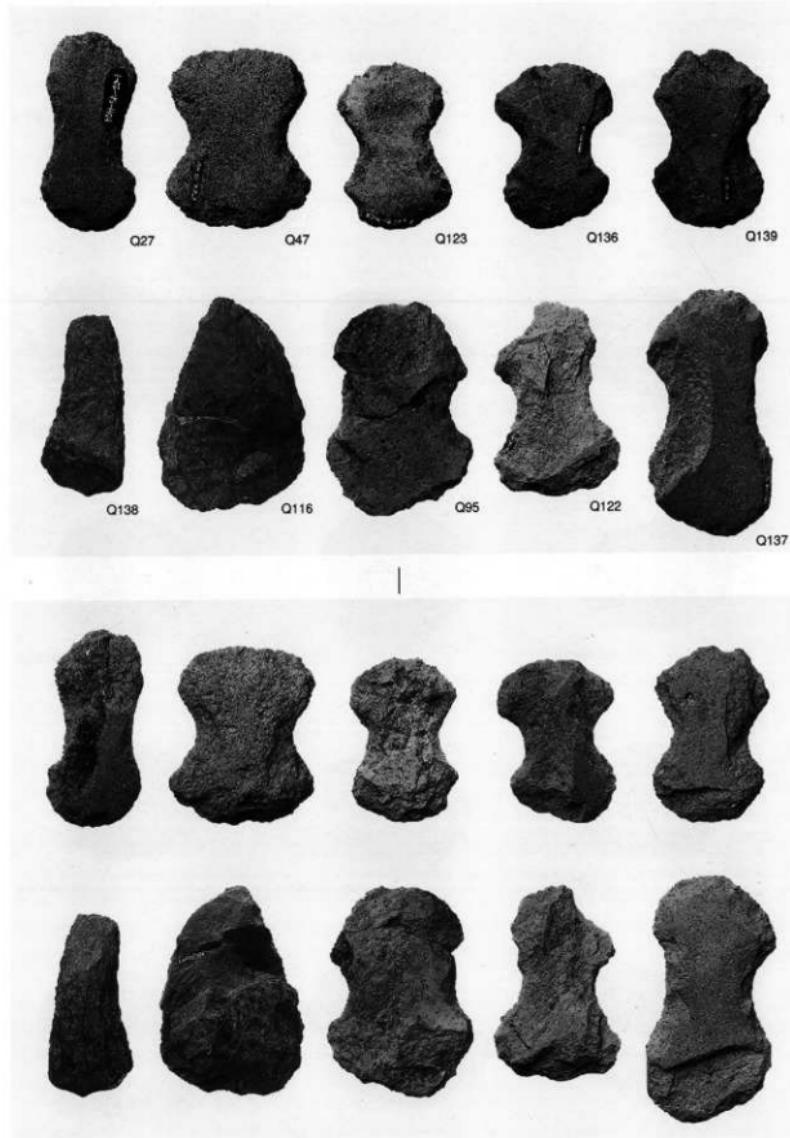


遺構外-Q154

出土土製品（耳飾・耳栓カ・垂飾カ・土偶）、石製品（石劍）



出土土製品（土器円盤）、石器（磨製石斧・石錘・石鎌）



出土石器（打製石斧）

P L 50



SK 131-Q63



SK 40-Q35



SI 7-Q14



SI 9-Q19



SK 4-Q21



SI 5-Q5



SK 18-Q25



SI 5-Q7



SK 80-Q42



SK 86-Q44



SK 126-Q61



SK 134-Q68



SI 5-Q6

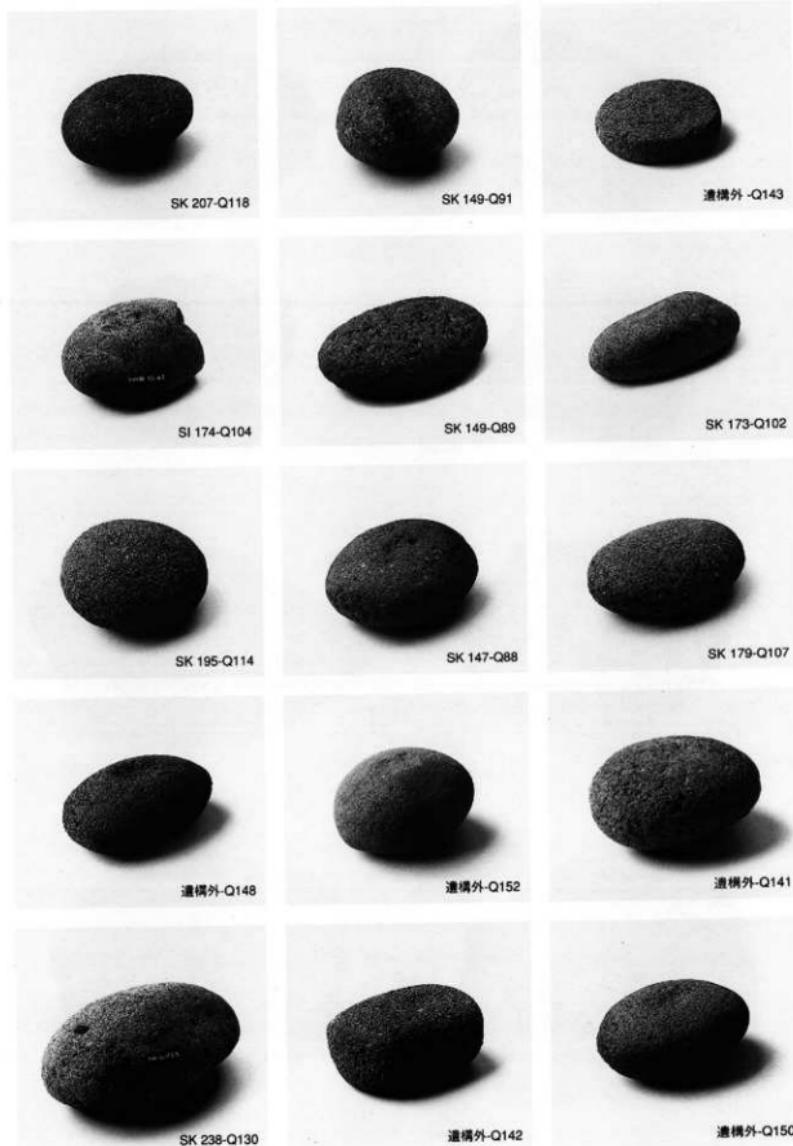


SK 87-Q46



SK 142-Q79

出土石器（磨石・凹石）



出土石器（磨石・凹石）

P L 52



SK 181-Q108



SK 181-Q109



SK 49-Q38



SK 174-Q103



SK 238-Q131



出土石器（石皿）

茨城県教育財團文化財調査報告第218集

堂東遺跡

平成16（2004）年3月24日 印刷

平成16（2004）年3月26日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財團

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番の2

茨城県水戸生涯学習センター一分館内

TEL 029-225-6587

印刷 (株)平電子印刷所

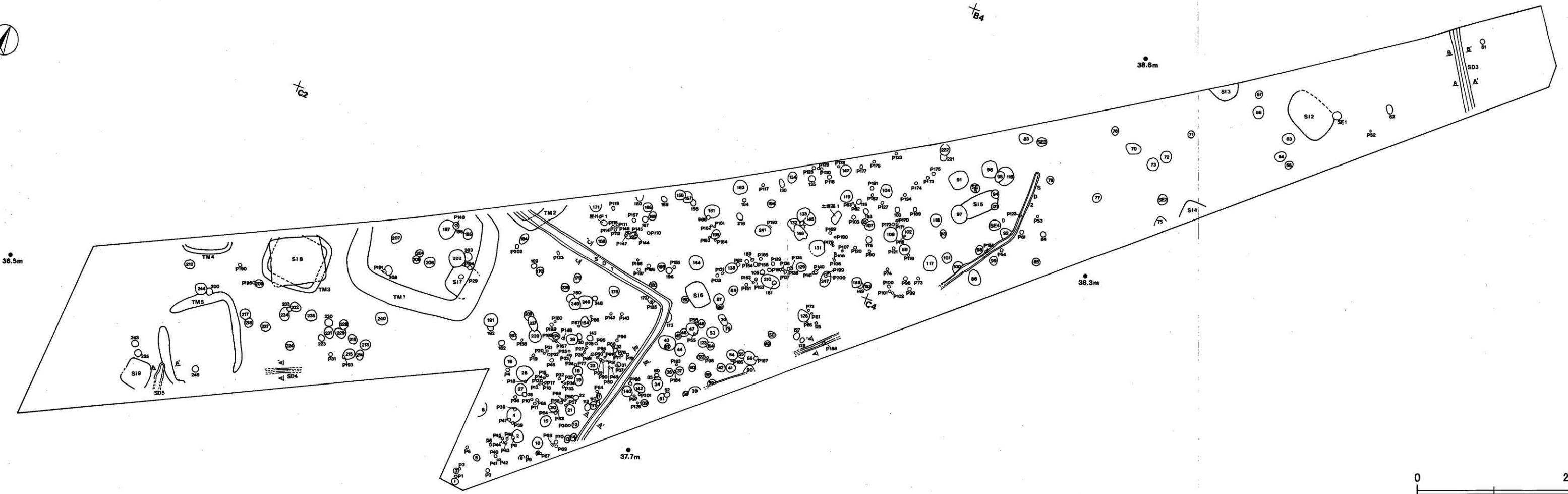
〒970-8024 いわき市平北白土字西ノ内13

TEL 0246-23-9051

付 図

茨城県教育財団文化財調査報告第213集

堂東遺跡遺構全体図



付図 堂東遺跡遺構全体図

「茨城県教育財団文化財調査報告213集 堂東遺跡」